

平成16年度年度計画による自己点検・評価書

項目Ⅰ－1カリキュラム（学部）

（1）観点ごとの自己点検・評価

観点Ⅰ－1－①：中期目標・中期計画に基づいて教養科目等の年度計画が具体的かつ明確に定められ編成されているか。

（観点にかかる状況）

i) 教養科目が適切に配置され、内容的な体系性が確保されているか。

本学の教養教育は、全学の教員が教養教育に関わる全学協力体制を取り、かつ多様な運営方法によって実施されている。平成16年度の教養教育を担当する教員組織と授業科目例を次に示す。〔1〕

- （1） クラス担当教員の組織で担当する科目等（人間教育学セミナー（教職の意義））
- （2） 講座・分野の教員が担当する科目等（スポーツ実践，異文化理解，教育の基礎理論，情報等）
- （3） 講座・分野を越えた教員が連携して担当する科目等（総合演習，表現）
- （4） 本学教員が学外の組織等と連携して担当する科目等（体験学習，教育実地研究Ⅰ（観察参加），）

上記授業科目を含む学際的な分野の開設科目については、授業内容の水準の維持等を図るため、教務委員会に運営部会を設け開設授業科目の責任体制を明確にしている。〔2〕

● 根拠データ

〔1〕「平成16年度 学校教育学部 開設授業科目」

平成16年度 学校教育学部 開設授業科目（抜粋）

〈全専修・コース〉

区 分			科 目 番号		単 位	担 当 教 官	学 期	曜日・ 時限	教 室	備 考
人 間 教 育 学 関 連 科 目	人 間 教 育 学 セ ミ ナ ー I	人 間 教 育 学 セ ミ ナ ー I	1101	人間教育学セミナー (教職の意義)	S 2	藤岡・中村 (光)・林・宮 下・大山・土 谷・小埜・平 野(絹)・大嶽 ・中川(仁)・ 森川・山本 (茂)・高石・ 清水・黎・細 江	前	水1	講301・人 104～107 ・201・20 3～207・2 15・604・ 音201・美 術演習室 ・体205・ 講003	使用教室は 別に掲示し ます。
		人 間 教 育 学 セ ミ ナ ー I	2121	総合演習(多文化社 会論)	S 2	☆北條・田島 ・平野(七)・ 下里	前	水 1	講202	
		人 間 教 育 学 セ ミ ナ ー I	2122	総合演習(子どもの 校外生活と地域父母 組織)	S 2	杵淵	前	水1	講102	
		人 間 教 育 学 セ ミ ナ ー I	2123	総合演習(子どもの 心と教育)	S 2	大山・鈴木 (情)・丸山・	後	金3	講201	

実践的 人間理解 科目	Ⅱ				☆木村・礪波 ・杉浦				
		2124	総合演習（ことばと 社会）	S 2	☆野村・渡部 ・押木・齋藤 （九）・平野 （七）・大場 （浩）	前	金 3	人 2 0 4	
		2125	総合演習（自然と人 間）	S 2	鈴木（敏）・佐 藤（芳）	後	金 3	講 3 0 2	
		2126	総合演習（自然環境）	S 2	西山・天野	後	月 5	講 1 0 3	
		2127	総合演習（芸術社会 教育論）	S 2	茂手木・風巻 ・太田	後	金 3	美410 音 101	
	体験 学習	1101	体験学習	P 2	濁川・中野・ 大悟法・川村 ・西山・榊原 ・高石・立屋 敷・天野・後 藤・釜田・木 村	前・ 後			不定期，ガ イダンス実 施
		2128	ボランティア体験	P 1	大悟法・濁川 ・釜田	前・ 後			不定期，ガ イダンス実 施
	ス ポ ー ツ 実 践	1103	スポーツ実践	P 2	長澤・榊原・ ☆清水・土田	前	水 2 金 2	体育館 他	A・Bグル ープ
		1104	スポーツ実践	P 2	長澤・榊原・ ☆清水・土田	前	火 2 木 2	体育館 他	C・Dグル ープ
		1105	マリンスポーツ	P 1	☆清水・長澤 ・加藤（泰）・ 榊原	前			集中
		1106	スノースポーツ	P 1	☆市川・長澤	後			集中
		1107	伝統スポーツ	P 1	直原・大橋				休講
	観察 ・参 加実 習	1108	教育実地研究Ⅰ（観 察・参加）	P 1.5 I 0.5	濁川・我妻・ 河合・笠原・ 釜田				集中 5/24 ～5/28 2年 次に継続
		2129	教育実地研究Ⅰ（観 察・参加）	I 0.5 P 1.5	大山・濁川・ 丸山	前	水 4	講 2 0 1	A・Bグル ープ 9/8・15・2 2（講義） 9 /27～10/1 （実習） 1 年次から継

									続	
			2130	教育実地研究Ⅰ（観察・参加）	I0.5 P1.5	大山・濁川・丸山	前	水4	講201	C・Dグループ 4/28・5/12 ・19（講義） 5/24～28(実習) 1年 次から継続
	異文化理解		1109	コミュニケーション英語AⅠ	P1	カルテンバック	前	火2	人204	A1・A2 クラス
		1110	コミュニケーション英語AⅠ	P1	前川	前	火2	人105	A3・A4 クラス	
		1111	コミュニケーション英語AⅠ	P1	カルテンバック	前	木2	人204	B1・B2 クラス	
		1112	コミュニケーション英語AⅠ	P1	大場（浩）	前	木2	人205	B3・B4 クラス	
		1113	コミュニケーション英語AⅠ	P1	カルテンバック	前	水2	人204	C1・C2 クラス	
		1114	コミュニケーション英語AⅠ	P1	加藤（雅）	前	水2	人205	C3・C4 クラス	
		1115	コミュニケーション英語AⅠ	P1	カルテンバック	前	金2	人204	D1・D2 クラス	
		1116	コミュニケーション英語AⅠ	P1	齋藤（九）	前	金2	人205	D3・D4 クラス	
		1117	コミュニケーション英語AⅡ	P1	石濱	後	水2	人205	A1・A2 クラス	
人間教育学科 関連科目	実践的人間理解科目	異文化理解	1118	コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	水2	人204	A3・A4 クラス
			1119	コミュニケーション英語AⅡ	P1	平野（絹）	後	木2	人205	B1・B2 クラス
			1120	コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	木2	人204	B3・B4 クラス
			1121	コミュニケーション英語AⅡ	P1	若山	後	火2	人205	C1・C2 クラス
			1122	コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	火2	人204	C3・C4 クラス
			1123	コミュニケーション英語AⅡ	P1	野地	後	金1	人205	D1・D2 クラス
			1124	コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	金1	人204	D3・D4 クラス
			1125	コミュニケーション英語BⅠ	P1	齋藤（九）	前	木2	人207	Aグループ

21126	コミュニケーション英語 B I	P 1	若山	前	火 2	人 2 0 7	B グループ
1127	コミュニケーション英語 B I	P 1	前川	前	金 2	人 2 0 7	C グループ
1128	コミュニケーション英語 B I	P 1	平野 (絹)	前	水 2	人 2 0 7	D グループ
1129	コミュニケーション英語 B II	P 1	野地	後	木 2	人 2 0 7	A グループ
1130	コミュニケーション英語 B II	P 1	齋藤 (九)	後	水 2	人 2 0 7	B グループ
1131	コミュニケーション英語 B II	P 1	石濱	後	金 1	人 2 0 7	C グループ
1132	コミュニケーション英語 B II	P 1	加藤 (雅)	後	火 2	人 2 0 7	D グループ
2131	コミュニケーション英語 C I	P 1	大場 (浩)	前	月 2	人 2 0 5	A グループ
2132	コミュニケーション英語 C I	P 1	若山	前	月 2	人 2 0 6	B グループ
2133	コミュニケーション英語 C I	P 1	前川	前	月 2	人 2 0 7	C グループ
2134	コミュニケーション英語 C I	P 1	野地	前	月 2	人 2 0 8	D グループ
2135	コミュニケーション英語 C II	P 1	石濱	後	火 1	人 2 0 5	A グループ
2136	コミュニケーション英語 C II	P 1	加藤 (雅)	後	火 1	人 2 0 6	B グループ
2137	コミュニケーション英語 C II	P 1	平野 (絹)	後	火 1	人 2 0 7	C グループ
2138	コミュニケーション英語 C II	P 1	大場 (浩)	後	火 1	人 2 0 8	D グループ
1133	ドイツ語コミュニケーション 基礎 I	S 2	平野 (七)	前	月 3	人 2 0 8	A・C グループ
1134	ドイツ語コミュニケーション 基礎 I	S 2	平野 (七)	前	月 4	人 2 0 8	B・D グループ
1135	ドイツ語コミュニケーション 基礎 II	S 2	平野 (七)	後	金 2	人 2 0 8	
2139	ドイツ語コミュニケーション 応用 I	S 2	平野 (七)	前	木 5	人 1 0 5	
2140	ドイツ語コミュニケーション 応用 II	S 2	平野 (七)	後	木 4	人 2 0 8	
2141	中国語・中国事情 I	S 2	黎	前	月 1	講 1 0 2	
2142	中国語・中国事情 II	S 2					休講
2143	ロシア語コミュニケーション	S 2	下里	後	水 2	人 1 0 6	
2144	アメリカ事情	S 2	鈴木 (敏)	前	月 1	人 2 0 8	
2145	韓国語コミュニケーション	S 2	植村				休講
2146	韓国文化論	S 2	植村	前	月 1	音 1 0 2	
2147	ラテン語	S 2	藤澤	前	月 1	人 2 0 7	
2148	国際交流セミナー	S 2	田島	後	木 2	講 1 0 3	
1136	日本語・日本事情 I	S 2	田島	前	月 3	プレゼンテーション室	
1137	日本語・日本事情 II	S 2	田島	後	木 4	プレゼンテーション室	
1138	海外教育研究	P 2	国際交流委員				集中 (/ ~ /

					会				の間で予定)
	憲 法 法と 教育	1139	日本国憲法	L 2	小田桐	後	火 3	講 2 0 2	
基 礎 的 人 間 形 成 科 目 教 育 の 基 礎 理 論	教育 の理 念並 びに 教育 に関 する 歴史 及び 思想	2149	教育本質論	L 2	杵淵	前	金 3	講 2 0 1	
		2150	比較学校史	L 2	増井	前	金 4	人 2 0 4	
		2151	比較教育学	L 2	大前	前	月 3	講 2 0 1	
		2152	発達臨床思想	L 2	杵淵	後	水 1	人 2 0 6	
		2153	教師・授業文化論	L 2	安藤	後	月 3	講 3 0 2	
	幼 児 ・ 児 童及 び生 徒の 心身 の発 達及 び学 習に 過程	1160	障害児教育概論 I	L 2	☆我妻・河合 ・笠原	前	金 4	講 3 0 1	
		2154	教育心理学概論	L 2	内藤	前	火 2	講 1 0 2	
		2155	発達心理学	L 2	阿部(勲)	前	木 4	講 2 0 1	
		2156	児童心理学	L 2	阿部(勲)	後	木 4	人 2 0 5	
		2157	青年心理学	L 2	井沢	後	火 5	人 2 0 3	
	教育 に関 する 社会 的、 制度 的又 は経 営的 事項	3111	学習心理学	L 2	中山	前	水 2	人 2 1 4	
		2158	幼児・障害児教育原 理	L 2	☆我妻・河合 ・笠原・杉浦	前	金 4	講 3 0 1	一部集中(後 期)
		2590	障害児保育	S 2	藤原		月 1	人 1 0 7	
		2159	教育と法規	L 2	若井	後	金 1	講 2 0 1	
		2160	学校組織論	L 2	西	前	火 3	人 2 0 8	
	教育 課程 の意 義及 び編	2161	教育社会学	L 2	藤田	後	木 4	人 1 0 7	
		4101	人権と教育行政	L 2	若井	前	月 3	生徒指導総 合演習室	
		2162	生涯学習概論 A	L 2	大前	前		講 1 0 1	集中
		2153	生涯学習概論 B	L 2	藤田	後	火 3	人 2 0 5	
		2164	社会教育計画 A	L 2	〔板垣 和伸〕	前			集中
	教育 課程 の意 義及 び編	2165	社会教育計画 B	L 2	〔板垣 和伸〕	後			集中
		2166	同和教育	L 2	若井	前	木 1	講 3 0 1	
		2167	教育課程論(総合的 学習を含む。)	L 2	小林(恵)	前	水 2	講 2 0 2	
		2168	幼児の教育課程論	L 2	杉浦	前	木 3	講 1 0 2	

		成の 方法							
基礎的 人間 形成 科目 指導 法の 基礎 理論	基礎的 指導法	12169	道徳の指導法	L 2	林(泰)	後	木 1	講 3 0 1	
	特別活 動の指 導法	2170	教育実地研究Ⅳ（特 別活動の指導法）	L 2	石田(美)	前	水 3	講 3 0 1	
	教育 の方法 及び技 術	2171	教育方法学	L 2	〔坂本〕	前	金 4	講 3 0 1	集中
		2172	学力診断論	L 2	田中(敏)	後	火 3	講 2 0 2, 教育情報訓 練室 1・2	
		3112	教育工学	L 2	南部	後			集中
	保育 内容 の指 導法	2173	保育・音楽表現の指 導法	S 2	大山	後	火 3	講 3 0 1	
		2174	保育・造形表現の指 導法	S 2	松本(健)	後	火 2	美 2 0 7	
		2175	保育・言葉の指導法	S 2	鈴木(情)	後	水 2	講 2 0 1	
		2176	保育・健康の指導法	S 2	下村(義)	後	月 3	体育館・講 2 0 2	
		2177	保育・人間関係の指 導法	S 2	丸山	後	木 2	講 3 0 2	
		2178	保育・環境の指導法	S 2	丸山	後	月 4	講 3 0 2	
		2179	保育の心理と行動	S 2	礪波	後	月 2	講 1 0 2	
相互 コ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目	情報	1140	教育情報演習	S 4	井上	前・ 後	木 1	教育情報 訓練室 1	A 1・A 2・ A 3 クラス
		1141	教育情報演習	S 4	大森	前 後	金 4	教育情報 訓練室 1	B 1・B 2・ B 3 クラス
		1142	教育情報演習	S 4	中野	前・ 後	月 4	教育情報 訓練室 1	A 4・C 1・C 2・ C 3 クラス
		1143	教育情報演習	S 4	石川	前 後	月 2 木 2	教育情報 訓練室 1	D 1・D 2・ D 3 クラス
		1145	教育情報演習	S 4	高野	前・ 後	金 3	教育情報 訓練室 1	B 4・C 4・ D 4 クラス
		2180	情報科学概論	L 2	中野・南部・高 野・井上・大森	前	木 2	講 3 0 1	
	表現	1146	表現・人間学基礎論	L 1	長澤・高本・ 土田・大橋	前	火 1	講 1 0 1, 講 1 0 2, 講 2 0 2	
		1147	表現・相互行為教育	S 1	加藤(泰)・松	前	火 1	体育館,	

			演習		本(健)・阿部 (亮)			講301, 講102	
		1148	表現・状況的教育方法演習	S 2	高石・小川 (昌)・大場(孝)	後	水1	講202, 講102	
		2181	表現・＜子ども＞の活動	P 2	酒井(創)・西村・洞谷・大橋	前	金1 ・2	講201, 講101	講202(2 限のみ使用)
ブ リ ッ ジ 科 目 I	ブ リ ッ ジ 科 目 I	1201	国 語(書写を含む。)	L 2	有澤・野村・ ☆下西・高本 ・小埜・押木 ・中里・渡部	前	金1	講202 講102	C・Dグル ープA・B グループ
		1202	社 会	L 2	佐藤(芳)・浅倉・小田桐	前	火5	講301	
		1203	算 数	L 2	☆黒木・溝上	前	火3	講202	A・Bグル ープ
		1104	算 数	L 2	☆黒木・溝上	前	木1	講201	C・Dグル ープ
		1205	理 科	L 2	室谷・西山・定本・森川・高津戸・下村(博) ・小川(茂)・中村(雅) ・中川(清)・大場(孝) ・天野・☆小林(辰)・庭野	後	月 2	講301, 講201, 講302	
						後	火1	人107	生物・化学 履修者のみ 後半使用
		1206	総合・生活	L 2	☆木村・小林 (毅)	後	金 4	講302	A・Bグル ープ
		1207	総合・生活	L 2	☆木村・小林 (毅)	後	金 4	講202	C・Dグル ープ
		1208	音 楽	P 2	☆山本(茂)・池田・阿部(亮)・茂手木・時得 ・平野(俊)	前・ 後	木3	講301, 音101, 音201, 音301	
		1209	図画工作	S 2	☆洞谷・山ノ下・西村・高石・松尾	前	金3	美207	Aグループ
		1210	図画工作	S 2	☆洞谷・山ノ下・西村・高石・松尾	前	木1	美207	Bグループ
		1211	図画工作	S 2	☆洞谷・山ノ下・西村・高石・松尾	前	火3	美207	Cグループ
		1212	図画工作	S 2	☆洞谷・山ノ	前	金5	美207	Dグループ

				下・西村・高 石・松尾				
	1213	体 育	P 1	☆市川・直原 ・大橋・	前	火 4	体 育 館, 陸 上競技場, トレーニング室, 実践演習室	
			L 1	青木・加藤 (泰)	後	月 1	講 1 0 2 , 講 3 0 2	
	1214	家 庭	L 2	☆滝山・得丸	前	木 5	講 3 0 1	

〔 2 〕「教務委員会に係る開設授業科目の責任体制」

教務委員会に係る開設授業科目の責任体制

平成16年9月17日
第7回教務委員会

学部又は大学院における学際的な分野の開設授業科目については、教育課程の編成方針（平成16年10月13日教育研究評議会）に基づくとともにその責任体制を明確にし、授業内容の水準の維持等を図るため、次のとおりとする。

1 運営部会の設置

新設授業科目の担当教員審査等の取扱い（平成16年10月13日学長裁定）に基づくとともに、授業担当者の人事が関係するため、教務委員会に教務委員会規程（平成16年規程第13号）第10条第1項に基づく専門部会として、運営部会を設置する。

2 設置する運営部会は、次の表のとおりとする。なお、学際的な分野の授業科目の位置付けから新たに運営部会を設置する場合がある。

運 営 部 会	所 掌 授 業 科 目 等					備 考	
	授 業 科 目 名	単位数, 授 業方法等			年 次	協力連携している各講座 等	
		必 修	選 択	自 由			
フレンドシッ プ事業実行委員 会 (部会長：大悟 法教授)	体験学習	P2			1	学習臨床講座 幼児教育講座 自然系教育講座理科分野 芸術系教育講座音楽分野 芸術系教育講座美術分野 生活・健康系教育講座保健 体育分野 生活・健康系教育講座課程 分野 学校教育総合研究センター	
	ボランティア体験		P1		2	学習臨床講座 学校教育総合研究センター	

異文化理解運営 部会 (英語・ドイツ 語関係科目、外 国人留学生対象 科目及び海外教 育研究の科目は 除く。) (部会長：斉藤 (九)教授)	中国語・中国事情Ⅰ		S2		2	生活・健康系教育講座技術 分野
	中国語・中国事情Ⅱ			S2	2	
	ロシア語コミュニケーション		S2		2	社会系教育講座
	アメリカ事情		S2		2	
	韓国語コミュニケーション		S2		2	芸術系教育講座音楽分野
	韓国文化論		S2		2	
	ラテン語		S2		2	社会系教育講座
	国際交流セミナー		S2		2	学習臨床講座
学芸員・社会教 育主事資格運営 部会 (部会長：大悟 法教授)	博物館概論			L2	2	学習臨床講座
	博物館経営・情報論			L2	2	
	博物館資料論			L2	2	社会系教育講座 自然系教育講座理科分野 芸術系教育講座音楽分野 芸術系教育講座美術分野
	博物館実習			P3	3	
	社会教育計画A		L2		2	
	社会教育計画B		L2		2	
	社会教育演習Ⅰ			S2	3	生徒指導総合講座 学校教育総合研究センター
	社会教育演習Ⅱ			S2	3	
	生涯学習概論A		L2		2	学校教育総合研究センター
	生涯学習概論B		L2		2	
	教育工学		L2		3	学校教育総合研究センター
	教育本質論		L2		2	生徒指導総合講座
学校図書館司書 教諭資格運営部 会 (部会長：下西 教授)	学校経営と学校図書館			L2	3	生徒指導総合講座
	学校図書館メディアの構 成			L2	3	学習臨床講座
	学習指導と学校図書館			L2	3	学習臨床講座 言語系教育講座国語分野 自然系教育講座数学分野
	読書と豊かな人間性			L2	3	
	情報メディアの活用			L2	3	学校教育総合研究センター
表現運営部会 (部会長：加藤 (泰)教授)	表現・人間学基礎論	L1			1	言語系教育講座国語分野 生活・健康系教育講座保健 体育分野
	表現・相互行為教育演習	S1			1	
						学習臨床講座 芸術系教育講座音楽分野 生活・健康系教育講座保健

					体育分野
	表現・状況的教育方法演習	S2		1	芸術系教育講座音楽分野 芸術系教育講座美術分野
	表現・〈子ども〉の活動	P2		2	芸術系教育講座音楽分野 芸術系教育講座美術分野 生活・健康系教育講座保健 体育分野
子どもの学び運営部会				—	学習臨床講座
(部会長：戸北副学長)	学習臨床学特論		I2	—	
子どものこころのケア運営部会	臨床実践援助法		I2	—	心理臨床講座
(部会長：星名教授)	学校実践解析法		I2	—	
人間教育学セミナー運営部会	人間教育学セミナー（教職の意義）	S2		1	クラス担当教官が担当
教職科目関連運営部会	学部の特修・コースを対象とする授業科目のうち、教育職員免許法上の「教職に関する科目」、同法施行規則第66条の6に定める科目及びブリッジ科目Ⅰの科目（他の運営部会の所掌授業科目を除く。）				各授業担当者の所属講座

注) ①授業科目「人間教育学セミナー（教職の意義）」は、上越教育大学クラス制度に関する要項（昭和56年3月18日学長裁定）に基づき運営されている。

②「協力連携している各講座等」とは、平成16年度授業担当者等に基づき表記してあるが、今後授業科目の運営に際し、授業担当者等に関わる協議により変更する場合がある。

3 運営部会の構成員

- (1) 構成員は、各授業科目担当者等とし、各部会に部会長を置く。
- (2) 各部会長は、教務委員会委員長が指名する。

4 運営部会の所掌事項等

- (1) 授業科目の新設、廃止、名称変更、内容の充実及び授業担当者等を教務委員会に提案する。
- (2) 授業担当者の異動等により開講できない場合や担当者を変更する場合等は、関係する各講座及び分野等と協議の上、教務委員会に提案する。

5 この責任体制については平成16年度から実施するものとする。

- 6 企画委員会に係る開設授業科目の責任体制（平成14年11月6日第17回企画委員会）は、
廃止する。

ii) 教育課程の編成が授与される学位との関係で適切なものとなっているか。

各授業科目の編成に当たっては、新構想の教員養成大学である本学の設置の趣旨及び教育理念を踏まえ、
大学設置基準第19条の教育課程の方針に従って、学生が修学上効果的に履修できるよう「教育課程の編成方
針」が作成されている。

各講座等は授業科目の開設等について教務委員会に提案し、教務委員会は、各講座等から提案された案を、
全学的視点に立って審議するものである。〔3〕

● 根拠データ

〔3〕「教育課程の編成方針」

教育課程の編成方針

平成16年10月13日
第11回教育研究評議会

1 本学教育課程の編成の基本方針

- (1) 教養教育については、「幅広く深い教養」、「総合的な判断力」、「豊かな人間性」
の目的を重視し、その目的に即した専門教育と連携させて授業科目を編成する。
- (2) 各講座等における授業科目の編成に当たっては、新構想の教員養成大学である
本学の設置の趣旨及び教育理念を踏まえ、大学設置基準第19条の教育課程の編
成方針に従って、在学生の修学上効果的に履修できるように編成するものとする。

注) 各講座とは、次のものをいう。

- ①講座・分野（専修（専攻）・コース・分野等に関する授業科目）
②教務委員会（教育実習に関する授業科目及び学際的な分野の授業科目）
③国際交流推進室（海外教育研究に関する授業科目）
⑤情報基盤センター運営委員会（情報教育に関する授業科目）

2 教育課程の原則

入学時の教育課程は、当該学生が卒業・修了するまで保証されるものである。

3 教育課程の責任体制

上記1及び2に基づき、各講座等で責任をもって運営するものとする。

4 その他

(1) 授業科目の開設等の手続方法

- ① 各講座等は、授業科目の開設等（新設、改廃、名称変更等）について教務委
員会に提案する。
- ② 教務委員会は、各講座等から提案された案を、全学的視点に立って審議する
ものとする。

(2) この教育課程の編成方針案は大学院の教育課程にも準用するものとする。

iii) 授業科目の年次配当などが、適切なものになっているか。

現行カリキュラムは、実践的な他者理解と現代社会における文化、社会、自然等についての理解を目指す
「人間教育学科目群」（1，2年次）。子どもの学習過程を適切にとらえ、子どもの行為のすじみちに基づ

いて学習成立を支援する実践的能力を、教育実習とセミナーを軸に養成する「教育実践学科目群」（3，4年次）の2つの科目群により、セミナー・教育実習・教職に関する専門科目・教科に関する専門科目を、横断的に構成するカリキュラムとしている。〔1〕，〔4〕，〔5〕

また、教育実習は、本学が大変重視している科目で、さまざまな実習の内容を含め、大幅に充実している。幼児・児童と直接触れ合う機会の実習が体系的に開設され、本学で修得した専門性が、教育現場で必要とする実践能力へと具体化するように編成されている。1年次～4年次まで段階的、発展的に履修できることとなり、上越市内及び近隣市町村の協力学校、本学の附属学校（園）、学校教育総合研究センターで実施している。〔6〕

● 根拠データ

〔1〕「平成16年度 学校教育学部 開設授業科目」 略

〔4〕「上越教育大学学校教育学部履修規程」

上越教育大学学校教育学部履修規程（抜粋）

（授業科目の区分）

第6条 授業科目の区分・内容は、次の表に掲げるとおりとする。

授業科目の区分	内 容
人間教育学関連科目	教員の原点である人間理解を、体験と観察・参加を通じて実践的に深めることを目的とする科目群である。
相互コミュニケーション科目	初等教員として求められている教育的情報処理能力と表現能力を育成するための科目群である。
ブリッジ科目	十分な基礎学力を補習するとともに初等の教科専門性を培い、さらに専門科目への橋渡しをするための科目群である。
教育実践科目	各教科の指導法、ガイダンス及び教育実習によつて教育実践力を養成することを目的とする科目群である。
専門科目	各専修・コースごとに専門科目、専門セミナー及び実践セミナーから構成され、総合的かつ専門的な問題解決能力の形成を目指すための科目群である。
卒業研究	専修・コースの専門科目に関する修業を集約発展させて、その成果をまとめあげるための科目である。

〔5〕「授業科目、単位数、標準履修年次等一覧表」

授業科目、単位数、標準履修年次等一覧表（抜粋）

（1）全専修・コース

区 分	授業科目	単位数及び 授業方法	必修・選択等の区分			標準履 修年次	備 考
			必修	選択	自由		
教 育 実 践 科 目	各教科の指導法	初等国語科指導法	L1・S1	2		3	
		初等社会科指導法	L1・S1	2		3	
		算数科指導法	L1・S1	2		3	
		初等理科指導法	L1・S1	2		3	
		総合・生活科指導法	L1・S1	2		3	
		初等音楽科指導法	L1・S1	2		3	

		図画工作科指導法	L1・S1	2			3	
		初等体育科指導法	L1・S1	2			3	
		初等家庭科指導法	L1・S1	2			3	
	教育実習	教育実地研究Ⅱ（授業 基礎研究）	S 2	2			2. 3	
		教育実地研究Ⅲ（初等 教育実習）	P 4	4			3	
		教育実地研究Ⅳ（中等 教育実習）	P 4			4	4	
卒業要件			S 4	4			4	

『平成16年度 入学者用 履修の手引 p17』

（２）学校教育専修 学習臨床コース〈専攻する分野：教育方法臨床〉

区 分		授業科目	単位数及び 授業方法	必修・選択等の区分			標準履 修年次	備 考
				必修	選択	自由		
ブリ ッジ 科目	ブリッジ科 目Ⅱ	学習臨床入門	L 2	2			2	
専 門 科 目	専門科目	学習臨床概論A	L 2	2			2	20単位以上を修得すること。
		学習臨床概論B	L 2	2			2	
		教育方法学	L 2		2		2	
		学習指導論	L 2		2		3	
		学習心理学	L 2		2		3	
		授業の心理学	L 2		2		3	
		学力診断論	L 2		2		2	
		学校組織論	L 2		2		2	
		学級経営の心理学	L 2		2		4	
		学校文化論	L 2		2		3	
		現代子ども論	L 2		2		3	
		社会心理学	L 2		2		3	
		比較教育改革史	L 2		2		2	
		教科・教材基礎論	L 2		2		3	
		授業研究法	L 2		2		3	
		学級コミュニケーション論	L 2		2		3	
	専門セミナー	学習臨床セミナーⅠ	S 4	4			3	
		学習臨床セミナーⅡ	S 4	4				
	実践セミナー	実践セミナーⅠ「学習 臨床」	S 2	2			3	
		実践セミナーⅡ「学習 臨床」	S 2	2			4	

教育方法臨床分野を専攻する学生が、ブリッジ科目Ⅱ及び専門科目において修得を要する単位数	34単位
---	------

『平成16年度 入学者用 履修の手引 p18』

〔6〕「平成16年度教育実習実施計画一覧表」

平成16年度教育実習実施計画

学校教育学部

学年	日	程	等
1年	5/24(月)～28(金)	観察・参加	
	前半グループ	後半グループ	
	・特殊教育諸学校 24・25日	・附属中学校 25日	
	・小学校教育実習協力校(牧・浦川原村) 26日	・特殊教育諸学校 26・27日	
	・附属中学校 27日	・小学校教育実習協力校(三和村) 28日	
2年	5/24(月)～28(金)	9/27(月)～10/1(金)	
	観察・参加 C・Dグループ	観察・参加 A・Bグループ	
	・幼稚園教育実習協力園・附属幼稚園	・幼稚園教育実習協力園・附属幼稚園	
3年	5/31(月)～6/4(金)	9/21(火)～10/8(金)	
	初等教育実習「観察実習」	「本実習」	
	・小学校教育実習協力校・附属小学校		
4年	5/17(月)～6/4(金)	10/21(木)～11/2(火)	
	中学校教育実習	専修教育実習	
	・中学校教育実習協力校・附属中学校	・附属幼稚園	
		11/8(月)～18(木)	
		専修教育実習	
		・附属幼稚園	

『第310回教授会(15,12,17)資料』

iv) 教育の目的に照らして、必修科目、選択科目等が適切に設定されているか。

学校教育学部には、小学校教員及び幼稚園教員を養成する「初等教育教員養成課程」が置かれ、学校教育専修(学習臨床コース、発達臨床コース)、幼児教育専修、教科・領域教育専修(言語系コース、社会系コース、自然系コース、芸術系コース、生活・健康系コース、)の3専修・7コースで組織されている。初等教育全般にわたり総合的な理解を深化させ、初等教育教員としての資質、能力の向上を図ることとしている。

また、本学の実習課程は、幼稚園教育との連続性を考慮に入れながら小学校教育を中心とし、さらに中等教育も含めた初等・中等教育全体について十分な理解と専門的能力を有する教員の養成を目指しており、小学校教諭の普通免許状及び希望により幼稚園、中学校、高等学校の普通免許状も併せて取得できるように編成されているため、各免許状取得要件であるための必修科目、選択科目等を考慮しながら設定されている。〔7〕

〔8〕

● 根拠データ

〔7〕「教員免許課程認定審査基準」

教員免許課程認定審査基準(抜粋)

平成13年7月19日

教員養成部会決定

一部改正 平成16年6月23日

2 教育上の基本組織

(学科等)

- (1) 教員免許課程は、大学、大学院又は大学の専攻科の学部、学科、課程、専攻等（以下「学科等」という）ごとに認定するものとする。
- (3) 小学校又は幼稚園の教員を養成する場合には、教員養成を主たる目的とする学科等が設けられていなければならない。

(科目)

- (5) 認定を受けようとする学科等においては、免許状の種類に応じ、教育職員免許法施行規則に規定する当該免許状の授与に必要な科目について、教育職員免許法施行規則第6条の表備考第3号並びに第22条第2項及び第3項の規定による場合のほかは、すべて開設することを原則とする。
- (6) 教科に関する科目、特殊教育に関する科目又は養護に関する科目についたは、一般的・包括的な内容を含む科目が用意されていなければならない。
- (7) 教育職員免許法施行規則第3条の表備考第3号により1以上又は2以上の科目について修得するものとされる科目群（「 」内の科目）については、それぞれ1以上又は2以上の科目を開設しなければならない。

(小学校又は幼稚園の教員養成に関する科目)

- (8) 小学校教員の養成を行う大学の学科等においては、全教科についての教科に関する科目及び全教科についての教科の指導法に関する科目を置くこととする。また、各教科の指導法に関する科目は、各教科の内容に関する一般的・包括的な学修を含むものでなければならない。

[8] 「課程認定申請書」

様式第2号

認定を受けようとする大学の課程の概要に関する書類（抜粋）

認定を受けようとする学部・学科等の教育課程及び教員組織の概要（教科に関する科目）									
課程認定を受けようとする学部・学科等		認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目		専任教員			備考
学部	学科等			授業科目	単位数	教授	助教授	講師	
学校教育学部	初等教育教員養成課程 小一種免 1 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教科に関する科目 8 単位 ・教職に関する科目 4 1 単位 ・教科又は教職に関する科目 1 0 単位 幼一種免 1 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教科に関する科目 6 単位 ・教職に関する科目 3 5 単位 ・教科又は教職に関する科目 1 0 単位 2 学 位 学士（教育学）	小一種免 幼一種免		国語（書写を含む。）	2		高木 條治		
				社会	2	赤羽 孝之			小 1 種免のみ
				算数	2	黒木 伸明 溝上 武貴			
				理科	2		庭野 義英		小 1 種免のみ
				生活	2		木村 吉彦		
				音楽	2	茂手木深子	池田 操 平野 俊介 後藤 丹		
				図画工作	2		洞谷亜里佐		
				体育	2		加藤 泰樹		
				家庭	2			得丸 定子	小 1 種免のみ

認定を受けようとする学部・学科等の教育課程及び教員組織の概要（教科又は教職に関する科目）									
課程認定を受けようとする学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		専任教員			備 考
学 部	学 科		単位数	授 業 科 目	単位数	教 授	助 教 授	講 師	
学校教育学部	初等教育教員養成課程	教科又は教職に関する科目	小1.0 幼1.0	体験学習	2				「教科又は教職に関する科目」の必修科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」、若しくは「教職に関する科目」について、併せて小8、幼8単位以上修得
	1免許状取得に必要な最低修得単位数			ボランティア体験 学校経営と学校図書館	1				
				学校図書館メディアの構成	2				
	・教科に関する科目 小一種免 8単位 幼一種免 6単位			学習指導と学校図書館	2				
				読書と豊かな人間性	2				
				情報メディアの活用	2				
	・教職に関する科目 小一種免 41単位 幼一種免 35単位								
	・教科又は教職に関する科目 小一種免 10単位 幼一種免 10単位								
	2学 位 学士 (教育学)								

教育職員免許法施行規則第66条の5に定める科目

課程認定を受けようとする学部・学科等		免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目	
学 部	学 科	科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
学校教育学部	初等教育教員養成課程	日本国憲法	2	日本国憲法	2
		体育	2	スポーツ実践 マリンスポーツ スノースポーツ 伝統スポーツ	2 1 1 1
		外国語コミュニケーション	2	コミュニケーション英語AⅠ コミュニケーション英語AⅡ コミュニケーション英語BⅠ コミュニケーション英語BⅡ コミュニケーション英語CⅠ コミュニケーション英語CⅡ	1 1 1 1 1 1
		情報機器の操作	2	教育情報演習	4

認定を受けようとする学部・学科等の教育課程及び教員組織の概要（教職に関する科目）											
教職に関する科目の開設体制	免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目			専任教員			備考	
				授業科目	単位数		教授	助教授	講師		
	科目	各科目に含める必要事項	単位数		時	限					
大学としては共通に開設しているが、一部専修・コースに開設	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2 小一種 幼一種	人間教育学セミナー（教職の意義）	2		西 穰司 （細井 房明） （二谷 貞夫）	（古賀 一博）	（井沢功一朗）		
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6 小一種 幼一種	教育本質論 比較教育学 教師・授業文化論 教育と法規 比較学校史 発達臨床思想 表現・人間学基礎論	2 2 2 2 2 2 1		杵瀬 俊夫 （西 穰司） 若井 彌一	古賀 一博		1 科目選択必修（教育に関する社会的、制度的又は経済的事項を含む。） 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学概論 発達心理学 児童心理学 青年心理学 学習心理学 幼児・障害児教育原理	2 2 2 2 2 2		（小松 美加） 阿部 熱 （阿部 熱） 中山勘次郎 河合 康 （細井 房明） 我妻 敏博	井沢功一朗		1 科目選択必修	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		学校組織論 教育社会学 人権と教育行政 生涯学習概論 A 生涯学習概論 B 社会教育計画 A 社会教育計画 B 同和教育	2 2 2 2 2 2 2 2		（西 穰司） 新井 郁男 （若井 彌一） （新井 郁男） （新井 郁男） （新井 郁男） （新井 郁男）				
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法		教育課程論（総合的学習を含む。） ○幼児の教育課程論	2 2		細井 房明	小林 恵			幼 1 種免のみ
		・各教科の指導法	2 2 小一種	初等国語科指導法 初等社会科指導法 算数科指導法 初等理科指導法 生活科指導法 初等音楽科指導法 図画工作科指導法 初等体育科指導法 初等家庭科指導法	2 2 2 2 2 2 2 2 2		有澤俊太郎 二谷 貞夫 戸北 凱惟 南館 忠智 重嶋 博 太田 将勝 丸山 芳郎 佐藤 文子	布川 和彦			
		・道徳の指導法		道徳の指導法	2			林 泰成			
	・特別活動の指導法		教育実地研究Ⅳ（特別活動の指導法）	2		犬塚 文雄					
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法学 学力診断論 教育学 表現・相互行為教育演習 表現・状況的教育方法演習	2 2 2 1 2		高田喜久司	田中 敏 （南部 昌敏） （松本 隆義）			1 科目選択必修	

認定を受けようとする学部・学科等の教育課程 及び教員組織の概要（教職に関する科目）												
教職に 関する 科目の 開設体 制	免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		専 任 教 員			備 考			
	科 目	各科目に含める必要事項	単位数	授 業 科 目	単位数	教 授	助 教 授	講 師				
大学と しては 共通に 開設し ている が、一 部専修 ・コースに開 設	教育課 程及び 指導法 に関する 科目	教育の方法及び技術（情報 機器及び教材の活用を含 む。）	—2-2— 小一種	創造行為と学習過程	2	(戸北 凱惟)	(松本 健義)		必修科目 は、学習 臨床コー ス（特選 励励）の学 生が修得 する場合 のみ適用			
				学習場面観察基礎	2							
				学習場面臨床学	2							
				教育臨床演習Ⅰ	2							
				教育臨床演習Ⅱ	2							
				学習臨床カウンセ リング基礎Ⅰ	2							
				学習臨床カウンセ リング基礎Ⅱ	2							
				学習と相互行為	2							
				学習と言語	2							
				学習と表現	2							
				臨床的学習成立セ ミナーⅠ	4							
				臨床的学習成立セ ミナーⅡ	4							
				臨床的学習過程・ 開発セミナーⅠ	4							
				臨床的学習過程・ 開発セミナーⅡ	4							
				子どもの発達支援 方法論演習	2					(細井 房明) (大山美和子) (鈴木 情一) (南館 忠智)	(丸山 良平) (松本 健義)	1科目選 択必修 は、幼児 教育専修 の学生が 修得する 場合のみ 適用
				子どもの学習支援 方法論演習	2							
			18 幼一種	教育方法学	2	高田喜久司	田中 敏 (南部 昌敏) (松本 健義)		1科目選 択必修			
				学力診断論	2							
				教育工学	1				必修科目 は、学習 臨床コー ス（特選 励励）の学 生が修得 する場合 のみ適用			
				表現・相互行為教 育演習	2							
				表現・状況的教育 方法演習	2							
				創造行為と学習過程	2	(戸北 凱惟)	(松本 健義)					
				学習場面観察基礎	2		(布川 和彦) (松本 健義) (布川 和彦) (松本 健義) (布川 和彦) (松本 健義) (布川 和彦) (松本 健義) (松本 健義)					
				学習場面観察基礎	2							
				学習場面臨床学	2							
				教育臨床演習Ⅰ	2							
				教育臨床演習Ⅱ	2							
			学習臨床カウンセ リング基礎Ⅰ	2								
			学習臨床カウンセ リング基礎Ⅱ	2								
			学習と相互行為	2								
			学習と言語	2								
			学習と表現	2	(松本 健義) (布川 和彦) (松本 健義) (布川 和彦)							
			臨床的学習成立セ ミナーⅠ	4								
			臨床的学習成立セ ミナーⅡ	4								
			臨床的学習過程・ 開発セミナーⅠ	4	(戸北 凱惟)	(戸北 凱惟)			1科目選 択必修 は、幼児 教育専修 の学生が 修得する 場合のみ 適用			
			臨床的学習過程・ 開発セミナーⅡ	4								
			子どもの発達支援 方法論演習	2	(細井 房明) (大山美和子) (鈴木 情一) (南館 忠智)	(丸山 良平) (松本 健義)	1科目選 択必修 は、幼児 教育専修 の学生が 修得する 場合のみ 適用					
子どもの学習支援 方法論演習	2											

認定を受けようとする学部・学科等の教育課程 及び教員組織の概要（教職に関する科目）										
教職に関する 科目の 開設体制	免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		専任教員			備考	
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数		教授	助教授		講師
					部	課				
大学としては 共通に 開設しているが、 部専修・コースに開設	教育課程及び指導法に関する科目	・保育内容の指導法	1.8 幼一種	保育・音楽表現の指導法		2	大山美和子			1科目選択必修
				保育・造形表現の指導法		2		松本 健義		
				○保育・言葉の指導法		2	鈴木 情一			
				○保育・健康の指導法		2				
				○保育・人間関係の指導法		2	(細井 房明)			
				○保育・環境の指導法		2		丸山 良平		
				保育の心理と行動		2	(南館 忠智)			
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	4 小一種	教育実地研究Ⅵ（生徒指導論）		1	(犬塚 文雄)			
		・進路指導の理論及び方法		教育実地研究Ⅶ（進路指導論）		1	(新井 郁男)			
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育実地研究Ⅴ（カウンセリング論）		2		勝倉 孝治	田中 輝美	
		・幼児理解の理論及び方法	2 幼一種	○幼児理解と心の問題		2	(鈴木 情一)			
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育実地研究Ⅴ（カウンセリング論）		2		勝倉 孝治	田中 輝美	
	総合演習		2 小一種 幼一種	総合演習（多文化社会論）		2	(二谷 貞夫)			1科目選択必修
				総合演習（子どもの校外生活と地域父母組織）		2	(杵淵 俊夫)	(阿部 勲)		
				総合演習（子どもの心と教育）		2	(細井 房明) (南館 忠智) (大山美和子) (鈴木 情一)	(丸山 良平) (松本 健義)		
				総合演習（ことばと社会）		2				
				総合演習（自然と人間）		2				
				総合演習（自然環境）		2				
				総合演習（芸術社会教育論）		2	(太田 将勝)			
	教育実習		5 小一種 幼一種	教育実地研究Ⅰ（観察・参加）		2	(細井 房明) (大山美和子)	濁川 明男		事前・事後指導を含む 必修科目は、幼児教育専修の学生が修得する場合のみ適用
				教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究）		2	中野 靖夫	南部 昌敏 (濁川 明男) 菅岡 強司		
				教育実地研究Ⅲ（初等教育実習）		4	(戸北 凱惟) (二谷 貞夫)			
				教育実地研究Ⅶ（中等教育実習）		4	(戸北 凱惟) (二谷 貞夫)			
				幼稚園専修教育実習		2	(細井 房明) (南館 忠智) (大山美和子) (鈴木 情一)	(松本 健義) (丸山 良平)		

v) 学生の多様なニーズに対応できる教育課程の編成に配慮しているか。

本学は、学則第47条で他大学等における授業科目の履修等を認めることは導入されており、現在、長岡技術科学大学（平成13年度）及び放送大学（平成14年度）と単位互換協定を締結している。〔9〕、〔10〕、〔11〕

また、平成16年度には、新潟県内高等教育機関懇談会において、学生の多様な学習意欲に応えるため、各高等教育機関の特色を生かした多様な授業科目の履修機会の拡大を図るとともに、相互に連携・協力し、より効果的な教育成果を上げるため「新潟県内高等教育機関における単位互換の推進に関する合意書」を締結した。

〔12〕

本学の専門科目において、教科や教職の専門的知識や技能を実践の教育実践場面で具体的に応用できる臨床的な指導法と教材開発技能を修得する、「実践セミナー」を設定している。これは、大学院の共通科目にある「実践場面分析演習」と連携しており、教育実習等の具体的な授業場面から個々の具体的な疑問点等を洗い出し、現職教員を含む合同で討議することによって、学部学生がより一層の臨床的力量を形成するものである。

〔13〕、〔14〕

教育職員免許状のほかに、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭及び保育士の資格取得のための授業科目が開設されている。〔15〕、〔16〕、〔17〕、〔18〕

また、平成13年度には学生による授業評価の一つとして本学カリキュラム改善点のためのアンケート調査を実施している。〔19〕

● 根拠データ

〔9〕「上越教育大学学則」

上越教育大学学則（抜粋）

（他の大学等における授業科目の履修等）

第47条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）との協議に基づき、学生が当該他大学等の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により学生が他大学等において履修した授業科目について修得した単位は、教授会の議の基づき、60単位を超えない範囲で本学の学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学（以下「外国の大学」という。）に留学する場合に準用する。

〔10〕「単位互換に関する協定書」

上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する協定書

上越教育大学と長岡技術科学大学は、両大学間の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、両大学の学生が、それぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することについて合意に達したので、ここに単位互換協定（以下「協定」という。）を締結する。

（学生の受入身分）

- 1 両大学は、この協定により受け入れる学生は「特別聴講学生」とする。

（受入時期及び履修期間）

- 2 特別聴講学生の受入時期は、別に定める。
- 3 特別聴講学生の履修期間は、1年以内とし、当該年度を超えないものとする。

（授業科目の範囲及び単位数）

- 4 履修できる授業科目の範囲及び単位数は、別に定める。

（受入学生数）

- 5 両大学が受け入れる特別聴講学生数は、別に定める。

（受入手続）

- 6 特別聴講学生の受入手続は、別に定める。

（単位の認定方法等）

- 7 履修した授業科目の成績評価及び単位の認定は、受入大学の定めるところによる。
- 8 修得した単位の認定の取扱いは、派遣大学の定めるところによる。

（実施期日）

- 9 この協定による取扱いは、協定書締結年月日から実施する。

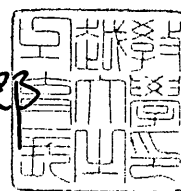
（その他）

- 10 上記の他、単位互換に関し履修上必要な事項は両大学が協議の上、別に定める。
- 11 この協定書の改廃については、両大学の学長間の協議によるものとする。

平成13年11月29日

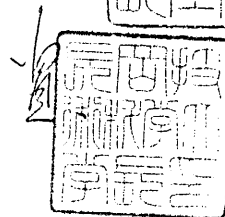
上越教育大学長

大澤 健郎



長岡技術科学大学長

飯部



上越教育大学と放送大学との間における
単位互換に関する協定書

上越教育大学及び放送大学は、双方の大学の規則に定めるところにより、両大学の学生が、それぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認めることとし、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

(受入れ)

第1条 放送大学に在学する学生が、上越教育大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、上越教育大学長は当該学生を受け入れることができる。

2 上越教育大学に在学する学生が、放送大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、放送大学長は当該学生を受け入れることができる。

(特別聴講学生)

第2条 両大学は、前条により受け入れた学生を「特別聴講学生」として取り扱う。

(履修期間)

第3条 特別聴講学生の履修期間は、上越教育大学においては授業科目の開講期間ごととし、放送大学においては1学期間ごととする。

(授業科目の範囲及び単位数)

第4条 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、別に定める。

(学生数)

第5条 両大学の受け入れる学生数は、別に定める。

(受入れ手続)

第6条 特別聴講学生の受入れ手続は、別に定める。

(単位の授与等)

第7条 特別聴講学生の履修方法、単位の授与等については、受入れの学生の場合と同様とする。

(授業料等)

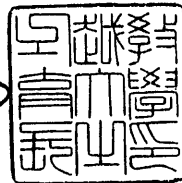
第8条 上越教育大学においては、特別聴講学生の授業料は、国立大学における授業料その他の費用に関する省令に係る通達に定める額とし、検定料及び入学料は徴収しない。

2 放送大学においては、特別聴講学生の授業料は、放送大学学則に定める額とし、入学料は徴収しない。

平成14年 7月18日

上越教育大学長

大澤 健郎



放送大学長

丹保 憲仁



上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する実施要項

上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する協定書第10項の規定に基づき、両大学は、単位互換に関する履修上必要な事項を定めるものとする。

1 申請資格

特別聴講学生として申請できる者は、両大学に在学する2年次以上の学部学生及び大学院学生とする。

2 受入時期及び履修期間

(1) 特別聴講学生の受入時期は、当該学生の履修する授業科目の開講期間の始めとする。

(2) 特別聴講学生としての履修期間は、当該学生の履修する授業科目の開講期間とする。

3 履修科目の範囲及び単位数

(1) 受入大学は、特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲を定め、所定の期日までに派遣大学に通知する。

(2) 特別聴講学生が履修できる単位数の上限は、派遣大学において定めるものとする。

(3) 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の計算については、派遣大学において定めるものとする。ただし、教職科目（教員免許取得要件）への認定は、同一の課程認定を有していることを条件とする。

4 受入学生数

受け入れる特別聴講学生数は、各授業科目毎に受入大学が定め、所定の期日までに派遣大学に通知する。

5 特別聴講学生の受入手続

(1) 特別聴講学生を希望する学生は、派遣大学の定める期間に申請手続を行う。

(2) 派遣大学は、授業科目毎に希望学生を取りまとめ、所定の期日までに受入大学長へ受入依頼する。

(3) 受入大学は、所定の期日までに受入通知書を派遣大学へ送付する。

(4) 派遣大学は、速やかに受入通知書を希望学生に送付する。

(5) 受入通知書を受領した学生は、所定の期日までに受入大学の定める特別聴講学生の入学手続を行う。

(6) 受入大学は、入学手続を完了した特別聴講学生の入学を許可する。

6 学生証の交付

受入大学は、受入学生に対し特別聴講学生証を交付する。

7 ガイダンスの実施及び履修登録

(1) 派遣大学は、特別聴講学生を希望する学生に対し、単位互換の実施に関するガイダンスを行う。

(2) 受入大学は、特別聴講学生に対し、履修方法等に関するガイダンスを行う。

(3) 特別聴講学生の履修手続は、ガイダンスにおいて行う。

8 試験の実施方法

(1) 試験の取扱い等の実施については、受入大学の定めるところによる。

(2) 派遣大学と受入大学の試験日時が重複した場合は、派遣大学の授業科目について追試験等の措置を講ずるものとする。

9 成績の通知及び管理

- (1) 受入大学は、特別聴講学生の成績を所定の期日までに派遣大学へ通知する。
- (2) 受入大学は、特別聴講学生の成績原簿を保管する。

10 施設等の利用

受入大学は、特別聴講学生の履修上必要な施設・設備の利用について便宜を供与する。

11 経費の負担

特別聴講学生が授業科目を履修する上で必要となる教材費等の個人的経費については、特別聴講学生の負担とする。

12 保険等

特別聴講学生は、受入大学が必要とする場合は、学生教育研究災害障害保険等に加入する。ただし、派遣大学において加入している場合は除く。

13 規則等の遵守及び身分の取消

- (1) 特別聴講学生は、受入大学の規則等を遵守しなければならない。
- (2) 受入大学は、特別聴講学生が規則等に違反した場合、その身分を取消することができるものとする。

14 特別聴講学生に係る通知

- (1) 特別聴講学生が履修を取りやめた場合及び派遣大学を休学、退学等した場合は、派遣大学は受入大学へ通知する。
- (2) 特別聴講学生が履修している授業科目の日程変更等については、受入大学が派遣大学へ通知する。

15 その他

本実施要項に定めるもののほか、上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する協定の運営に関し必要な事項は、両大学間の協議により定める。

平成13年11月29日

上越教育大学副学長

増井 三夫

長岡技術科学大学副学長

飯田 謙之

上越教育大学と放送大学との間における
単位互換に関する協定書についての覚書

協定書作成の際、さらに下記の内容が合意に達したので、実施に当たって留意する。

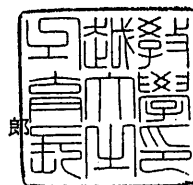
記

- 1 受入れ学生数
放送大学が受入れる学生は、30人程度とする。
- 2 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数
 - (1) 履修できる授業科目の範囲
上越教育大学学生が履修できる授業科目は、放送大学で開講するすべての放送及び印刷教材による授業科目のうち、上越教育大学において認めたものとする。
 - (2) 修得できる単位数
上越教育大学学生が、当該学生の在学期間を通じて修得できる単位数は、20単位以内とする。
- 3 出願の手續及び受入れ予定学生の決定
出願の手續及び受入れ予定学生の決定については、次に掲げる要領により取り扱う。
 - (1) 放送大学に特別聴講学生として出願を希望する者は、定められた期日までに出願票及び所定の書類を上越教育大学長を経て放送大学長に提出するものとする。
 - (2) 放送大学長は、前号により希望した者のうちから選考し、受入れ予定学生を決定する。
 - (3) 放送大学長は、前号で決定した学生の氏名を上越教育大学長に通知する。
- 4 受入れの許可
 - (1) 前項第2号により受入れ予定学生と決定した者は、放送大学学則に定める手續を行う。
 - (2) 放送大学長は、前号の手續を完了した者に対し特別聴講学生として受入れを許可する。
 - (3) 放送大学長は、前号で許可した学生の氏名を上越教育大学長に通知する。
- 5 通信指導の再提出及び再試験
放送大学長は、特別聴講学生が放送大学において履修する授業科目の通信指導の再提出及び再試験の受験を、各1回認める。
- 6 成績評価及び単位授与の方法
特別聴講学生が放送大学において履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、放送大学学則の定めるところによる。
- 7 単位認定試験の実施方法
上越教育大学を会場として単位認定試験を実施するに際しては、「放送大学単位認定試験実施要領」に則って行うこととする。
- 8 放送大学は、特別聴講学生が履修上必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。
- 9 この覚書に定めるもののほか、本協定の運営に関し必要な事項は、両大学長間の協議により定める。

平成14年 7月18日

上越教育大学長

大澤 健



放送大学長

丹保 憲



新潟県内高等教育機関における単位互換の推進に関する合意書（案）

新潟県内高等教育機関（以下「高等教育機関」という。）は、学生の多様な学習意欲に応えるため、各高等教育機関の特色を生かした多様な授業科目の履修機会の拡大を図るとともに、相互に連携・協力し、より効果的な教育成果を上げるため、以下の事項について合意する。

- 一 高等教育機関においては、大学設置基準、短期大学設置基準、高等専門学校設置基準及び各高等教育機関の学則等の規定に基づき、単位互換協定の推進を図るものとする。
- 二 単位互換協定締結の推進にあたっては、体制の整備がされている高等教育機関から進めていくものとし、締結に必要な事項については、別途各高等教育機関において協議の上、定めるものとする。
- 三 本合意書でいう高等教育機関とは、新潟県内における大学、短期大学、高等専門学校及び放送大学をいう。

平成16年12月7日

新潟県内高等教育機関懇談会

2004.12.7

〔13〕「実践セミナー」

実践セミナー

区 分	対象とする専修・コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等			標準 履修 年次	摘 要
			必修	選択	自由		
専 門 科 目	実践セ ミナー	学 習 校 臨 床 教 コ ー 育 ス	実践セミナーⅠ「学習臨床」	S 2		3	専攻する分野から4単位を修得すること。
			実践セミナーⅡ「学習臨床」	S 2		4	
		専 修 発 達 臨 床 コ ー ス	〈生徒指導総合分野〉				
			実践セミナーⅠ「生徒指導」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「生徒指導」	S 2		4	
			〈心理臨床分野〉				
			実践セミナーⅠ「心理臨床」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「心理臨床」	S 2		4	
		幼児教育 専修	実践セミナーⅠ「幼児・生活科教育」	S 2		3	専攻する分野から4単位を修得すること。
			実践セミナーⅡ「幼児・生活科教育」	S 2		4	
		教 言 語 科 系 コ ・ ース 領 域 教 育	〈国語分野〉				専攻する分野から4単位を修得すること。
			実践セミナーⅠ「国語」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「国語」	S 2		4	
			〈英語分野〉				
			実践セミナーⅠ「英語」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「英語」	S 2		4	
		社 会 系 コ ース 専 修	実践セミナーⅠ「社会」	S 2		3	専攻する分野から4単位を修得すること。
			実践セミナーⅡ「社会」	S 2		4	
		自 然 系 コ ース	〈数学分野〉				専攻する分野から4単位を修得すること。
			実践セミナーⅠ「数学」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「数学」	S 2		4	
			〈理科分野〉				
			実践セミナーⅠ「理科」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「理科」	S 2		4	
		芸 術 系 コ ース	〈音楽分野〉				専攻する分野から4単位を修得すること。
			実践セミナーⅠ「音楽」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「音楽」	S 2		4	

			〈美術分野〉				と。
			実践セミナーⅠ「美術」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「美術」	S 2		4	
		生 活	〈保健体育分野〉				専攻する分野から4単位を修得すること。
		・ 健	実践セミナーⅠ「保健体育」	S 2		3	
		康 系	実践セミナーⅡ「保健体育」	S 2		4	
		コー	〈保健分野〉				
			実践セミナーⅠ「保健」	S 2		3	
		ス	実践セミナーⅡ「保健」	S 2		4	
			〈技術分野〉				
			実践セミナーⅠ「技術」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「技術」	S 2		4	
			〈家庭分野〉				
			実践セミナーⅠ「家庭」	S 2		3	
			実践セミナーⅡ「家庭」	S 2		4	

『上越教育大学学校教育学部履修規程 別表（第7条関係）』

〔14〕「学部「実践セミナー」のシラバス」

○実践セミナーⅠ「総合的学習」

科目番号	3804	学期	後期	曜日・時限	月・5／
標準履修学年	学部3年	単位	S 2	履修方法	必修
専攻・コース		教室	講301		
科目区分	専門科目 実践セミナー 学校教育専修 学習臨床コース 総合学習分野				
担当教員	大悟法 滋・川村知行・濁川明男・藤岡達也・北條礼子・田島弘司・山崎貞登・小林毅夫・釜田 聡				
備考					
履修条件	平成12年度以降入学者				

○ 授業概要・目標

附属中学校などで、公開実験授業に参加し、環境教育、国際理解、地域課題など、具体的テーマに基づいて、「総合的学習の時間」のカリキュラムをどのように開発するかを、授業分析を通し、問題点を検証しながら、公開授業などの授業実践について検討する。

その成果として、報告をもとに、記録及び報告書の作成に大学院生とともに参加し、卒業論文の課題との関連も探究する。

○ 履修条件・注意事項

学習臨床コース総合学習分野所属の学生を原則とする。

○ 授業計画・内容

1～ 2 オリエンテーション。全教員・全院生による研究課題の設定。

3～ 4 附属中学校などの公開実験授業への参加

4～13 院生とともに実験授業の分析報告と検討

14～15 発表会及び報告書の作成

○ 成績評価の方法

演習の報告及び報告書について、担当教員の会議を経て判定する。

○ 教科書・参考書

上越教育大学総合学習分野の報告書類のほか、随時、参考文献を案内する。

○実践セミナーII「総合的学習」

科目番号	4 8 0 4	学期	前期	曜日・時限	月・5／
標準履修学年	学部4年	単位	S 2	履修方法	必修
専攻・コース			教室	講 2 0 1	
科目区分	専門科目 実践セミナー 学校教育専修 学習臨床コース 総合学習分野				
担当教員	大悟法 滋・川村知行・濁川明男・藤岡達也・北條礼子・田島弘司・山崎貞登・ 小林毅夫・釜田 聡				
備考					
履修条件	平成12年度以降入学者				

○ 授業概要・目標

附属小学校などで、公開実験授業に参加し、環境教育、国際理解、地域課題など、具体的テーマに基づいて、「総合的学習の時間」のカリキュラムをどのように開発するかを、授業分析を通し、問題点を検証しながら、公開授業などの授業実践について検討する。

その成果として、報告をもとに、記録及び報告書の作成に大学院生とともに参加し、卒業論文の課題との関連も探究する。

○ 履修条件・注意事項

学習臨床コース総合学習分野所属の学生を原則とする。

○ 授業計画・内容

1～ 2 オリエンテーション。全教員・全院生による研究課題の設定。

3～ 4 附属小学校などの公開実験授業への参加

4～13 院生とともに実験授業の分析報告と検討

14～15 発表会及び報告書の作成

○ 成績評価の方法

演習の報告及び報告書について、担当教員の会議を経て判定する。

○ 教科書・参考書

上越教育大学総合学習分野の報告書類のほか、随時、参考文献を案内する。

[15]「学芸員の資格取得」

博物館に関する科目及び単位

文部科学省令規定により、大学において修得すべき博物館に関する科目の単位と、本学で開講している授業科目との関係は、次のとおりです。

文部科学省令で定める博物館に関する科目		左記に相当する授業科目	
科目名	単位	授業科目名	単位
生涯学習概論	1	生涯学習概論A	2
博物館概論	2	博物館概論	2
博物館経営論	1	博物館経営・情報論	2

博物館情報論	1		
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館実習	3	博物館実習	3
視聴覚教育メディア論	1	教育工学	2
教育学概論	1	教育本質論	2
計	1 2	計	1 5

注)「博物館実習」の履修の際には、事前に「博物館概論」、「博物館経営・情報論」及び「博物館資料論」のうちから、最低2科目を履修してください。

〔16〕「社会教育主事の資格取得」

社会教育主事に関する科目及び単位

文部科学省令規定により、大学において修得すべき社会教育主事に関する科目の単位と、本学で開講している授業科目との関係は、次のとおりです。

文部科学省令で定める社会教育主事に関する科目		左記に相当する授業科目	
科 目 名	単位	授 業 科 目 名	単位
生涯学習概論	4	生涯学習概論A 生涯学習概論B	2
社会教育計画	4	社会教育計画A 社会教育計画B	2
社会教育演習，社会教育実習又は社会教育課題研究のうち1以上の科目	4	社会教育演習Ⅰ 社会教育演習Ⅱ	2 2
社会教育特講Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにわたり履修）	1 2		
社会教育特講Ⅰ （現代社会と社会教育）		総合演習（多文化社会論）	2
		教育社会学	2
		現代社会と学校	2
		教育経営学	2
社会教育特講Ⅱ （社会教育活動・事業・施設）		博物館概論	2
		博物館経営・情報論	2
		博物館資料論	2
		総合演習（子どもの郊外生活と地域父母組織）	2
		総合演習（芸術社会教育論）	2
		体験学習	2
		ボランティア体験	1
		教育工学	2
		教育方法学	2
		人権と教育行政	2
		総合学習と体験学習	2
		地域環境教育演習	2
社会教育特講Ⅲ		歴史・民俗資料演習	2
		総合演習（子どもの心と教育）	3

(その他必要な科目)	総合演習（自然と人間）	2
	総合演習（自然環境）	2
	児童心理学	2
	青年心理学	2
	発達心理学	2
	教育と法規	2
	社会心理学	2
	現代子ども論	2
	野外体験演習	2
	個性の心理学	2
	子どもの生活と環境	2
	子どもの心理・発達概論	2
	比較教育改革史	2
	教育本質論	2
	人権・同和教育	2
	道徳の指導法	2
	体育心理学	2
	教育情報学	2
	宗教学概説	2
	倫理学概説	2
	哲学概説	2
	地域調査法A	2
	地域調査法B	2
	地域調査法C	2
	地図と地誌	2
	生活と音楽	2
	野外運動A（スキー）	2
	野外運動B（カヌー）	2
	家族関係Ⅰ	1
	家族関係Ⅱ	1
	いのちのネットワーク論	2
	保育学	2
計	24	

注)「博物館実習」の履修の際には、事前に「博物館概論」、「博物館経営・情報論」及び「博物館資料論」のうちから、最低2科目を履修してください。

[17]「学校図書館司書教諭の資格取得」

学校図書館司書教諭に関する科目及び単位

文部科学省令規定に定められている学校図書館に関する科目と、本学で開講されている授業科目との関係は、次のとおりです。

文部科学省令で定める学校図書館に関する科目		左記に相当する授業科目	
科 目 名	単位	授 業 科 目 名	単位
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2
計	10	計	15

〔18〕「保育士の資格取得」

保育士に関する科目

定められた科目は次のとおりです。

系列	授 業 科 目	単位数・ 授業方法	履 修 単 位 数		履修 年次
			必 修	選 択	
保 育 の に 関 する 目 的 的 の	社会福祉Ⅰ	L 2	2		2
	社会福祉Ⅱ	S 2	2		2
	子どもの福祉	L 2	2		3
	教育と保育の原理	L 2	2		3
	子どもの教育・保育概論	L 2	2		2
	幼児・障害児教育原理	L 2	2		2
	教育本質論	L 2	2		2
	子どもの生活と環境	L 2			3
	子どもの発達支援方法論演習	S 2			3
	発達心理学	L 2	2		2
保 育 の 対 象 の 理 解 に 関 する 科 目	教育心理学概論	L 2	2		2
	保育学	L 2	2		2
	保育学実習	P 1	1		2
	乳幼児の健康	L 2	2		3
	食物学B	L 2	2		2
	学校保健教育C（小児保健・精神保健を含む。）	L 2	2		4
	家族関係Ⅰ	L 1	1		2
	家族関係Ⅱ	L 1	1		3
	子どもの表現と伝達	L 2			3
	心理学実験	P 2			3
	心理学演習	S 2			3
	衛生学・公衆衛生学	L 2			2
	食科学AⅠ	L 2			2
	子どもの心理・発達概論	L 2			2
	子どもの心理と行動	L 2			3

左記の必修

保に 育関 のす 内 容科 ・目 方 法 の 理 解	保育・音楽表現の指導法	S 2	2	科目を除いて、 17単位以上	2	
	保育・造形表現指導法	S 2	2		2	
	保育・言葉の指導法	S 2	2		2	
	保育・健康の指導法	S 2	2		2	
	保育・人間関係の指導法	S 2	2		2	
	保育・環境の指導法	S 2	2		2	
	家庭の教育と育児	L 2	2		3	
	障害児保育	S 2	2		2	
	養護内容	S 2	2		2	
	保育の心理と行動	S 2			2	
	子どもの保育・表現概論	L 2			2	
	基礎 技能	初等音楽科指導法	L 1 S 1		2	3
		図画工作科指導法	L 1 S 1		2	3
初等体育科指導法		L 1 S 1	2	3		
総合・生活		L 2		1		
音楽		P 2		1		
図画工作		S 2		1		
スポーツ実践		P 2		1		
教育実地指導Ⅰ（観察・参加）		L0.5P1.5		1.2		
幼稚園専修教育実習		P 2		4		
音楽表現の基礎		P 1		2		
身体表現の基礎		P 1		2		
幼児の音楽的表現		L 2		3		
保育 実習		保育実習Ⅰ	P 3	3	2	
	保育実習Ⅱ	P 2	2	2		
	保育実習Ⅲ	P 2		4		
	保育実習Ⅳ	P 2		4		
総合演習	総合演習（子どもの心と教育）	S 2	2		2	
保育士資格取得に係る科目合計			79単位以上			

注)「社会教育演習Ⅰ」の履修に際しては、事前に「社会教育計画A」を、「社会教育演習Ⅱ」の履修に際しては、事前に「社会教育計画B」を履修してください。

[19]「平成13年度学生による授業評価報告書」

平成13年度学生による授業評価報告書（抜粋）

3 カリキュラムの改善点について〔カリキュラム改善のためのアンケート調査〕

(1) 学部

① 授業科目の編成や履修方法に関して「良かった」と思われる点について

1) 全学レベルにおいて

回答を集約して多い順に取り上げると、次のようである。すなわち、「高学年において授業が少なく、余裕をもって卒業論文や教員採用試験の準備ができた」「実習のための講

義や実習そのものが充実している」「電子シラバスや履修の手引が見やすかった」「一環性、計画性があり履修しやすかった」「必修科目同士、必修と選択科目などの授業が重複しなかった」「教員採用試験にマッチした内容であった」「必修科目が充実していた」などである。

このように、ピラミッド型の授業配置、スムーズな授業の履修や単位取得、実習・実践を重視したカリキュラム編成が評価されている。

2) 講座または分野レベルにおいて

全学レベルに比べ、講座や分野を特定して評価した回答は少ないが、中には「理科コースは専門授業が低学年より配置されているので余裕をもって履修できた」「美術で、一通り学んでから専門を決められた」などの回答がみられた。

講座または分野レベルに関する回答が少なかったのは、所属する講座もしくは分野に絞った設問をしなかったことが原因として考えられる。

② 授業科目の編成や履修方法に関して「改善の必要がある」と思われる点について

1) 全学レベルの問題

改善すべき点として指摘された主なものは、以下の3点である。最も多かった回答としては、「履修を希望する授業が必修の授業と重複して取れなかった」とするものであり、上記①-1)の「重複しなかったので良かった」とする回答を大きく上回っている。ついで、「必修科目が多く、余裕がない」「必修科目が高学年までであるのはつらい」など、全学・コース必修科目の多さが指摘されている。さらに次いで、「学教センターへの移動方法や講義内容への不満」が回答されている。

この他、「副免が取りにくい」「現場であり役立たない授業が多い」「教員採用試験関連科目を低学年次に履修するので受検時に忘れる」「パソコン等で、履修状況や取得単位が容易に認識できるようにしてほしい」「集中講義の開講時期が問題である」などの回答が、少数ながら見られた。

2) 講座または分野レベルの問題

理科、社会、幼児教育、学校教育の4分野・専修において指摘が見られる。それは、「化学の授業が厳しく、免許取得、卒業に影響があった」(理科)「4年後期になっても必修の授業があって大変だった」(社会)「幼稚園実習が4年次にあるのはどうか」(幼児教育)「必修科目が多く、かつ履修の仕方が複雑、困難」(学校教育)などである。

③ カリキュラムに新しく取り上げてほしい内容について

ここでは、全学レベルと講座又は分野レベルの区分をすることが難しく、一括して取り扱うことにした。最も多い回答は、「より実践的な内容の授業を充実して欲しい」であり、学生は現状よりも更に実践的なカリキュラムを望んでいることが窺える。次いで、「保育士の資格が取れるようにしてほしい」が多く見られる。本学は、今年度(14年度)保育士の認定養成機関の指定の申請を行なう予定であり、これは直ちに実現されるであろう。同様に、「現職である院生さんと学部が一緒になって考えたり意見を述べ合う授業」への要望も、両者の連携授業の設定・開発によって充たされていくであろう。

その他、「教員採用試験につながる授業を増やして欲しい」「多様な免許が取得できるようにしてほしい」「高校の教育実習も行なって欲しい」など、教員養成大学に特徴的なカリキュラムの充実を望んでいる一方、「語学を充実して欲しい」「著名人を呼んで欲しい」「コン

ピュータ関係の授業を充実して欲しい」「趣味、教養的な講義を増やして欲しい」といった教養的な内容の授業も望まれている。

(分析結果)

優れている。

(根拠理由)

- ・本学の教養教育を担当する教員体制、責任体制の組織は、中期目標・計画を実現する上で優れている。
- ・教育課程の編成方針を作成し、各講座から提案された授業科目等の開設等を編成・改善するための組織体制としての教務委員会が置かれ全学的視点に立って審議することは、学生達が修学上効果的に履修する上で優れている。
- ・人間教育学科目群と教育実践学科目群が横断的構造になっていることは、教職に対する理解と意欲、目的を形成する上で優れている。
- ・「実践セミナー」と大学院の共通科目にある「実践場面分析演習」と連携した授業方法は、学部学生の臨床的力量を形成する上で優れている。
- ・長岡技術科学大学及び放送大学と単位互換の協定を締結しているが、長岡技術大学とは距離的な問題があり、今まで希望者はない。また、放送大学の単位希望者は例年1、2人程度である。本学のカリキュラムが充実していると評価できる。
- ・教育職員免許状のほかに、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭及び保育士の資格が取得できるように授業科目が開設されていることは、学生の多様なニーズに対応する上で、優れている。
- ・カリキュラム改善のためのアンケート調査として、①授業科目の編成や履修方法に関して「良かった」と思われる点、②授業科目の編成や履修方法に関して「改善の必要がある」と思われる点、③カリキュラムに新しく取り上げてほしい内容の3項目について、全学レベル及び講座又は分野レベルの視点で調査した事は、今後のカリキュラムを検討する上で優れているといえる。
- ・カリキュラムに新しく取り上げてほしい内容の一つであった「保育士の資格が取れるようにしてほしい」との要望を受け、平成15年度に指定保育士養成施設として指定された。

観点Ⅰ－１－②：教養科目等の内容と授業方法・形態が、目標・計画に照らして適切であるか。

(観点にかかる状況)

- i) 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

学部の科目のほとんどは、小、中、高、幼稚園免許状の一種免許の課程認定を受けている。文部科学省への申請には必要書類ではないが、各教科の科目概要を求められ、全ての科目の内容がチェックされた上で認定されている。〔20〕

● 根拠データ

〔20〕「上越教育大学学校教育学部開設授業科目概要一覧」

別紙 「上越教育大学学校教育学部開設授業科目概要一覧参照」

- ii) 講義、演習、実習などの各種授業方法・形態が適切であるか。

学部の授業では、初期段階（1年次）では演習・実習に重点を置き、初等教育教員に必要な素地を体験的に把握し、中期段階（2、3年次）ではその素地をもとに講義等を通して理論的に捉えなおし、後期段階（4年次）では捉え直したものをもとに再度実践的な場面に取り組むという、年次間の大きな流れがあり、深い学識と臨床的な実践力の双方を視野に入れたものとなっている。〔21〕

● 根拠データ

〔21〕「各学年での講義、演習、実験・実習の開設数」

各学年での講義、演習、実験・実習の開設数

	1年	2年	3年	4年
講義	9	155	160	27
演習	9	78.5	139.5	104
実験・実習	11	19	26	8

『平成16年度授業科目一覧』

iii) 教育内容に応じた適切な授業方法・形態の工夫（少人数授業、対話・討論型授業、フィールド授業、情報機器の活用、TAの活用など）がなされているか。

①少人数授業、対話・討論型授業

・初等教育教員の使命感を考える1年次の「人間教育学セミナー」は10人程度の小さいグループで実施することにより、入学後の学生が討議的に十分参加できるよう配慮し、あるいは各種の技能の育成を目指す演習では、同一学年の学生を20人から40人程度のグループに分けることで各学年の参加を保証するとともに、学生の到達度を教員が把握しやすくしている。〔1〕,〔22〕

②フィールド授業

学生の学習効果を高めるための野外における調査など教室や実験室外における実践的な授業として、実践的人間理解科目群を設け、全専修・コースを対象として体験学習、スポーツ実践に関わる科目をを開設している。

また、専攻する分野においても、教育内容に応じたフィールド授業を展開している。〔1〕,〔23〕

③情報機器の活用

・1年次にコンピュータの利用の基礎を学ぶが、その後の情報機器に関わる講義・演習では、マルチメディア・インターネット環境を利用した教材の開発や学習支援環境の構築、授業方法における教育メディアの役割等も扱っており、教員としての実践力の向上という点で、情報機器が関連付けられている。〔1〕,〔21〕,〔24〕

④TAの活用

大学院学生によるTAを演習の科目を中心に積極的に活用することで、演習等の活動に際し学生に対してよりきめの細かい対応ができるよう努めている。年間で、60近い演習等科目について、大学院のTAを採用している。〔25〕,〔26〕

● 根拠データ

〔1〕「平成16年度 学校教育学部 開設授業科目」 略

〔20〕「上越教育大学学校教育学部開設授業科目概要一覧」

別紙 「上越教育大学学校教育学部開設授業科目概要一覧参照」 略

〔22〕「授業（履修）上のグループ分け」

○1年次

グループ	1年次のクラス編成			
A	A1,	A2,	A3,	A4
B	B1,	B2,	B3,	B4
C	C1,	C2,	C3,	C4
D	D1,	D2,	D3,	D4

○2年次以降

グループ	専 修 ・ コ ー ス
A	学校教育専修（学修臨床コース，発達臨床コース）
B	教科・領域教育専修（言語系コース，社会系コース）
C	教科・領域教育専修（自然系コース，芸術系コース）
D	幼児教育専修，教科・領域教育専修（生活・健康系コース）

『平成16年度入学者用 履修の手引き P3』

〔23〕「授業科目の区分」

授業科目の区分（抜粋）

授業科目の区分	内 容
人間教育学関連科目 人間教育学セミナー 実践的人間理解科目 基礎的人間形成科目	教員の原点である人間理解を，体験と観察・参加を通じて実践的に深めることを目的とする科目群である。

『平成16年度入学者用 履修の手引き P2』

〔24〕「授業概要・目標」

・「教育情報演習」 1年 必修

教員としての基本的な情報機器の操作方法について修得し，情報機器を利用した教育の基本的なパターンを体験的に学ぶ。基本的操作方法として，文書作成（ワープロ），作図，表計算，画像撮影（デジタルカメラ），写真の取り込み（スキャナー），文書の印刷（プリンター），画像の印刷（カラープリンター），動画の記録（デジタルカメラ）等を取り上げる。また，プレゼンソフトを利用したプレゼンテーション，インターネットを利用する技術として電子メールの読み書きと，ホームページの検索並びに作成の方法を習得する。

・「情報科学概論」 2年 必修

コンピュータに代表される情報機器および情報に関する，基礎的な理論，原理などの基礎について学ぶ科目である。これからの教員に必要な情報について基本として身につけておくべき内容を扱う。

内容は，主に3つの部分から構成されており，第1部にコンピュータを理解するための基本的理論と仕組みについて学ぶ。第2部では情報システムにおける情報処理に関する考え方，概念について学ぶ。第3部では学校教育における情報の役割，係わりなどについて学ぶ。

・「心理統計解析」 2年 必修

データ解析の基本概念と基本手法を学習する。

統計分析プログラム JavaScript-STAR を卒業研究に利用できるようにする。

・「教育メディア演習」 3年 必修

高度情報通信社会の進展に伴い，学校教育を取りまくメディア環境が急速に変化している。

この演習では，視聴覚教育・映像教育，放送教育，マルチメディア・ネットワーク環境におけるメディア教育等に関する内容及び技術を演習を通して検討する。

・「情報システム工学」 3年 選択

IT（情報技術）革命によって教育界を含め大きく社会生活を変えようとしています。本講義では，IT（情報技術）を個人および社会の視点からながめてコンピュータの動作原理，

情報の本質を議論します。これから学校に取り入れられてくる「情報」で不易なITの基礎・基本について考え、技術科における情報教育について情報システム工学の視点から考えていきます。

『平成16年度 シラバス（抜粋）』

[25]「ティーチング・アシスタント実施要項」

上越教育大学ティーチングアシスタント実施要項（抜粋）

（趣旨）

- 1 この要項は、大学院学校教育研究科（以下「大学院」という。）の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当を支給することにより、当該学生の処遇の改善に資するとともに、上越教育大学（以下「本学」という。）における教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図るため、必要な事項を定める。

（名称）

- 2 前項に規定する教育補助業務を行う者の名称は、ティーチング・アシスタントとする。

（職務内容）

- 3 ティーチング・アシスタントは、授業科目を担当する教員（以下「授業担当教員」という。）の指示に従い、本学の学部学生に対する演習、実験、実習等の教育補助業務を行うものとする。

（身分）

- 4 ティーチング・アシスタントの身分は、非常勤職員とする。

（任用条件）

- 5 ティーチング・アシスタントは、大学院の優秀な学生のうち、次の各号に掲げる者に該当するものから任用するものとする。ただし、現職教育のため任命権者の命により派遣された大学院学生は、除くものとする。

(1) 学業が優秀で、人格が円満であり、かつ、指導者としての適性を有する者

(2) 教員・研究者となることを希望しており、ティーチング・アシスタントとしての経験が役立つと思われる者

（実施計画）

- 6 学部主事は、授業担当教員からティーチング・アシスタントによる教育補助業務の実施の希望があった場合には、別記第1号様式のティーチング・アシスタント実施計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

（授業科目の選定）

- 7 教育補助業務を実施する授業科目の選定は、教務委員会が行う。
- 8 ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせる授業科目は、講義及び非常勤講師が担当する授業科目を除くものとする。

（任用計画）

- 9 学部主事は、申請した授業科目が、前項の規定により選定された場合には、別記第2号様式のティーチング・アシスタント任用計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。
- 10 ティーチング・アシスタントの選考は、教務委員会が行う。

(勤務時間)

- 11 ティーチング・アシスタントの勤務時間は、月40時間（週10時間程度）以内を標準とし、当該学生が受ける研究指導及び授業に支障が生じないよう配慮するものとする。

(任用手続)

- 12 ティーチング・アシスタントの任用手続については、国立大学法人上越教育大学非常勤職員就業規程（平成16年規程第37号。以下「非常勤職員就業規程」という。）によるものとする。

(給与)

- 13 ティーチング・アシスタントの給与は、非常勤職員就業規程により取り扱うものとする。ただし、手当は時間給のみとし、他の給与は支給しないものとする。

(事前指導等)

- 14 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせるに当たっては、次の各号に掲げる事項を実施するものとする。

(1) 事前における当該業務に関する適切なオリエンテーション

(2) 継続的かつ適切な指導助言

(3) ティーチング・アシスタントからの意見聴取等

(実施報告)

- 15 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントの任用期間が終了したときは、速やかに任用したティーチング・アシスタントについて、別記第3号様式のティーチング・アシスタント実施報告書を学部主事を経て、学長に提出するものとする。

〔26〕「平成16年度 ティーチング・アシスタント」

平成16年度 ティーチング・アシスタント名簿（抜粋）

区分	授 業 科 目 名	学期	曜日 時限	ティーチング・アシスタント名			時配 間 数分
				専 攻 等	学 籍 番 号 (略)	氏名 (略)	
共 通	教育情報演習A1～3	通年	木 1	学校教育専攻 学習臨床コース			60
共 通	教育情報演習A4・C1～3	通年	月 4	学校教育専攻 学習臨床コース			60
共 通	教育情報演習D1～3	通年	月 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(家庭)			60
共 通	教育情報演習B4・C4・D4	通年	金 3	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(技術)			60
共 通	体験学習D	不定期	土	教科・領域教育専攻 自然系コース(理科)			30
共 通	体験学習E	不定期	木 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)			20
共 通	体験学習F	不定期	土	教科・領域教育専攻			30

				芸術系コース（美術）			
共 通	体験学習 G	不定期	土	教科・領域教育専攻 生活健康系コース（家庭）			30
共 通	体験学習 H	不定期	土	教科・領域教育専攻 自然系コース（理科）			30
共 通	体験学習 I	不定期	土	教科・領域教育専攻 芸術系コース（音楽）			30

（分析結果）

優れている。

（根拠理由）

- ・大学設置基準上の卒業要件は大学に4年以上在学し、124単位以上を修得することとなっているが、本学は128単位以上修得し、なおかつ、小学校の一種免許状を取得できるカリキュラムとなっている。また、小免以外の科目でもほとんど、中、高、幼稚園免許状の一種免許の課程認定を受けていて、複数の他教科免許が取得できることは学生が教職に就職する上で、優れている。
- ・専門教育に関連した情報機器の活用は、中期目標・計画を達成する上で優れている。

（2）優れた点及び今後の検討課題

（優れた点）

現行カリキュラムの「人間教育学セミナー（教職の意義）」、「体験学習」及び「ボランティア体験」などの取り組みは、従来の枠ではとえられないユニークな授業の展開は、優れている。

また、教育課程の編成方針を作成し、各講座から提案された授業科目等の開設等を編成・改善するための組織体制の取組は、学生達が修学上効果的に履修する上で優れている。

（今後の検討課題）

小学校教諭の普通免許状及び希望により幼稚園、中学校、高等学校の普通免許状も併せて取得できるように編成されているが、個々の分野以外、複数免許を取得できるように、カリキュラムのシンプル化と科目選択権の拡大の検討を要す。

全コース

区 分		授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
			必修	選択	自由		
人間教育学関連科目	人間教育学セミナー I	人間教育学セミナー (教職と意義)	S2			1	1年次学生が、教職への情熱と自覚を、相互に自律した個人として自己を形成していくテーマと捉えることができるように小人数の授業とする。学校における教職の意義を学ぶ機会を用意しながら、教師の役割として教職の職務内容等についての実際的な理解を図る。
		総合演習 (多文化社会論)		S2		2	アジア、欧米、ロシア、日本など世界の諸地域の多様な社会や文化について、言語、歴史、経済、文学、芸術など、様々な側面から学習することによって、国際理解の基盤となる基礎的な知識を習得する。国際理解における重要な課題は、学習者の属する社会の伝統や文化の価値体系を理解することと同時に、世界のさまざまな諸民族の文化と文化を生み出す社会背景や価値体系に対する理解を深めることである。このことによって、異文化理解への対応能力が育成され、自己の文化に対する客観的な認識にもつながる。
		総合演習 (子どもの校外生活と地域父母組織)		S2		2	学校の教育活動を精選して基礎的な知的指導へと絞り込むと同時に、学校外の生活過程で子どもが直接体験を通じて自然環境に触れ、社会生活の習得を習得することのできる機会を充実させることが問題となっている。学校外での子どもの生活が現実の意味あるものとなるためには、それが、過疎化や高齢社会化に立ち向かう、父母と地域の人々の村おこしや住民自治の日常的活動の一環として、具体的な役割と意味を与えられて自然に組み込まれていることが肝心である。そうした創意にあふれた、活発な子育て活動の事例を学生と共に収集して、子どもの学校外生活が活発且つ持続的に営まれる場合の諸条件を分析し、発表し合うという形式をとって授業を進める。
		総合演習 (子どもの心と教育)		S2		2	現在学校教育で問題となっている、いじめ、暴力、不登校等の子どもたちの「心の荒れ」の現状と原因について、家庭、地域社会、保育所及び幼稚園、学校等での、子どもの生活と教育の実態を調査して討議することにより、幼児期からの子どもの心の教育という立場から、問題の所在と解決のあり方を演習形式で深めていく。さらに、幼児、児童、生徒に対する具体的な指導の方法や技術について実践的な理解を深める。
		総合演習 (ことばと社会)		S2		2	言語は社会の多様な局面において中軸をなしており、社会生活の基盤ともなっている。そうした言語と人間が、教室やそれを取りまく社会環境の中でどのように関係しているかについて、演習形式の授業展開によって分析し、討論をかさねる。この過程で、言語と人間の社会・文化・認識・知覚・相互作用・表現行為とのかかわりかたを共時的あるいは通時的に把握する能力を養成する。このことを通じて、児童・生徒に対する指導の方法や技術に関する理解を深める。
		総合演習 (自然と人間)		S2		2	自然と人間の関係について、自然開発や資源利用の具体例を取り上げて演習を行う。人類に共通する課題として、地球環境問題や南北問題などを取り上げ、自然開発の必然性やその歴史についての認識を深めるとともに、天然資源を対象とする人間活動の諸類型や経済発展に伴う自然環境と社会環境の相互連関についての討論を行う。また、児童・生徒に対する指導法及び技術も含めた形で授業を行い、環境問題に関する幅広い対応能力の育成を図る。
		総合演習 (自然環境)		S2		2	自然科学的な立場から、現在生じている地球環境問題の現状、原因、対策について討議を中心とした演習を行う。また、環境教育で取り上げる際の問題点についても考察する。
		総合演習 (芸術社会教育論)		S2		2	現代の高度科学技術社会が子どもたちにもたらす自己表現の疎外に関して、学校教育現場や家庭・地域社会での状況をもとに分析・検討を行う。さらに、子どもの成長・発達に即した多面的な芸術表現や鑑賞が、それらの問題を解決するために有効なものであることについて総合的に考察する。本授業は、資料の検討、受講者相互の発表、討論、授業実践などにより演習形式で行うものである。
	実践的人間理解科目	体験学習	P2			1	学校教育における生活科、総合的学習の時間、特別活動等における、教育活動創造のための原点となる基礎的な体験を位置付ける。学校栽培園活動、並びに生産活動体験、環境教育体験、自然教室のための各種野外体験、生活科体験、各種表現活動体験、学校行事企画・立案体験等の9コースを設定し選択履修させ、体験を通じて、各種教育の目的と方法の理解と実践的な力を育成する。
		ボランティア体験		P1		2	ボランティアの精神、必要とされる諸技能等について履修後、児童を対象とした市町村の学校教育、社会教育活動に参加させ、児童と接する喜びを感受させるとともに、社会人としての責任と自覚を身に付けさせる。
		スポーツ実践	P2			1	オリンピック競技大会 (Olympic Games) で行われている多種多様なスポーツ種目も、その発生をたどると日常的な運動や遊びである。この視点からゲームスポーツに関する技能と知識を深め、それぞれの特性について理解し、人間とスポーツとの関わりについて考察する。
		マリンスポーツ		P1		1	海浜や河川での集団生活体験を通して「スキndaイビング」「川下り」「河川地域のクリーン活動」に関する知識、技能を養いながら、生命、自然、環境について考察する。
		スノースポーツ		P1		1	冬季の厳しい自然の中でのスポーツ実践を体験することを目的とし、スノースポーツの一つである「スキー」の基礎的技術と理論、指導法について学ぶとともに、障害を防止するための安全なスキーについての知識を深める。
		伝統スポーツ		P1		1	武道・舞踊などに関する知識と技能を養いながら、伝統的な身体運動文化の現代的な意義について考察する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
人間教育学関連科目	実践的人間理解科目	観察・参加実習	異文化理解	1・2	1	1年次に僻地小規模校、特殊教育諸学校での観察・参加、2年次において幼稚園での観察・参加を位置づけ、発達段階、学校規模、障害の有無による教育の差異について理解させ教職を目指す上での課題と自覚を高める。
	教育実地研究 I (観察・参加)				2	
	コミュニケーション英語 A I				1	英語で「読む、書く、聞く、話す」の4技能を高めることによって、英語の基礎的な能力を養成する。
	コミュニケーション英語 A II				1	英語で「読む、書く、聞く、話す」の4技能を高めることによって、英語の基礎的な能力を養成する。
	コミュニケーション英語 B I				1	コミュニケーション英語Aで培った基礎的な英語能力をもとに、英語による基本的なコミュニケーション能力の育成をはかる。
	コミュニケーション英語 B II				1	コミュニケーション英語Aで培った基礎的な英語能力をもとに、英語による基本的なコミュニケーション能力の育成をはかる。
	コミュニケーション英語 C I				2	コミュニケーション英語Bで培った基礎的な英語能力をもとに、英語によるより発展的なコミュニケーション能力の育成をはかる。
	コミュニケーション英語 C II				2	コミュニケーション英語Bで培った基礎的な英語能力をもとに、英語によるより発展的なコミュニケーション能力の育成をはかる。
	ドイツ語コミュニケーション基礎 I				1	ドイツ語の基礎的な文法事項の着実な習得を中心に、初歩的な読み、書き、話し、かつ聞く能力を身につけ、最終的にはオール・ラウンドなドイツ語コミュニケーション能力の養成をめざす。基礎Iでは、発音の練習に重点を置き、文法テキスト約半分の習得とそれに伴う4能力の発展を目標とする。
	ドイツ語コミュニケーション基礎 II				1	基礎Iで獲得したドイツ語の能力を更に発展させ、最終的にはオールラウンドなドイツ語コミュニケーションの能力を養成することをめざす。基礎IIでは、文法テキスト後半部分を習得し、それに付随してのドイツ語の4能力の発展を目標とする。
	ドイツ語コミュニケーション応用 I				2	基礎I, IIで獲得したドイツ語の基礎的知識、能力を、さらに発展、充実させ、最終的にはオールラウンドなドイツ語コミュニケーション能力の養成をめざす。応用Iでは、特に中級程度のドイツ語会話と作文の練習に力点を置く。
	ドイツ語コミュニケーション応用 II				2	基礎I, II及び応用Iで獲得したドイツ語の知識、能力をさらに発展させ、オールラウンドなドイツ語コミュニケーション能力の養成をめざす。応用IIにおいては、何らかのドイツ語原書講読を行い、正確に読みとることとともに、内容の深い理解や表現の面白さをも味わうことを中心とする。
	中国語・中国事情 I				2	初めて中国語を学ぶ人を対象とする。以下の四つのことに留意しつつ学習する。①本文などの読みの練習や聞き取りなどをしながら、徐々に中国語らしい発音を身につける。②簡単な単語や方法で、実際に応用しやすい文を学ぶ。③文法は最低限必要なことがらに加え、日本語を母国語とする学習者が、間違えやすい点、注意すべき点に絞って学習する。④辞書などを引きながら、自分で表現する喜びを味わえるように練習問題を解く。そして、中国へ行って一人で買い物ができる程度の「初等中国語」の習得を目標とする。
	中国語・中国事情 II				2	初めて中国語を学ぶ人を対象とする。以下の四つのことに留意しつつ学習する。①本文などの読みの練習や聞き取りなどをしながら、徐々に中国語らしい発音を身につける。②簡単な単語や方法で、実際に応用しやすい文を学ぶ。③文法は最低限必要なことがらに加え、日本語を母国語とする学習者が、間違えやすい点、注意すべき点に絞って学習する。④辞書などを引きながら、自分で表現する喜びを味わえるように練習問題を解く。そして、中国へ行って一人で買い物ができる程度の「初等中国語」の習得を目標とする。
	ロシア語コミュニケーション				2	ロシア語によるコミュニケーション能力の育成をめざす。現代ロシアの文化や社会生活についての教材を用いてロシア語アルファベット、あいさつ、初等文法を用いた実用的な表現を習得する。
	アメリカ事情				2	現代アメリカの経済と社会の諸問題を概観する。
	韓国語コミュニケーション				2	韓国語の発音、文字（ハングル）の読み書き、日常表現、初級文法を習得し、口頭及び文字によるコミュニケーション能力の基礎を養成する。
	韓国文化論				2	主に文化人類学の知見と方法に依拠して、韓国・朝鮮の社会と文化を概観する。主な内容①韓国伝統文化の形成②「伝統文化」の今日的な位置づけ③日韓の文化交流④在日韓国・朝鮮人の生活と文化。
	ラテン語				2	主として英語及び西洋音楽を学ぼうとする学生を対象とする。名詞・形容詞の格変化、動詞の活用など、ラテン語の基本文法を学ぶ。
	国際交流セミナー				2	日本人学生と外国人留学生とが交流体験を通じて、目に見える「顕在的な異文化」だけでなく、目に見えない「潜在的な異文化」についても、共に学び互いに理解を深めることを目指す。
	日本語・日本事情 I				1	外国人留学生が本学あるいは地域社会において、自律的に学び生活していくために必要な日本語によるコミュニケーション能力の育成を目指す（外国人留学生のみ受講可）。
	日本語・日本事情 II				1	外国人留学生が本学あるいは地域社会において、自律的に学び生活していくために必要な日本語によるコミュニケーション能力の育成を目指す（外国人留学生のみ受講可）。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
人間教育学関連科目	基礎的人間形成科目	教育	L2	P2	1	海外の教育事情の研究・視察及び現地学生との交流。
					1	日本国憲法の理念・構造を今日の学校教育が抱える諸問題を通して考える。
	基礎的人間形成科目	教育の理念並びに教育思想	L2		2	社会生活それ自体の人間形成機能と制度的に運営される学校教育との連続性を指摘し、学校での教育活動のコミュニケーションとしてのメカニズムを明らかにし、教育活動の「目的」の意義とその歴史の変遷を考察する。
					2	なぜ学級が誕生したのか。なぜ教師は黒板の前に立ち、机と椅子はそれに向かうようになっているのか。なぜ学校は知識とモラルを教えるのか。これを各自の被教育体験を基に考えたい。
					2	先進諸外国における教育の理念・思想や歴史を比較・概説するとともに、それら理念・思想に基づいて形成されてきた各国教育制度（とりわけ、学校制度や教育経営を中心に）と我が国教育制度とを比較・検討することによって、今日我々が直面している学校教育諸問題を考究する。
					2	教育とは子どもの発達に即して行われるべきである、という教育理念について、ルソー・ペスタロッチー・フレーベル等の思想を取り上げ、理念の歴史的ルーツを探る。さらには、この理念が現在の我が国の学校教育にどのような形で入り込み、生かされているかについても検討する。
					2	わが国の教師・授業の歴史的性格と今日的課題について、教育思想及び教育経営学の知見を織り込みつつ、制度と個人との相互作用によって生起する「文化」の視角から講義する。
					2	認知のプロセス、権威と服従、性格と個性、こどもの認知発達とその障害など、心の不思議にまつわるトピックを取り上げ、これまで明らかにされてきた心理学上の知見を体験しながら、心理学についての認識を深める。
	幼児の発達及び学習の過程	発達心理学	L2	2	2	発達について個・生命との関わりから述べる。生物学的ヒトから社会的「人」に変化していく過程を理解することを通して、「発達」について考える。障害をもつ児童生徒の「発達」についても言及する。
					2	児童の外界の認知、世界観、思考などについて成人のそれと対比しながら論述する。同時にその発達の変化を理解する。近年児童が直面している問題について考える。
					2	青年期について、アイデンティティの確立を中心として、その特質を理解する。また、児童期から青年期への以降期、青年期から成人期への以降期に発生する諸問題について考える。
					3	行動主義や認知主義から見た学習・記憶・教授過程・学級集団・動機づけなど、学習と教育にかかわる様々な基本的概念や理論について、対応する実験研究をとりあげ具体的に紹介しながら、理解を深めていく。
					2	幼児及び障害児の心身の発達特性と生活上の特別な教育ニーズについて概観し、幼児及び障害児の学習と生活を支援する教育の意義及び方法について学ぶ。
					2	教育の目的・基本方針について、大日本帝国憲法及び現行憲法下における関係法令諸規定の内容を歴史的事実を踏まえつつ講述する。その上で、受講者の将来（教育志望）を配慮して、学校教育の人的・物的・運営的条件に関する主要法令と諸規定について、解釈・運用の要点を講述する。
	教育的な事項に関する社会的、制度的又は経営	学校組織論	L2		2	学校の組織・経営についての基本的理解を深めるため、学校の目標・構造・技術の視角から、とくにわが国の公教育の歴史的性格や教育課程の編成・実施・評価の自主性・自律性について講義する。
					2	人間の発達、教育制度、カリキュラムなどについて社会学的に考える。特に人間の発達の環境、教育制度などの潜在的な機能を順機能と逆機能の両面から考える。人間発達の逆機能としての非行についても考える。
					4	基本的人権の尊重の必要性を日本国憲法に即しつつ明らかにした上で教育行政（教育基本法第10条）のうち、主に学校教育行政に焦点を絞り基本的人権の尊重の観点から行政政策の展開の現状と課題について講述する。
					2	生涯学習の理念、その源流、生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育との関係、生涯学習関連施設の動向、社会教育の意義、社会教育の内容・方法・形態、社会教育指導者、その他、社会教育にかかわる基本的なこと。
					2	各地域、大学、企業などにおいて展開されている生涯学習の実態について考察する。また、生涯学習社会を実現する上での学校教育の役割について諸調査の結果などを参考にしながら考える。家庭教育の役割も考える。
					2	社会教育にかかわる施設、人材、財政についての計画立案の基本的な側面について具体的に指導する。特に、学校の教育課程に新しく導入されることになった総合的な学習の時間に寄与するような計画について考える。
					2	社会教育計画の立案を自分で行ってみるなど、実践的な力を養うことに力点を置く。履修者がそれぞれ課題を設定して、それに取り組む形で行う。その場合、地域における社会教育関係者に指導者として協力をあおぐ。
					2	社会教育計画の立案を自分で行ってみるなど、実践的な力を養うことに力点を置く。履修者がそれぞれ課題を設定して、それに取り組む形で行う。その場合、地域における社会教育関係者に指導者として協力をあおぐ。

区 分		授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
			必修	選択	自由		
人間教育学関連科目	教育の基礎理論	同和教育		L2		2	国民的課題である同和問題を解決するための学校同和教育及び社会同和教育は、いかに進めたらよいのか。被差別部落の歴史、部落差別の実態、同和对策諸政策、偏見の形成と態度変容、部落差別解消への今日的課題等について講義することを通して考えていく。また、同和教育の原点は「差別の現実学ぶ」ことであるので、同和地区住民の生の声を聞く現地学習も予定している。
		教育課程論（総合的学習を含む。）	L2			2	教育課程について概観する。教育課程を支える哲学、構造から教育課程の類型、統合を講義する。また、日本における学習指導要領の変遷を社会的背景などとともに考案する。総合的学習についても検討を加える。
		幼児の教育課程論		L2		2	幼稚園及び保育所における教育課程の編成に関する基礎理論とその方法について学ぶ。
	基礎的人間形成科目 指導法の基礎理論	道徳の指導法	L2			2	道徳教育の理念と歴史、学習指導要領に記された「道徳」の目標と内容、道徳授業の具体的な指導法など道徳教育に関わる基礎的な事項を取り上げ、講義するとともにいじめなどの問題を道徳教育の視点から検討する。
		教育実地研究Ⅳ （特別活動の指導法）	L2			2	特別活動の4内容について多角的な検討を加え、さらに、具体的実践事例を通して体験的理解を深める。その上で、特別活動における教師の役割等について、小集団討議を行う。
		教育方法学		L2		2	「生きる力」の育成や学力観・授業観の転換が叫ばれている今日の状況に鑑み、教育方法学のさまざまな理論や教育機器・教材の活用を含む実践課題について原始的・原理的立場から整理することによって、授業を構成するうえでの改善視座や基礎を提供する。
		学力診断論		L2		2	学力の測定・評価と診断についてその理論と方法を、学習指導法との関連において講義する。特に学力概念におけるインテリジェンスと創造性の内容的区別に応じ、情報機器・教材活用も含めた診断技法と、その診断データの活用技法を取り上げる。
		教育工学		L2		3	教師と学習者の相互作用としてのコミュニケーション過程を成立させるための教育方法と技術について、授業設計の原理と方法、授業実施にかかわる授業運営・展開スキル、教材開発とその活用、教育メディアの役割とその活用、授業過程の観察分析評価の方法の各視点から解説する。
		保育・音楽表現の指導法		S2		2	領域「表現」の音楽的分野についての指導の在り方について実践的に学ぶ。
		保育・造形表現の指導法		S2		2	領域「表現」の造形的分野についての指導の在り方について実践的に学ぶ。
		保育・言葉の指導法		S2		2	領域「言葉」の指導の在り方について実践的に学ぶ。
		保育・健康の指導法		S2		2	領域「健康」の指導の在り方について実践的に学ぶ。
		保育・人間関係の指導法		S2		2	領域「人間関係」の指導の在り方について実践的に学ぶ。
		保育・環境の指導法		S2		2	領域「環境」の指導の在り方について実践的に学ぶ。
		保育の心理と行動		S2		2	保育内容の各領域の具体的な指導過程における幼児、保育者、幼児と保育者との関係について実践的に学ぶ。
	相互コミュニケーション科目	教育情報演習	S4			1	学部1年次必修の通年の演習科目。コンピュータやネットワークの基本操作の習得と、情報の収集、処理、発信、創造などの情報活用の実践力の育成を目標とする。20名から30名のクラスに別れて授業を行う。
		情報科学概論	L2			2	学部2年次必修の講義科目。情報の基本概念を、情報工学、認知科学、情報教育、教育メディア、ソフトウェア科学など、広い視野から概観し、情報を科学的に理解する基礎を学ぶ。
		表現・人間学基礎論	L1			1	初等教育教員養成課程における自己・他者理解の基盤となる表現能力について、身体とモノ、環境、あるいは身体と身体、さらに身体と言葉とのかかわりの中で考察し、表現行為からみた子どもの理解を通じて教育に関する基本的な理念を学ぶ。
		表現・相互行為教育演習	S1			1	人は他者及び世界に対して身体性を動かして相互行為的にかかわることによって表現を生み出し意味を獲得する。このようなあらゆる学習の土台となる表現のあり方を学び、そのような表現を通して子どもと子どもがお互いを理解しあうような教育の方法やあり方を学ぶ。
		表現・状況的教育方法演習	S2			1	学習の成立は、知識や技術の一方向的な伝達に閉じられるのではなく、さまざまな状況の中に埋め込まれていると考えられており、そのような状況的な関係性から、身体性を基盤とした双方向的な表現行為に伴って意味が浮かび上がってくる。このような表現行為を土台とした学習の成立が、子どもにとって実感のある「知」を形成することを広く具体例をあげて追求する。
		表現・＜子ども＞の活動	P2			2	一年次の各表現科目を土台に、音、モノ、身体を通した具体的、かつ総合的な実習を行い、私たち自身の身体に根ざした内なる＜子ども＞の活動としての表現の理解とその身体化をめざす。
	ブリッジ科目Ⅰ	国語（書写を含む。）	L2			1	高等学校までの「国語」「書写」の内容を確認しながら、言語教育の対象となる領域の基礎的なシステムを再認識させる。この過程において、コミュニケーション・国語教材などの概念の認識をたかめる。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
ブリッジ 科目 I	社会	L2			1	高等学校までの「社会科」「地理歴史科」「公民科」の内容を再確認しつつ、各領域の知識を再検討・再構成する。
	算数	L2			1	小学校算数の背景となる数学の基本的概念である集合、写像、演算、数の性質、図形の性質等を講義する。
	理科	L2			1	高等学校の理科分野の内容を補いながら、自然科学を総合的にみる見方や考え方を養い、初等教育における理科の指導に必要な基礎的な内容を身の回りの現象等を例として、講義、演習、実験等を行う。
	生活	L2			1	生活科についての基礎的な知識を概説し、具体的なテーマに基づく体験学習を行なう。
	音楽	P2			1	高等学校で音楽を履修しなかった者に対する補習。初等教育教員に最低限必要な音楽の知識や実技能力の獲得と伸長。
	図画工作	S2			1	造形行為と人間・社会の基本的な関係を学び、子どもの造形活動への共感を深めるとともに、図画工作科の支援に必要な造形活動の広がりを楽しさを体験する。
	体育	P1 L1			1	高等学校までの「保健体育」の内容を確認すると共に、体育・スポーツと人間の関わりを自然科学、生命科学、社会科学、環境科学、情報科学等の分野からのアプローチを試みることによって発展させる。
	家庭	L2			1	初等家庭科における食生活、衣生活、住生活および家族生活等の指導に必要な基礎的事項について講述する。特に、家庭生活を支えている、健康、望ましい人間関係という観点から家庭生活の重要性を論述する。
ブリッジ 科目 II	学習臨床					
	授業臨床学入門	L2			2	授業病理を視野に、授業の本質・目的、授業方法・形態・構造、学習内容の系統などを探り、授業研究のねらい、授業分析の原理・計画、授業の観察、記録の整理、授業研究の手順などを原理的・実践的に検討する。
	創造行為と学習過程		S2		2	学校における学びを子どもたちの能動的な創造行為であり、かつまた子どもたちがともに学びあう相互作用の過程として捉えながら、学習場面の基本的問題を考察し、具体的に教育の方法を検討し、新しいメディアを用いた指導法とその技術などについて学習する。
	国語科と学習過程		S2		2	学習指導要領の内容に関わり、国語科授業場面における、話す・聞く活動、読む活動、書く活動にかかわる様々なコミュニケーションに内在する問題を検討することによって、伝え合う力の育成に媒介される国語科の学習の成立条件を検討し、学習材と学習過程についての理解を深める。
	数学的経験と学習過程		S2		2	テクノロジーを活用した現実的問題の解決などの数学的モデル化、面白い問題を用いた問題の発展的探究など、小学校、中学校及び高等学校の範囲内の数学内容を中心とした身近な題材、単純で具体的な活動を通して、数学がどのように創られていくかを体験する。このことを通して、数学的活動についての理解及び学習者の立場に立った数学の理解を深める。 (授業計画・内容) ①関数電卓を用いた現実事象の探究。一次関数、二次関数、指数関数などによる事象のモデル化及びそのモデルによる事象の解釈など。 ②作図ツールを用いた幾何学的関係の探究。中点連結定理や三平方の定理、円や二次曲線に関する諸定理や性質の発見とその発展的探究など。 ③数量に関する問題の発展的探究。表や文字式を用いて解決し、さらに問題の条件を変更したり一般化することなど。 ④数学史的観点からの算数・数学の内容の探究。円周率を求める様々な方法を実際に行い、それぞれの方法のよさや問題点を検討したり、評価したりするなど、数学家にみられる具体的探究方法を追体験するなど。
	理科と学習過程		S2		2	理科を題材に取りながら、学習者と教授者の間に存在するギャップを認知的に分析し、指導法評価の技法を学ぶ。
	音楽と学習過程		L2		2	学校生活において音楽が果たしている役割を総合的に把握し、音楽の生成と学びとの係わりについて論じる。
	美術学習過程と造形遊び		L2		2	子どもの造形表現学習の基盤となる造形遊びを、子どもの学びや生きることの基礎となる行為として理解し、これを支援するための基本的な理論と実際について事例を基に学習する。
	情報教育演習		S2		2	情報教育分野の基礎となる演習科目。小中学生との電子メールによる交流や、自己理解のための演習、論理的思考の訓練、WEB教材を作成する課題学習を通して情報教育を行うための基本的な知識と技能を習得する。
	総合学習と体験学習		L2		2	初等・中等教育で「総合的な学習の時間」が設定され、教科書を使わない授業が行なわれるようになる。「総合的学習」という科目が時間割に登場するが、この授業がどのような目的・内容・方法で行なわれるかを入門として論及する。
発達臨床	教育学研究法	L2			2	実験やアンケート調査（その結果の統計処理）の方法によらず、文献に記録された経験的事実を収集して、それに基づいて教育諸問題に関して一定の仮説的主張を行う場合の基本的な考察の手続きについて、論じる。
	心理学研究法	L2			2	実証的研究における研究デザインの方法について概観し、具体的な研究場面を想定した仮想データに対して記述統計から推測統計までの基本的統計手法を適用して、データの分析方法及び分析結果の読み方を理解する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
ブリッジ科目	幼児教育 ブリッジ科目II	}	L2		2	幼児期から児童期初期までの心理的特徴とその発達の変化を概観する。
			L2		2	幼児期から児童期初期までの保育と教育において必要な基本的な原理について概観する。
			L2		2	幼稚園及び保育所の保育実践における保育内容について、遊び、環境、表現領域を中心に概観する。
				P1	2	保育実践において必要な音楽的表現技能を習得する。
				P1	2	保育実践において必要な造形的表現技能を習得する。
				P1	2	保育実践において必要な身体的表現技能を習得する。
	言語系	L2			2	国語学・国文学・漢文学・書写書道・国語科教育学の各領域についてその個別性と相互の関連性を明確にする。言語表現を媒介として異文化理解教育や外国語教育との接点をも明らかにしながら、学生の関心をたかめ、専門セミナーまでの展望をもたらす。
			L2		2	国語学・国文学・漢文学・書写書道・国語科教育学の各領域についてその専門性を明らかにする。言語表現の具体的な資料を提示して、その分析をおこない、異文化理解教育や外国語教育との関連性に言及しながら、国語分野の特性を明示する。
		L2			2	英語学・英米文学・英語教育学の各領域について、基礎的・基本的な知識を涵養するとともに、専門セミナーで十分な学習および研究が行えるようにするため、英語に関する専門科目への橋渡しの講義を行う。
	社会系		L2		2	日本の古代から近・現代にいたる各時代の政治・経済史を主要なテーマとして論じる。その際には特に、近年の日本史研究のホットなテーマとの関わりや学説史の変化に留意しながら講義を行い、日本史全般への理解・認識が深まるよう配慮する。また、歴史学研究と歴史教育との関わりについても論じていく。さらに基礎的な史料の解釈や利用の仕方について解説する。
			L2		2	近年の日本史研究・教育の動向を全般的に論じながら、古代から近現代への歴史的流れを社会・文化史を主軸に講義し、特に・国土の画定、・日本語の確定、・日本文化の形成、・国民意識の定着、・中央-地方観念の普及、・日本論・日本人論の展開、・諸外国における日本イメージなどの諸問題を文献資料のみならず、さまざまな資料を通して検討する。
			L2		2	民俗文化に関する「歴史表象」と「史的システム」について論ずる。
			L2		2	古代から現代に至る世界の歴史の大きな枠組みと流れを踏まえながらユーラシア、アフリカ、南北アメリカ等の大陸だけでなく海洋交流圏も含め諸地域の政治・経済・社会・文化・生活などの様々な視点から歴史的事象をとりあげる。それぞれの時代と地域に固有の多様な諸問題および全人類に共通する諸課題に対する視野を広げ、自主的に新しい知見を獲得し独自に教材開発をおこなうために不可欠な歴史研究の理論と方法（レファレンス、データベースの取り扱い、史料分析と解釈の技法、記述のルール、最近の研究動向などの基礎的知識を含む）を習得し、当面する歴史教育の課題を念頭に置きながら、現代のグローバル化社会の中で主体的に生きるために必要な歴史的思考力と自覚を養い、具体的に身近な資料や題材を多角的に活用することによって歴史を学ぶ面白さと過去の出来事を尊重しながら現在を意味あるものとして生きる態度を身につけることを支援する。
			L2		2	自然地理の概念や基礎理論について平易に講述する。自然地理を構成する地形、気候、水文の3分野について、それぞれグローバルスケールから小スケールまでの事象を取り上げて解説する。また、主要な環境問題についても考察する。
			L2		2	地域的事象の見方・考え方を、経済地理学・社会地理学などの基礎的概念・方法を基に論ずる。とくに場所・地域に着目し、なぜ特定の事象が特定の場所を持つのか、なぜ他の場所ではなかったのか、その必然性について考える授業を行いたい。
			L2		2	旅行記の中には、科学的に価値のある多くの地誌的記載が含まれている。講義では日本やヨーロッパの事例を取上げ、自然の厳しさ、人間性の豊かさを人文環境の分析を通して身につけさせるようにする。
			L2		2	倫理学の基本問題を西洋倫理学史のなかに題材をとりながら、その解釈・論争点などを紹介しながら、倫理学概説の趣旨を実現しようとする。
			L2		2	哲学の基本的な問題を講義する。
			L2		2	宗教は、古今東西を問わず、人類社会に普遍的に見出される文化現象であるが、また多様性に富み、一概な理解を許さない。本講は、宗教学の基礎的概念を学ぶことにより、宗教を多角的に捉える視点を養い、文化についての理解を深化することを目指す。
			L2		2	憲法、行政法の基礎理論としての公法学原論を体系的に講義する。法律学は一般的には大きく、公法、私法、社会法に分類されているが、狭義での公法（刑事法、国際法、手続法等の除外）は憲法、行政法を統一的に一体的に理解することによって狭義の国家法の特徴が把握されているものと思われる。内容としては憲法と政治権力、憲法規範の本質、憲法学の方法、行政行為論等について論述する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
ブリッジ科目 ブリッジ科目II	社会系		L2		2	国民国家の形成・発展と国際政治の現状について、次の4点から論及する。1. 17～18世紀の市民革命を経て成立した国民国家を構成する諸原理（思想）について、社会契約論を中心に概説し、功利主義や社会主義の登場について言及する。2. 議会制度を中心とした民主的諸制度の発達と現状について概説する。3. 夜警国家、福祉国家への変容と政党と圧力団体などの役割と問題点について言及する。4. 国民国家と国際関係について現代的諸問題をまじえながら講説する。
			L2		2	戦後日本の産業構造、企業形態及び貿易構造の変遷について、経済政策及び産業政策との関連で講義する。
			L2		2	現代日本社会を分析する理論的枠組の代表的研究を概説し、その今日的意義を解説する。「市民社会論」、「大衆社会論」、「消費社会論」、「世界社会論」を中心に概説する。
			L2		2	「地理歴史科」、特に「地理A」「地理B」の成立過程を概観し、その教科構造を検討することを目的とする。また、調査活動に重きを置いた「地理A」「地理B」の教材開発をめざす。
			L2		2	「地理歴史科」特に「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」の成立過程を概観し、その教科構造を検討して、中学校社会科との連関をあきらかにする。また、歴史教育に関する新たな教材開発をめざす。
			L2		2	中学校社会科および公民科教師としての基礎的能力を培うために、社会科教育学および公民教育学の原理、内容（教材）、方法を総合的に把握し、公民意識を確立するための方策、公民的資質育成のための課題について追究する。
	自然系		L2		2	微分積分学の基本的な考え方と計算方法を解説する。特に、指数関数、対数関数、三角関数などの関数や、関数の極限、主として、1変数関数の微分法、積分法を講義する。
				S2	2	テクノロジーを活用した現実的問題の解決などの数学的モデル化、面白い問題を用いた問題の発展的探究など、小学校、中学校及び高等学校の範囲内の数学内容を中心とした身近な題材、単純で具体的な活動を通して、数学がどのように創られていくかを体験する。このことを通して、数学的活動についての理解及び学習者の立場に立った数学の理解を深める。 （授業計画・内容） ①関数電卓を用いた現実事象の探究。一次関数、二次関数、指数関数などによる事象のモデル化及びそのモデルによる事象の解釈など。 ②作図ツールを用いた幾何学的関係の探究。中点連結定理や三平方の定理、円や二次曲線に関する諸定理や性質の発見とその発展的探究など。 ③数量に関する問題の発展的探究。表や文字式を用いて解決し、さらに問題の条件を変更したり一般化することなど。 ④数学史的観点からの算数・数学の内容の探究。円周率を求める様々な方法を実際に行い、それぞれの方法のよさや問題点を検討したり、評価したりするなど、数学史にみられる具体的探究方法を追体験するなど。
			L2		2	「物理学」、「化学」、「生物学」、「地学」、「理科教育学」の基礎となる理科を例示にして方法と技術について、授業設計の原理と方法、授業実施にかかわる授業運営・展開スキル、授業過程の観察分析評価の方法の各視点から解説する。
	芸術系		S2		2	ソルフェージュ能力は、歌唱、楽器演奏、アンサンブル、合唱、合奏、指揮、作曲などの音楽活動においても、その基本的能力として重要なものである。本授業では、簡単な課題を用いてその能力の基礎を養う。
				S2	2	ソルフェージュAを発展させ、やや難しい課題を用いてソルフェージュ能力を高める。
				S2	2	歌唱表現に関わる基礎的な知識と技能の習得を通して、学校教育における音楽指導について理解を深め、歌唱指導の実践的な能力を養う。
				S2	2	リコーダーを主とする管楽器についての知識を深め、独奏やアンサンブル等の基本概念を理解する。
				S2	2	弦楽器についての知識を深め、独奏やアンサンブル等の基本概念を理解する。
				L2	2	アジア諸民族の音楽の歴史と構造を概観し、それらがどのような文化システムのもとに構築されているかを理解する。視聴覚資料の鑑賞や楽器の実習を通して、アジア音楽の豊かさを体験的に認識する。
				L2	2	日本の伝統音楽の概論。雅楽・能・歌舞伎・人形浄瑠璃・民俗芸能や民謡など、我が国に伝わる様々な音楽と楽器について、歴史や芸能の特徴など基本的な知識を得るための講義。
				S2	2	造形美術の原理があくまで、作品そのものの「かたち」による「論理」であることを明らかにして、「美術とは何か」という問いを解き、「かたち」を通して、美術における論理的思考方法を学ぶ。
	生活・健康系			S2	2	体育・スポーツと人間の関わりを生命科学、環境科学、健康科学等の自然科学系、社会科学系分野からアプローチする。
				S2	2	体育・スポーツと人間の関わりを哲学、心理学、社会学、経営学、情報科学等の社会科学系、人文科学系分野からアプローチする。
				L2	2	健康の基本概念について述べる。

区 分			授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
				必修	選択	自由		
ブリッジ科目	ブリッジ科目Ⅱ	生活・健康系	製図法	L2			2	基本的な規則としての製図総則を解説するとともに、簡単な機器要素のスケッチと製図を行う。
		人と生活		L2		2	日常生活における人と物とのかかわりを多方面から論ずる。	
		いのちのネットワーク論		L2		2	子どもから高齢者まで、ともに人間・健康的に生きるための暮らしの諸問題や、人間と生活環境について、さらに、誕生から死までを通した生と死の教育について、総合的かつネットワーク的に論述する。	
教育実践科目	各教科の指導法		初等国語科指導法	L1 S1			3	小学校国語科の運営に必要とされる基礎的な知識について、国語教育史をふまえ、学習指導要領に示される各言語活動領域と、教材領域とに対応させながら学ぶ。また、授業実践の事例に基づき、授業観察・分析と授業設計についてその方法の基礎を学ぶ。
			初等社会科指導法	L1 S1			3	社会科教育論（目標、理念、授業論、教材化、評価論）、社会科教育史、現代社会科教育の問題点などを授業の内容として講ずる。また、調査活動などをもとに小学校社会科の内容・教材についての教材開発能力を培う。
			算数科指導法	L1 S1			3	現行の算数の指導内容とその体系の概観と背後にある考え方を中心に講義する。また、最近の効果的な指導法に関するアイデアとその理論的背景及びそれらを子どもたちの学習として実現するための手だてについてもあわせて学んでいく。
			初等理科指導法	L1 S1			3	初等理科における基礎的指導方略について学ぶ。また、初等理科と中等理科とのカリキュラム上の関係を学ぶことによって、初等理科における目的を意識させることを目的とする。さらに、具体的な教材を設定し、マイクロテーピングを通して、基礎的な教授技法を学ぶ。
			生活科指導法	L1 S1			3	生活科教育の目的と教育課程の編成及び学習指導の在り方について具体的な実践事例を基に学ぶ。また、児童の学習過程の特徴に関する理解を深め、教師の見取りと支援の在り方について学習する。
			初等音楽科指導法	L1 S1			3	初等教育における音楽科教育の目的・目標、学習指導内容、教材、学習指導計画、学習指導の展開の方法、評価について理解を深め、実践的な能力を高める。
			図画工作科指導法	L1 S1			3	初等教育における図画工作科の教育内容及びその指導法の基礎的内容について、総合的に学ぶ。
			初等体育科指導法	L1 S1			3	初等教育における体育授業の構成と展開について基本的な考え方を理解すると共に、実践的な能力を高める。
			初等家庭科指導法	L1 S1			3	家庭科の特質と目標、小学校家庭科の内容構成と児童の生活実態や学習課程を理解し、適切な教材観・指導観を養うことを目標とする。更にそれに基じた教材の選択と指導法の工夫など授業の設計ができるようにする。
	ガイダンス		教育実地研究Ⅵ（生徒指導論）	L1			3	生徒指導の意義・機能・技法の基礎などを講述し、具体事例の検討を通して体験的理解を深める。その上で、ガイダンスの3つの機能について講述し、多面的な考察を加える。
			教育実地研究Ⅶ（進路指導論）	L1			3	進路指導の意義・機能・技法の基礎などを講述し、具体事例の検討を通して体験的理解を深める。その上で、進路指導における教師の役割等について、小集団討議を行う。
			教育実地研究Ⅴ（カウンセリング論）	L2			3	教育相談の諸理論についてそれぞれの理論がもつ人間観、発達についての考え方、問題の捉え方、治療目標、技法等について述べた上で、学校におけるカウンセリングのあり方について考察する。 （授業計画・内容） ①教育相談の意義 ②教育相談の理論1（心理学的アセスメント） ③教育相談の理論2（プロセス） ④教育相談の理論3（カウンセリングの諸理論） ⑤教育相談の理論4（学校カウンセリングのあり方） ⑥児童期・思春期の精神病理 ⑦試験
			幼児理解と心の問題	L2			3	育児相談や幼児の心の問題とそのケアについて臨症的に概説する。また、幼児を理解するための基礎的な理論と方法、基本的な概念等について学ぶ。
	教育実習		教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究）	S2			2 3	3年次小学校教育実習の充実を目指し、授業における教師の会話技術、発問の構成、板書の構造化、視聴覚教材の工夫、映像による授業分析等の諸技術の習得、各教科における授業づくりと学習指導案作成実習を位置づける。
			教育実地研究Ⅲ（初等教育実習）	P4			3	児童との直接的な指導実習を通して、児童理解を深め、児童の実態や心情を理解し授業に関する実践的能力を高め、学級経営、特別活動に参加する中で、教師の職務と責任を理解させ、教職を目指そうとする意欲と堅実な態度を育てる。
			教育実地研究Ⅷ（中等教育実習）			P4	4	中学校・高等学校教員免許状の取得希望者に対して、初等教育実習の経験の上に、中・高等学校における生徒の発達特性の理解の上に、学習内容の系統性、発達段階を考慮した学習指導法について理解を深め、学級経営及び特別活動の実践的力量を高め、中学校・高等学校の教員としての資質・能力の育成を図る。
卒業研究				S4			4	専修・コースの専門科目に関する修業を集約発展させて、その成果を一定にまとめあげるための科目である。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	教育方法臨床分野		L2		2	「生きる力」の育成や学力観・授業観の転換が叫ばれている今日の状況に鑑み、教育方法学のさまざまな理論や教育機器・教材の活用を含む実践課題について原始的・原理的立場から整理することによって、授業を構成するうえでの改善視座や基礎を提供する。
			L2		3	多様な学習理論や指導法を歴史的・体系的に概説するとともに、今後の学校教育のあり方も視野に入れ、学習者の主体的な学習を成立・発展させるための指導のあり方について論じる。
			L2		3	行動主義や認知主義から見た学習・記憶・教授過程・学級集団・動機づけなど、学習と教育にかかわる様々な基本的概念や理論について、対応する実験研究をとりあげ具体的に紹介しながら、理解を深めていく。
			L2		3	学習指導法や問題解決の過程、動機づけ、不安や自信不足への対処など、授業場面を直接的に分析対象とした心理学研究について、詳しく解説するとともに、討論を通じて実際の授業への活用可能性について検討する。
			L2		2	学力の測定・評価と診断についてその理論と方法を、学習指導法との関連において講義する。特に学力概念におけるインテリジェンスと創造性の内容的区別に応じ、情報機器・教材活用も含めた診断技法と、その診断データの活用技法を取り上げる。
			L2		2	学校の組織・経営についての基本的理解を深めるため、学校の目標・構造・技術の視角から、とくにわが国の公教育の歴史的な性格や教育課程の編成・実施・評価の自主性・自律性について講義する。
			L2		4	学級の意義、学級の雰囲気、学級の発達、教師・生徒関係や友人関係等の学級の様々な対人関係の様相、彼らの間のコミュニケーション、説得などのテーマを取り上げ、学級心理学の基礎的な概念の習得を目指す。
			L2		3	一般社会の文化の下位文化（サブ・カルチャー）としての学校文化と学校内部の下位文化としての生徒文化、教師文化、それと関連する地域文化などについて考える。学校段階や学校の置かれた地域による違いに注目する。
			L2		3	日常場面の会話から対人的・社会的相互作用まで、意味論・実用論、スピーチアクトを含めたコミュニケーションの諸相を講義する。
			L2		3	子供たちの問題状況と背景要因の分析検討を行う。地域医療機関の専門相談員が担当する。併せて学校と専門機関の望ましい連携の在り方を考究する。
			L2		3	対人関係の発達、自己、対人認知、対人魅力、態度変化など、社会心理学の主要なテーマについて、発達の視点を交えながら平易に解説し、各領域の基本的な概念や理論を習得することを目指す。
			L2		2	なぜ学級が誕生したのか。なぜ教師は黒板の前に立ち、机と椅子はそれに向かうようになっているのか。なぜ学校は知識とモラルを教えるのか。これを各自の被教育体験を基に考えたい。
			L2		3	教科及び教材の基礎的な理論について講義する。教科・教材の概念、教科内容と教材の関係、各教科における教材の意味を取り上げて論ずるほか、教材構成・教材化の方法などの問題についても言及する。
			L2		3	現代の学校教育の諸課題に即しながら、授業研究の役割、目的、方法を概説する。また、具体事例にもとづきながら、記録のとり方、記録の読み取り方、データ分析の手法、知見のまとめ方を論じる。
	専門セミナー		S4		3	学習指導の理論や教育方法学の重要な諸概念を文獻的・歴史的に再検討しつつ、有効な授業改善の方向を探る。
			S4		4	教育方法学の理論の動向を探りながら、学習指導における理論と実成の関係について原理的・実践的に検討する。
			S4		3	「教育課程論」を踏まえた上で、特にJ. デューイにおける教育課程の考え方を考察する。『学校と社会』、『民主主義と教育』の講義を中心としながら、教育課程の概念を追求する。セミナーなので、予習を必要とする。
			S4		4	教育課程に関するさまざまな考え方を考察。事前に資料を配布するので、熟読の上、受講すること。哲学的アプローチ、社会学的アプローチなど、主要文獻から教育課程を俯瞰的に考察する。参考文献の講読も必要。
	実践セミナー		S2		3	各教官がそれぞれの専門の立場から指導。実践場面の現状などを討議していく。レベルは各受講生の問題意識に合わせて進める。自由な質問や論議の展開を歓迎する。各教官が参考文献を指示するので通読のこと。
			S2		4	各教官が担当。受講者が決まった段階で教官の専門を明示するので、各自、問題意識をそれぞれの教官と相談しながら文獻の講読・調査研究をしていく。順次発表して受講生の意見を聞き、専門以外の教官の指導も仰ぐ。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目 専 門 科 目 学習過程臨床分野	学習場面観察基礎	S2			2	学習が生じている教室＝フィールドに入り、そこで生じている教育現象を、子どもの観点から包括的に把握し、記録することを学び臨床的アプローチの基礎を培う。これによって、学習過程にそいながら具体的な支援や指導の方法をさぐり、その方法を習得する。
	学習場面臨床学	L2			3	学習場面において収集したデータをもとにし、学びの生じている場面を子どもの観点から分析をし、学習、学習場面への理解を深めるための考察をすすめる。具体的に、学習がどのように生じているか、学習場面をどのように構想するかについての考え方と指導の方法について教材の配列なども考慮しながら論ずる。
	教育臨床演習Ⅰ	S2			3	初等教育実習前に、個々の子どもの学習の様子を理解するための演習を行う。さらに実習後に、自らの教授活動の評価を、実習を行ったクラスの子どもの学びの成立や継続についての観察演習を交えながらすすめる。これによって学習過程への理解を深め、学習場面を具体的に、構想する方法、すなわち教材の配列と教具の工夫、そして指導法について検討する。
	教育臨床演習Ⅱ	S2			4	中等教育実習前に特定の教科において、個々の生徒の学習への理解を深めるための演習を行う。さらに実習後に実習を行った生徒の学びを観察演習をまじえながら、自らの教授活動の学習への影響を評価していく。これによって個々の生徒の学習過程、成果をもとに、教材の配列、コンピュータを用いた指導など指導法、について改善されることがなされる。
	学習臨床カウンセリング基礎Ⅰ	S2			3	個々の子どもの学習の観察をもとにしながら、子どもの学習状態についての共感的理解を試みるとともに、個々の子どもの学習の支援の仕方、具体的な教材、教具の工夫について演習を通して学ぶ。
	学習臨床カウンセリング基礎Ⅱ	S2			4	具体的な教科の文脈において、子どもの学習状態を共感的に理解し、そうした理解と教科内容との関係から、その子のさらなる学習の可能性を検討すること、および個々の子どもの学習の支援の仕方、具体的な教材、教具の工夫について演習を通して学ぶ。
	学習と相互行為		L2		4	子どもの学習を、子どもと子ども、子どもと教師が行う相互行為であるとして捉え、子ども一人一人の学びの成立と他者理解や自他関係の形成とのかかわりを、学習場面での事例に基づきながら考察を加える。これによって、人と人との間で学びが成立するための具体的な方法を考えるための基礎を築く。そして、授業場面での教師と子どもとの間でのコミュニケーションや、コンピュータなどのさまざまなメディアを生かした指導法について検討する。
	学習と言語		L2		4	子どもの学びの成立を言語的側面から考察する。書かれた言語のみならず、発話的な言語も視野にいれ、子どものコトバと学校のコトバの関係や、子どもの理解を把握したり学びを支援するための基本的視点を学ぶ。これによって、人と人との間で学びが成立するための具体的な方法を考えるための基礎を築く。そして、授業場面での教師と子どもとの間でのコミュニケーションや、コンピュータなどのさまざまなメディアを生かした指導法について検討する。
	学習と表現		L2		4	子どもの学習を、子ども一人一人の論理に基づく個性的、総合的な表現行為であるという視点から、子どもたちの学びの構造と学びの過程について考察し、子ども一人一人の学びの成り立ちの基礎的な考え方について研究する。人と人との間で学びが成立するための具体的な方法を考えるための基礎を築く。そして、授業場面での教師と子どもとの間でのコミュニケーションや、コンピュータなどの様々なメディアを生かした指導法について検討する。
	国語学習過程論		L2		3	中学校・高等学校の国語科授業場面における様々な問題事象をとりあげ、その要因を分析するとともに、個々の生徒の学びを保証するという観点からの改善策を検討する。
	文学受容と意味生成		L1 S1		3	読者論やテキスト論など文学研究における新しい文学作品へのアプローチの仕方について学び、文学史上の位置づけや批評史の流れ、解釈の多様性や学習過程における授業者・学習者の受容、学習者間のコミュニケーションのあり方に配慮しつつ、国語の学習材として用いられている我が国の文学作品について検討するための知見を得る。
	言語行為と意味生成		L1 S1		3	談話分析の考え方や方法など国語学研究における新しい言語行為へのアプローチの仕方について学び、授業場面において現れる言語行為の特質や学習過程における授業者・学習者のコミュニケーションのあり方に配慮しつつ、国語の学習材となる多様な言語行為について検討するための知見を得る。
	社会科学習過程論		L2		3	(1)社会科教材内容の分析と教材開発、(2)社会科カリキュラムの研究と作成、(3)学習過程の実践的研究と設計、(4)授業実践とその評価、などを研究視点および具体的課題として述べる。
	地理教材開発論		L2		3	小・中・高の教育現場において、児童・生徒が地理への興味や関心を引き起こせるような教材の開発を行う。マルチメディアに対応した写真教材やポスター教材等を開発する方法も学ぶ。
	歴史教材開発論		L2		3	歴史教育における従来の方法論・教材論を整理し再検討することを通して、新たな方法論と教材論の開発の必要性を考察する。具体的には東アジア史の再構築をめざして、様々な視覚教材の分析と制作について論ずる。
	公民教材開発論		L2		3	小・中・高の教育現場において、社会経済的事象への児童・生徒の興味・関心を引き起こし、公民的資質を養うのに役立つような教材の開発を行う。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目 学習過程臨床分野	数学学習過程論		L2		3	授業場面の実際のデータを基にして、授業における相互作用と子どもの学習との関係、教師の意志決定について議論する。このことを通して、教室研究(Classroom Research)に関する諸理論やコミュニケーションに関する諸理論など、算数・数学の学習過程を分析するための基礎となる理論や視点について学ぶ。
	数学教材開発論		L2		4	数学用のコンピュータソフトを用いた幾何学的探究、曲面、連続、収束などのシミュレーションや実験など、主に学校数学の題材を、独創的な教具やコンピュータを用いて具体的、実験的に探究しながら、一つの教材として発展させ、さらに体系化する基礎を学ぶ。
	代数学と探究過程		L1 S1		3	代数的構造の探究を通して、学習者の代数的内容の学習過程について考える。また、学校数学で取り扱われている「数と計算」「文字式」など関連する内容についての学習者の理解の背後にある数学的側面についてもあわせて学んでいく。
	幾何学と探究過程		L1 S1		3	幾何学的探究を通して、学習者の幾何学的内容の学習過程について考える。また、学校数学で取り扱われている「図形」や「証明・論証」など関連する内容についての学習者の理解の背後にある数学的側面についてもあわせて学んでいく。
	解析学と探究過程		L1 S1		3	解析学的探究を通して、学習者の解析学的内容の学習過程について考える。また、学校数学で取り扱われている「量と測定」「関数」領域など関連する内容についての学習者の理解の背後にある数学的側面についてもあわせて学んでいく。
	確率論と探究過程		L1 S1		3	統計学や確率論による探究を通して、学習者の統計的内容の学習過程について考える。また、学校数学で取り扱われている「数量関係」領域など関連する内容についての学習者の理解の背後にある数学的側面についてもあわせて学んでいく。
	理科学習過程論		S2		2	理科学習という具体的な教科活動の中に、認知心理学等の成果を取り入れた事例を紹介する。具体的には、学習者と教師との認識のギャップを中心的なテーマとして扱い、具体的な事例を紹介しながら、それに対応した授業方略について述べる。
	理科教材開発論		L2		2	理科学習指導過程において、教材の意味と、教材と学習者の関わりに注目し、教材開発に必要な視点を述べる。学習者のコミットメントに注目した教材開発の必要性を論じ、学習者の理解の過程を検証できるような授業実践場面を取り入れる。
	物理学習教材演習		S2		4	小、中、高校までの教科書で扱われる物理分野の教材や実験を取り上げ、それらの教材や実験の意義を物理学の歴史や現在のトピックスとの関わりの中で理解させる。さらに、実際の授業に利用できる物理教材を工夫させ、その教材の評価を演習形式で考察させる。
	化学学習教材演習		S2		4	学校教育における化学分野に関する教材を取りあげる。化学の基本的原理や法則を学習する上で、1)有効な教材であるかどうかについて、2)創意工夫を加えた教材の改良等について、および3)生徒が実際に実験をする際の操作上の留意点等について、演習形式で考察する。
	生物学野外実習		P1		3	原生林を訪れ、そこに生息する代表的な動植物の観察を通して、生き物のいる自然の成り立ちや活動、生物界の競争と協調の原理、生物の多様性と適応性の理解を深めるとともに、野外における自然観察能力を養う。
	地学野外実習		P1		3	地球の構成物質、プレート・テクトニクスや地圏環境の発達史、地球大気などの諸現象などの観察方法、データの収集方法についての野外実習を行う。また、収集されたデータを解析し、考察する。
	音楽学習過程論		S2		3	音楽の授業場面学習成立過程における学習者・授業者の関与のあり方について検討し、実際の授業場面における音楽の実践指導の能力を養成する。
	音楽教材開発論		S2		3	音楽教材の成立の要件、成立のプロセス、およびその効果的な活用方法を探究し、それに基づく指導法、評価技法についても学ぶ。
	美術表現教材開発論		L2		4	子どもの造形表現を「意味をつくる行為」として位置づけ、子どもの造形表現学習の成立について、その論理と方法を学習する。また、子どもが表現する行為に臨みながら理解することの意味と、その基本的な在り方について学習する。
	美術表現学習過程論		L2		3	子ども一人ひとりのつくり表す行為や、子どもと他者が相互に行うつくり表す行為の広がりをつながり事例を基に学習する。これにより、子どもの造形表現学習の成立過程を子どもが生きることの成立過程として把握し、教師のカウンセリング的な支援の基本的な在り方について学習する。
	工芸表現と意味生成		S2		3	子どもや人間の生活における、工芸表現による造形的な意味生成の在り方、その意味とプロセス、そして創造的な技能の基本について、講義と表現演習により学習する。
	デザイン行為と意味生成		S2		3	子どもや人間の生活における、デザイン行為とその表現による造形的な意味生成の在り方、その意味とプロセス、そして創造的な技能の基本について、講義と表現演習により学習する。
	体育学習過程論		S2		3	体育学習は単元の構想によって組織され、展開される。ここでは特に、単元の学習過程についてとの基礎理論をまなびながら構成法を検討する。
	体育教材開発論		S2		3	学習内容としての運動の取り上げ方と取り扱いについて理解を深め、あわせて教材・教具の生かし方について検討する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 修年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	専 門 セ ミ ナ ー	臨床的学習成立セミナーⅠ		S4	3	学びの成立に関わる様々な視点を、子どもたちの学びの実際に照らしながら考察を進め、それらの視点を総合しながら学びを捉えていくことを、参加者のディスカッションを通して目指していく。これによって、子どもの学びが成立する指導法、教材の開発を実施する。
		臨床的学習成立セミナーⅡ		S4	4	具体的な学習場面において、学びの成立に関わる諸要因と教材のもつ特性の双方を視野に入れ、子どもの観点をいかにしながら学習場面を捉えていくための枠組みをセミナー形式で探求していく。これによって、子どもの学びが成立する指導法、教材の開発、そしてさまざまなメディアを用いた指導法の実施を実施する。
		臨床的学習過程・開発セミナーⅠ		S4	3	子どもの学びに関わる認知的あるいは社会的要因を考慮しながら、そうした学びの成立する過程を探求するとともに、成立過程を促進するための手だてについて、実際の支援の様子を参照しながら考究する。これによって、子どもの学びが成立する指導法、教材の開発を実施する。
		臨床的学習過程・開発セミナーⅡ		S4	4	学びの支援に関わる基本的な考察に依拠しながら、教材のもつ意義を子どもの学びの観点から分析し、そうした意義が子どもの学びによって実現されるための支援のあり方を、学習場面の実際に沿いながら探求する。これによって、子どもの学びが成立する指導法、教材の開発を実施する。
	実 践 セ ミ ナ ー	実践セミナーⅠ「学習過程臨床」	S2		3	学部生、大学院生がそれぞれの立場から子ども、教師、相互行為に関する臨床的情報をもちより、学習場面が子どもと子ども、子どもと教師の間の相互行為から成立しているという観点から、学習過程を構成するための課題を見出すための演習を実施する。
		実践セミナーⅡ「学習過程臨床」	S2		4	学部生、大学院生がそれぞれの立場から子ども、教師、相互行為に関する臨床的情報をもちより、学習場面が子どもと子ども、子どもと教師の間の相互行為から成立しているという観点から、学習過程を構成し、研究するための演習を実施する。
	情 報 教 育 分 野	教育情報学	L2		3	情報と教育の境界領域について解説する。情報化社会に対応する授業、学習のとらえかた、教育情報、教育データの収集、分析法について解説する。
		教育情報学演習	S2		3	コンピュータを活用した学習環境における教育情報の活用、教育情報及び教育データの収集・整理・分析法について演習を行う。
		教育工学	L2		3	教師と学習者の相互作用としてのコミュニケーション過程を成立させるための教育方法と技術について、授業設計の原理と方法、授業実施にかかわる授業運営・展開スキル、教材開発とその活用、教育メディアの役割とその活用、授業過程の観察分析評価の方法の各視点から解説する。
		教育メディア演習	S2		3	教育に用いられるメディアの分類、各メディアの特性・機能と活用、メディアリテラシー、教材制作の原理と方法、メディアセンターとしての学校図書館、制作にかかわる著作権・肖像権等について解説するとともに、作品制作実習を行う。
		情報教育論	L2		3	情報教育の目標やカリキュラムを解説し、基本的な考え方や知識を習得する科目。電子メールによるレポート提出、メーリングリストでの情報交換、ホームページを使った学習成果の公表など、情報教育を実践的に学ぶ。
		教育ネットワーク演習	S2		4	情報教育の推進に欠かせない、学校におけるネットワークの構築と管理運営の基本を学ぶ演習科目。実際に学校現場に向いてネットワークを構築するネットデイを指導できる知識と技能を育成する。
		情報基礎（実習を含む。）	S2		2	情報とその処理、コンピュータの歴史、基礎事項、ハードウェア、ソフトウェア、情報システム等について学習する。
		情報システム工学	L2		3	最新の研究事例を交えながら、システム的思想に基づく情報システムの開発、設計、運用などの合理的な方法論についての基礎を理解する。
		情報システム工学演習	S2		4	ハードウェアとソフトウェアの学習のため、エレクトロニクスを中心とする実験を行いパソコン及びワークステーションと最新のコンピュータネットワークを用いた演習を行う。
		計算機数学演習	S2		3	プログラム作成と実行を通して、構造化プログラミングの方法について学ぶと同時に、コンピュータを利用した数学の探究を行う。
		コミュニケーション心理学	L2		3	日常場面の会話から対人的・社会的相互作用まで、意味論・実用論、スピーチアクトを含めたコミュニケーションの諸相を講義する。
		心理統計解析	L2		3	心理データの収集と分析のための統計的方法を講義する。実験計画法を中心とする。コンピュータを用いたデータ解析実習を含む。
		情報社会論	L2		3	情報機器の進歩と、情報化による社会の変化や情報技術が社会に融合して生まれる新しい文化の有り様を通して、情報社会を理解する。情報社会に参画する態度の形成と、その理解を目標とする。
		情報教育カリキュラム論	L2		3	情報教育の授業実践を分析する手法と、授業の基本パターンを学ぶことにより、情報教育のカリキュラムを作成する能力を育成する。
	専 門 セ ミ ナ ー	情報教育セミナーⅠ		S4	3	情報教育の研究を進めるための研究方法を様々なパラダイムから学び検討することにより、情報教育研究の基礎を形成する。また実践研究の評価を行うことにより、情報教育の課題を明らかにする。
		情報教育セミナーⅡ		S4	4	情報教育の研究方法を課題にあわせて選択し、実践研究を実際に進める知識と技能を習得する。各自の研究課題を相互に評価することを通して、情報教育の研究の技法を学ぶ。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	情報教育分野	実践セミナーⅠ「情報教育」	S2		3	実際の実践授業を観察し、教育現場における情報教育の現状と問題点を探る。ネットデイやメンテナンス作業など学校における情報教育を支援する活動にも参加し、実践的な教育の基礎を習得する。
						実践研究への参加を通して、情報教育の実際と、研究方法について実践的に学ぶ。学校における情報教育に補助者として参加したり、ネットワーク上で教育に参加するなどして、実践的な教育力を育成する。
	総合学習分野	野外体験演習	S2		2	野外における実践的な学習の中から、自然環境を総合的にとらえる視点を養い、環境教育教材の開発や学習方法について演習する。
		文化体験演習	S2		2	学外演習など、フィールドにおける体験学習を実施する。地域における身近な教材からの地域学習方法論を体験学習を通して得られる地域素材を活用した総合的学習の教材開発に取り組む。
		生活科体験演習	S2		2	小学校で実施されている生活科とはどんな授業なのか、具体的な授業実践について、自ら体験し、その体験にもとづきながら生活科の本質を考察する。
		国際交流体験学習	S2		2	本学の留学生、上越地域の外国人、海外を含む他地域の外国人との交流を直接あるいは、ホームページ、電子メール、テレビ会議などによって体験し、異文化及び自国文化への気付きを通して相互理解を深める。
		生活科と総合学習	L2		2	前期の「生活科体験演習」に基づき、「生活科」の特色を明らかにしながら、生活科から総合学習へと積極的に展開する学びのあり方を論及する。カリキュラムや子どもの学びの支援について明らかにする。
		総合学習カリキュラム開発論	L2		2	学校や地域の人材・資源を生かし、子どもの興味・関心などの実態等に応じて、各学校が創意工夫を生かした教育活動を展開するために、教科領域と連携した総合学習カリキュラム開発基礎論について学習する。
		地域社会環境と学校	L2		2	学校内外の子どもたちの生活圏を重視する立場から、学校－家庭－地域社会の連携と各役割を深めるために、地域に根ざした教育活動の展開と、地域環境資源の教材化について基礎的に学習する。
		国際教育概論	L2		3	国際理解教育の実践的歴史とその内容について、多角的に論及する。また、外国における国際理解教育や開発教育、異文化教育の動向にもふれ、日本における国際理解教育の課題と展望に論及する。
		地域社会学習法	L2		3	地域の歴史、地域の特徴、地域の問題など、総合的な学習との関わりについて論じ、地域文化の発見と地域把握の学習法について述べ、これらを教育実践に生かせる教材の事例について考察する。
		地域文化学習論	S2		3	地域の歴史や伝統、文化を学習するための基本的な資料収集および操作の方法、またフィールドワークの方法についての授業。特に地域の伝承芸能や建造物について焦点を当てる(?)。地域文化を「学ぶ」ことの基盤には、地域の風土や歴史の学習に加えて、地域に住む人々との交流を通じた相互理解が必要となる。学校という建物を出て、地域の文化を媒体として、地域と教師とのコミュニケーションをはかるためのフィールドワークの基本的な方法を習得する。
		環境教育概論	L2		3	環境をグローバルな視点から捉えるとともに、人間とそれを取り囲む環境問題も含めて、環境に対する人間の責任と役割を理解し、学校－家庭－地域が連携した総合的な観点からの環境教育概論を学習する。
		地域環境教育演習	S2		3	特定地域の環境の現状と成因を野外調査に基づき分析し、総合的な観点から地域環境の特性が学校内外の教育に広く活用できることを学習する。
	専門セミナー	総合学習セミナーⅠ	S4		3	国際・地域・環境の3領域に分かれ、各専門セミナーとリンクさせて運営する。学内教官だけではなく、現場職員の参加や、大学院生の研究レポートを加えて研究会形式を構成する。
		総合学習セミナーⅡ	S4		4	国際・地域・環境の3領域に分かれ、各専門セミナーとリンクさせて運営する。学内教官だけではなく、現場職員の参加や、大学院生の研究レポートを加えて研究会形式を構成する。
	実践セミナー	実践セミナーⅠ「総合的学習」	S2		3	大学院の実践場面分析演習「総合学習」Ⅰ及びⅡ「総合学習」と連動して、学習課程をどう立てるかを、具体的テーマに基づいて、実験授業を演習し、分析する。
		実践セミナーⅡ「総合的学習」	S2		4	大学院の実践場面分析演習「総合学習」Ⅰ及びⅡ「総合学習」と連動して、学習課程をどう立てるかを、具体的テーマに基づいて、実験授業を演習し、分析する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目 専 門 科 目 生徒指導分野	教育社会学		L2		2	人間の発達、教育制度、カリキュラムなどについて社会学的に考える。特に人間の発達の環境、教育制度などの潜在的な機能を順機能と逆機能の両面から考える。人間発達の逆機能としての非行についても考える。
	発達臨床思想		L2		2	教育とは子どもの発達に即して行われるべきである、という教育理念について、ルソー・ベスタロッチー・フレーベル等の思想を取り上げ、理念の歴史的ルーツを探る。さらには、この理念が現在の我が国の学校教育にどのような形で入り込み、生かされているかについても検討する。
	学校文化論		L2		3	一般社会の文化の下位文化（サブ・カルチャー）としての学校文化と学校内部の下位文化としての生徒文化、教師文化、それと関連する地域文化などについて考える。学校段階や学校の置かれた地域による違いに注目する。
	生涯学習概論A		L2		2	生涯学習の理念、その源流、生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育との関係、生涯学習関連施設の動向、社会教育の意義、社会教育の内容・方法・形態、社会教育指導者、その他、社会教育にかかわる基本的なこと。
	生涯学習概論B		L2		2	各地域、大学、企業などにおいて展開されている生涯学習の実態について考察する。また、生涯学習社会を実現する上での学校教育の役割について、諸調査の結果などを参考にしながら考える。家庭教育の役割も考える。
	社会教育計画A		L2		2	社会教育にかかわる施設、人材、財政についての計画立案の基本的な側面について具体的に指導する。特に、学校の教育課程に新しく導入されることになった総合的な学習の時間に寄与するような計画について考える。
	社会教育計画B		L2		2	社会教育計画の立案を自分で試みるなど、実践的な力を養うことに力点を置く。履修者がそれぞれ課題を設定し、それに取り組む形で行う。その場合、地域における社会教育関係者に指導者として協力をあおぐ。
	学校教育相談		L2		3	学校教育相談の意義・特質・技法の基礎等を講述し、具体事例の検討を通して体験的理解を深める。その上で、学校教育相談における教師の役割等について、小集団討議を行う。
	現代子ども論		L2		3	子どもたちの問題状況と背景要因の分析検討を行う。地域医療機関の専門相談員が担当する。併せて、学校と専門機関の望ましい連携の在り方を考究する。
	教育工学		L2		3	教師と学習者の相互作用としてのコミュニケーション過程を成立させるための教育方法と技術について、授業設計の原理と方法、授業実施にかかわる授業運営・展開スキル、教材開発とその活用、教育メディアの役割とその活用、授業過程の観察分析評価の方法の各視点から解説する。
	学校教育相談基礎演習		S2		4	学校教育相談の構造と分析の基本的観点を講述し、併せて、先行実践事例の検討を行う。その上で、基本的な模擬演習を行い、学校教育相談の望ましい在り方を討議する。
	進路指導基礎演習		S2		4	進路指導の今日的意義と支援・評価の基本的観点を講述し、併せて、先行指導事例の検討を行う。その上で、基本的な模擬演習を行い、進路指導の望ましい在り方を討議する。
	学校グループワーク基礎演習		S2		3	学校グループワークの今日的意義と支援・評価の基本的観点を講述し、併せて、先行実践事例の検討を行う。その上で、基本的な模擬演習を行い、学校グループワークの望ましい在り方を討議する。
	学校モラルトレーニング基礎演習		S2		3	慣習的道德性を高めるスキルトレーニングのエクセサイズを取り上げ、その検討を行う。履修者が卒業後、教壇に立ったとき、すぐに道德教育の実践ができるような指導力を身につけさせることがねらいである。
	学級経営の心理学		L2		4	学級の意義、学級の雰囲気、学級の発達、教師－生徒関係や友人関係等の学級の様々な対人関係の様相、彼らの間のコミュニケーション、説得などのテーマを取り上げ、学級心理学の基礎的な概念の習得を目指す。
	学校組織論		L2		2	学校の組織・経営についての基本的理解を深めるため、学校の目標・構造・技術の視角から、とくにわが国の公教育の歴史的な性格や教育課程の編成・実施・評価の自主性・自律性について講義する。
	現代社会と学校		L2		4	現代社会の急激な変容は、学校を取り巻く社会諸関係（家族、地域社会、就職構造等）に大きな影響を与えている。これらの変容が制度としての学校に及ぼす課題を提起しているのかを具体的問題に即して検討する。
	教育と法規		L2		2	教育の理念や国・地方公共団体等により設置されている学校における教育活動に関する主要法規定を講述する。
	人権と教育行政		L2		4	基本的人権の保障との関わりにおいて「法律による教育行政」の概要と具体的な課題について講述する。
	比較教育学		L2		2	先進諸外国における教育の理念・思想や歴史を比較・概説するとともに、それら理念・思想に基づいて形成されてきた各国教育制度（とりわけ、学校制度や教育経営を中心に）と我が国教育制度とを比較・検討することによって、今日我々が直面している学校教育諸問題を考究する。
専 門 セ ミ ナ	生徒指導基礎セミナー I		S4		3	生徒指導基礎の領域に関する卒業研究の課題設定に向けて、基礎的な研究の指導を行う。
	生徒指導基礎セミナー II		S4		4	生徒指導基礎の領域に関する卒業研究の課題に即した、個別のかつ専門的な研究の指導を行う。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	専門セミナー 生徒指導分野	生徒指導法セミナーⅠ		S4	3	生徒指導法の領域に関する卒業研究の課題設定に向けて、基礎的な研究の指導を行う。
		生徒指導法セミナーⅡ		S4	4	生徒指導法の領域に関する卒業研究の課題に即した、個別的かつ専門的な研究の指導を行う。
		生徒指導の制度・経営セミナーⅠ		S4	3	生徒指導の制度・経営の領域に関する卒業研究の課題設定に向けて、基礎的な研究の指導を行う。
		生徒指導の制度・経営セミナーⅡ		S4	4	生徒指導の制度・経営の領域に関する卒業研究の課題に即した、個別的かつ専門的な研究の指導を行う。
		実践セミナーⅠ「生徒指導」	S2		3	生徒指導に関する基本的な問題事例を取り上げ、大学院1年生との意見交換を交え、多面的に検討する。（年度毎にテーマを焦点化する。）
		実践セミナーⅡ「生徒指導」	S2		4	3年次に取り上げた生徒指導に関する基本的な問題事例の検討を、大学院2年生との意見交換を交えて、さらに発展・深化させる。
	実践セミナ 心理臨床分野	教育心理学概論	L2		2	認知のプロセス、権威と服従、性格と個性、こどもの認知発達とその障害など、心の不思議にまつわるトピックを取り上げ、これまで明らかにされてきた心理学上の知見を体験しながら、心理学についての認識を深める。
		一般心理学	L2		2	心理学における研究方法論を他の隣接諸科学の方法論と比較しながら概説する。人間、こころの理解のしかたとその歴史を学ぶことを通して、仮設構成概念を用いた自然科学的アプローチを知る。
		心理統計解析	L2		3	心理データの収集と分析のための統計的方法を講義する。実験計画法を中心とする。コンピュータを用いたデータ解析実習を含む。
		心理学実験	P2		3	心理学の基礎的な実験実習と報告書の提出を通して、実験、調査、検査などの研究手法を習得し、心理学的データの収集と分析、および報告書の作成の方法を学ぶ。
		心理学演習	S2		3	心理学の研究論文を広くに読み進めることを通じて、新しい研究動向にふれ、各自の問題意識の開拓をはかるとともに、仮説の設定、実験的検証のしかた、結果のまとめかた等、心理学の基本的研究手法への理解を深める。
		発達心理学		L2	2	発達について個・生命との関わりから述べる。生物学的ヒトから社会的「人」に変化してゆく過程を理解することを通して、「発達」について考える。障害をもつ児童生徒の「発達」についても言及する。
		児童心理学		L2	2	児童の外見の認知、世界観、思考などについて成人のそれと対比しながら論述する。同時にその発達の变化を理解する。近年児童が直面している問題について考える。
		青年心理学		L2	2	青年期について、アイデンティティの確立を中心として、その特質を理解する。また、児童期から青年期への以降期、青年期から成人期への以降期に発生する諸問題について考える。
		社会心理学		L2	3	対人関係の発達、自己、対人認知、対人魅力、態度変化など、社会心理学の主要なテーマについて、発達の視点から交えながら平易に解説し、各領域の基本的な概念や理論を習得することを目指す。
		学習心理学		L2	3	行動主義や認知主義から見た学習・記憶・教授過程・学級集団・動機づけなど、学習と教育にかかわる様々な基本的な概念や理論について、対応する実験研究をとりあげ具体的に紹介しながら、理解を深めていく。
		授業の心理学		L2	3	学習指導法や問題解決の過程、動機づけ、不安や自信不足への対処など、授業場面を直接的に分析対象とした心理学研究について、詳しく解説するとともに、討論を通じて実際の授業への活用可能性について検討する。
		コミュニケーション心理学		L2	3	日常場面の会話から対人的・社会的相互作用まで、意味論・実用論、スピーチアクトを含めたコミュニケーションの諸相を講義する。
		認知心理学		L2	3	知覚、学習と記憶、知識と推論、概念、問題解決、言語理解などについて、模擬実験を通じて実際に体験することにより、人間の認知プロセスの仕組みと動きについて実証的に学ぶ。
		学級経営の心理学		L2	4	学級の意義、学級の雰囲気、学級の発達、教師－生徒関係や友人関係等の学級の様々な対人関係の様相、彼らの間のコミュニケーション、説得などのテーマを取り上げ、学級心理学の基礎的な概念の習得を目指す。
		個性の心理学		L2	4	知能や性格などにおける個人差とその障害という観点から心理学で明らかにされた知見の解説を通して、他とは違ったユニークな存在としての「個」をいかに捉えたらよいかという問題についての理解を深める。
		臨床心理学		L2	3	臨床心理学の歴史的変遷や基礎的な理論にふれた後に、基本的な面接の形式や心理診断法、様々な心理療法の理論及び面接法について概説する。
		カウンセリング基礎実習		P2	4	カウンセリングに関する基礎的な文献の講読と並行しながら、主に適応指導教室に通所する児童生徒との関わりを通して、カウンセリングの基本的な考え方、事例研究の方法、技法の習得を目的とする。
		カウンセリング基礎演習		S2	4	カウンセリングに関する基本的な文献を講読した上で、主にロール・プレイングを実際に体験することにより、カウンセリングに必要な基本的技法の習得を目的としてトレーニングを行う。

区 分			必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
			必修	選択	自由		
専門科目	専門セミナー	心理臨床分野		S4		3	卒業論文作成の準備として、自分の関心あるトピックに関連する先行研究の文献収集を広く行い、それらを受講者相互で講読することにより、各トピックについての心理学的な研究方法と研究動向について理解する。
		教育心理学セミナーII		S4		4	卒業論文作成のため、自分のテーマに直接関係する先行研究を批判的に精読し、それらの研究の問題点や先行研究において未解決な問題を把握して、卒業研究のテーマに関する具体的な研究デザインを計画する。
		臨床心理学セミナーI		S4		3	臨床心理学に関連する国内・国外の論文の講読を中心に行う。論文の内容に関するレポートを基にしたディスカッションを通して、研究の方法、論文執筆に必要な知識の習得を目的とする。
		臨床心理学セミナーII		S4		4	臨床心理学セミナーIで習得した研究方法や論文執筆に必要な知識をさらに論文講読を通して深めると共に、自分自身の問題意識を深め、卒業研究論文の執筆に取り組む。
	実践セミナー	実践セミナーI「心理臨床」	S2			3	大学院生の報告する教育実践場面の諸問題に対して、心理学の各領域から討論・検討を加えることを通じて、その問題に対するアプローチの方法や具体的な対応方法の開発手法について、実践的に学んでいく。
		実践セミナーII「心理臨床」	S2			4	教育実践場面の諸問題に関して、参加者の興味に応じて事例を報告し、心理学の各領域から討論・検討を加えることを通じて、問題解決のための具体的手法を開発し洗練し、さらにその有効性を検証していく。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	子どもの心理と行動		L2		3	最近の子どもたちの心理と行動特性を理論的・実践的に紹介し、「心」の教育を行なうための方法を考える。
	子どもの表現と伝達		L2		3	子どもの表現・伝達能力の発達特性の紹介とその実態及び育成について論じる。
	教育と保育の原理		L2		3	幼児期より児童期初期までの子どもたちに対する保育と教育の在り方について、基本的な論理と方法を連続的な視点から論じる。
	生活科単元開発論		L2		3	生活科におけるカリキュラムと児童の学習過程の特性に基づき、単元開発の基本的な視点と方法について論じる。
	家庭の教育と育児		L2		3	少子化が進む現代社会における家庭の教育、育児のもつ問題点と課題について概観し、育児と親を支援する方法について論じる。
	子どもの生活と環境		L2		3	現代社会における子どもの生活を取り巻く、社会・文化的環境の実態とその特徴について論じ、「環境」を通した子どもの生活を支援する在り方について論じる。
	乳幼児の健康		L2		3	乳幼児の発達特性、主な疾病とその症例について概観し、乳幼児期の保健と衛生の在り方について論じる。
	子どもの福祉		L2		3	育児における諸問題に対する社会的な支援体制について概説する。また、近年の育児支援の政策における、特徴と課題について論じる。
	食科学B I		L1		2	食品の種類や成分の特徴、食事計画などの講義。
	食科学B II		L1		2	食品の保蔵・加工、食と安全（食品衛生）などの講義。
	幼児の音楽的表現		L2		3	保育者に必要とされる音楽的表現理論及び技能の習得と実践的指導力を養う。
	幼児の造形的表現		L2		3	保育者に必要とされる造形的表現理論及び技能の習得と実践的指導力を養う。
	子どもの発達支援方法論演習		S2		3	幼稚園における幼児の生活場面や、保育者の保育場面を取り上げ、幼児の成長発達を適切に把握して支援する方法と技術を習得する。また、保育者が、幼児の発達支援を継続的かつ開発的に進める上で必要とする基本的な研究方法について演習を通して実践的に習得する。
	子どもの学習支援方法論演習		S2		3	教師が、幼児期から児童期にいたる学習の支援を、継続的に進める上で必要とする基本的な方法と技術について、演習を通して実践的に習得する。特に、生活科授業実践の分析を通して、小学校低学年の子どもの学習の過程を具体的に把握して支援する実践的な能力を習得する。
	幼稚園専修教育実習	P2			4	幼稚園における保育者としての指導実践を試みる。実習のための事前指導並びに事後指導を含む。
	子どもの発達理解セミナー I		S4		3	子どもの理解に基く教育の在り方について、特に発達の視点から、基礎的な理論及び方法と教育実践上の具体的な事実について追究し、支援の在り方について実践的に学ぶ。
	子どもの発達理解セミナー II		S4		4	子どもの発達理解セミナー I の学習に基づいて、自己の課題を決定し、調査、観察、分析等を通して、課題の総合的な解決を行なう。
	子どもの生活環境セミナー I		S4		3	子どもの理解に基く教育の在り方について、特に生活環境の視点から、基礎的な理論及び方法と教育実践上の具体的な事実について追究し、支援の在り方について実践的に学ぶ。
	子どもの生活環境セミナー II		S4		4	子どもの生活環境セミナー I の学習に基づいて、自己の課題を決定し、調査、観察、分析等を通して、課題の総合的な解決を行なう。
	子どもの表現セミナー I		S4		3	子どもの理解に基く教育の在り方について、特に表現の視点から、基礎的な理論及び方法と教育実践上の具体的な事実について追究し、支援の在り方について実践的に学ぶ。
	子どもの表現セミナー II		S4		4	子どもの表現セミナー I の学習に基づいて、自己の課題を決定し、調査、観察、分析等を通して、課題の総合的な解決を行なう。
実践セ ミナ	幼小関連・教育セミナー I		S4		3	幼小関連教育及び幼児期より児童期初期にいたる教育について、その基礎的な理論及び方法と教育実践上の具体的な事実について追究し、支援の在り方を実践的に学ぶ。
	幼小関連・教育セミナー II		S4		4	幼小関連・教育セミナー I の学習に基づいて、自己の課題を決定し、調査、観察、分析等を通して、課題の総合的な解決を行なう。
	実践セミナー I 「幼児」	S2			3	実践場面分析演習 I と連動し、幼児及び児童期初期の、生活、遊び、行動について、具体的な活動場面に基いて理解を図る。
	実践セミナー II 「幼児」	S2			4	実践場面分析演習 II と連動し、保育者及び教師の、指導、援助、支援について、実践場面の事例に基いて理解を図る。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	国語分野		L2		3	日本語の歴史性を反映する具体的な資料をとりあげ、古代から近代にいたる音声・語彙・文章表現の通時的な変化を実証的に考察する。
			L2		3	現代日本語の多様なジャンルの表現をとりあげ、これを精密に読みとる作業をつうじて、その仕組みや解釈の多様性を理論的かつ実証的に考察する。
			L2		3	日本語の文章・談話の仕組みについて、具体的なコミュニケーションで用いられた資料を収集し、記述しながら、それに即して理論的に考察する。
			S2		3	日本語の歴史性を反映する具体的な資料をとりあげ、古代から近代にいたる音声・語彙・文章表現の通時的な変化を探究する観点から分析する。
			S2		3	日本語の多様なジャンルの表現について、具体的な資料や作品を読みとる作業をつうじて、表現と意味解釈の多様性を記述・分析する。
			S2		3	日本語の文章・談話の資料を収集し記述する作業をつうじて、それらが実際のコミュニケーションにおいて運用される仕組みを実証的に分析する。
			L2		3	日本古典文学の作品研究。多様なジャンルの作品を幅広く取り上げ、古典文学の特性や時代性について考察する。また、日本古典文学の近・現代における受容と影響、歴史的な位置づけを行なう。
			L2		3	日本近・現代文学の作品研究。作品を精読し、その作品がもつ特質を解明していく方法について学習する。また、西洋文学や日本古典文学の影響、同時代の文化状況との関わりについて考察する。
			S2		4	日本古典文学の作品読解演習。影印資料を活用した変体仮名の習得を行うとともに、古典文学の特性や時代性を解明する基礎的方法に習熟し、専門的な文学研究にいたる応用力を養成する。
			S2		4	日本近・現代文学の作品読解演習。作品の成立過程や研究史の整理の仕方、作品の構造や主題を解明する方法を習得するとともに、文学活動と歴史・社会的な事象との関連性について考察する。
			L2		3	古詩、経書、歴史書、その他諸様式の作品を講読する作業を通じて、訓読方法を中心に、漢文の仕組みや修辭法を習得する。
			S2		2	楷書の特徴、現代における楷書の位置づけや楷書の習得方法について学習する。また、書写教育の基礎としての硬筆・毛筆による楷書実技、特に用筆・運筆・字形の実際的な研究をおこなう。
			S2		3	行書の特徴、現代における行書の位置づけや行書の習得方法について学習する。また、書写教育の基礎としての硬筆・毛筆による行書実技、特に用筆・運筆を中心に技能の向上と発展及びその応用をめざす。
		L2			2	中学校・高等学校の国語科の教育課程の構成について、国語教育史の観点、国際比較の観点を取り入れつつ、背景にある教育観も含めて考察する。また、学校における国語科の教育課程の構成のあり方について、学習指導要領をふまえながら考察する。
		L2			4	中学校・高等学校の国語科の授業のあり方について、学習指導要領に示される各言語活動領域と、教材領域とに対応させながら学ぶ。いくつかの指導方式の考え方と方法について具体的に検討するとともに、授業設計のあり方についても検討する。
		L2			3	中学校・高等学校の国語科の学習のあり方について、学習指導要領に示される各言語活動領域と、教材領域とに対応させながら、特に学習者の学びの実態に着目して検討する。実際の学習過程の観察、分析の方法についてもあわせて学ぶ。
		L2			3	中学校・高等学校の国語科授業場面における様々な問題事象をとりあげ、その要因を分析するとともに、個々の生徒の学びを保証するという観点からの改善策を検討する。
	専門セミナー		S4		3	国語学の各領域について、個別の問題を設定し、具体的な資料を収集・作成して研究するための、基礎的な知見と能力を養成する。
			S4		4	国語学の各領域について学生が選択した問題に即して、具体的な資料を分析する方法を習得させ、専門的な研究への応用力を養成する。
			S4		3	国文学の各領域について、作品を具体的に取り上げ、個別の問題を設定し、作品に即した研究を進めるための基礎的な知見と能力を養成する。
			S4		4	国文学の各領域について、学生が選択した研究領域に応じた問題を設定し、作品の特性や歴史性を解明する方法を習得することを通して、専門的な研究への応用力を養成する。
			S4		3	国語科教育に関する理論的・実践的研究をすすめるためのさまざまな方法について、個別の問題を具体的にとりあげつつ検討し、主体的に研究をすすめるための基礎的な知見と能力を養成する。
			S4		4	国語科教育に関する理論的・実践的研究のあり方について、学生が設定した個別の研究領域に即しながら、具体的な問題を分析検討しつつ、専門的な研究を行うための応用力を養成する。
			S4		3	文字を書くことおよびその習得に関する各領域について、個別の問題を具体的に取り上げ考察する活動を通じ、教材化や授業研究に発展させていくための基礎的な知見と能力を養成する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	国語分野 実践セミナ	国語科（書写）教育応用セミナー		S4	4	書写教育の専門領域について、手書き文字の歴史や文字を書くことのメカニズムを踏まえつつ、教材化や授業についての研究を展開し、実践・臨床に則した専門的な研究への応用力を養成する。
		実践セミナーⅠ「国語」		S2	3	国語科の教育実践現場に関わる理論的・方法的な諸問題を普通教育実習の実施に即して研究する。
		実践セミナーⅡ「国語」		S2	4	国語科の教育実践現場に関わる理論的・方法的な諸問題を中学校教育実習の実施に即して研究する。
	英語分野 専門科目	英語学概論		L2	2	英語学の全体像や、研究領域の概要、研究課題などを概観することにより、英語学研究の基盤となる基礎知識や、思考法、研究方法などのエッセンスを学び、英語学への動機付けを与え、その後学ぶ英語学の演習やセミナーなどの基礎を学習する。
		英語音声学		L2	3	英語の音声に関する基礎的な知識を学習し、リズム、アクセント、イントネーションなどの韻律の特徴をも理解したうえで、音声の聞き取りや表出等の実践的なスキルを習得する。
		英語史		L2	3	英語の歴史を古期英語、中期英語、近代英語の順に現代英語との比較を交えながら概観する。英語の方言としてはどのようなものがあり、どういった綴りや発音が用いられていたか、また語順はどうかといった問題について学習する。
		英文法		L2	3	英語の語彙の品詞分類を行い文中における機能の違いを理解する。また、語と語がどのように結び付いて句や文が形成されるのかを構文ごとに考察し、英文形成に関わる規則性を理解すると共に、その規則性の教示の仕方について学習する。
		英語学演習		S2	3	英語学の中核をなす統語論、形態論、音韻論、意味論、語用論の分野の中から個別の基本的な研究テーマを選び、具体的な言語事象に触れながらその背後に潜んでいる様々な規則性を見つけだし、英語の基本的な構造とその機能を理論的かつ実証的に考察しながら、教育現場における実践力を養成する。
		英米文学講読		L2	2	英米の代表的な作家の比較的短い作品を幾つか講読し、英文読解力を養成しながら、文学作品の読み方の基本を身につけさせる。
		英文学概論		L2	3	英文学の歴史と特質について基本的な事項を概観し、小説・劇・詩・エッセーなどのテキストを具体的に読み、各ジャンルの特徴を理解する。
		米文学概論		L2	3	代表的なアメリカ作家についての基礎的な知識を学び、その上で実際にいくつかの比較的短い文学作品を読み、おおよその文学思潮を把握すること、そして同時に英語の読解に慣れることを目指す。
		アメリカ現代小説研究		S2	3	現代のアメリカ小説から比較的読みやすい長編小説を選び、個々の文学作品が持つ幅の広さと奥の深さが理解できるように読むことを学ぶ。それとともに英語を多く読みこなしていける基礎となるよう、英文読解の力をつける。
		英文学演習		S2	3	英文学分野の個別の作家を取り上げて、その作品を研究する。作家が使う言葉を細かく吟味し、また、その背景となる文化にも注意をはらう。
		英語コミュニケーション（会話）		S2	3	相手の英語を理解し自分自身を英語で表現できるように、口頭による基本的なコミュニケーション能力を育成する。
		英語コミュニケーション（ライティング）		S2	3	相手の英語を理解し自分自身を英語で表現できるように、主にライティングによる発展的なコミュニケーション能力を育成する。
		英語コミュニケーション（メディア英語）		S2	3	様々な英語メディアを用いながら、相手の英語を理解し自分自身を英語で表現できるように、実践的なコミュニケーション能力を育成する。
		比較文化A		L2	3	外国の文化とそれを支えるものの考え方、感じ方を学ぶことにより、異質な文化に対する深い理解と寛容の心を養い、かつ自国の文化をも客観的に、批判的に捉え直すことを目標とする。Aにおいては、近代ヨーロッパの自然観、人間観などの変遷を中心に考察し、日本におけるそれと比較検討する。
		比較文化B		L2	3	外国の文化とそれを支えるものの考え方、感じ方を学ぶことにより、異質な文化に対する深い理解と寛容の心を養い、かつ自国の文化をも客観的に、批判的に捉え直すことを目標とする。Bにおいては、近代ヨーロッパにおける諸芸術の変遷を考察し、日本におけるそれと比較検討する。
		中等英語科指導法（教授法）		L2	2	教授法理論にはさまざまな要因が複雑にからみあっている。伝統的な教授法から最近の教授法にいたるまで様々な教授法がある。応用言語学の成果を踏まえながら、教授法理論、方法論についての文献を検討する。
		中等英語科指導法（言語習得・児童英語）		L2	2	第一言語習得過程を踏まえながら、第二言語・外国語としての英語習得について学ぶ。特に、児童を対象とした英語教育における指導法、評価等の観点から幅広く学び、外国語としての英語教育について理解を深める。
		中等英語科指導法（授業論）		L2	3	実際の教室場面でのように英語を指導したらいいかについて、授業の運営、指導案の作成、指導法などの観点から講義とマイクロティーチングによる授業実習を行う。
		中等英語科指導法（評価論）		L2	3	英語科教育において、測定と評価をどのようにとらえるかについて、各種評価法の作成にあたっての注意点や結果の処理、解釈、活用法についても研究する。

区 分		授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 単次	科 目 概 要	
			必修	選択	自由			
専門科目	専門セミナー	英語分野	英語学基礎セミナー		S4		3	英語の統語論，機能論，語用論，意味論で研究対象とする言語事象並びにその理論的説明の代表的なものについて概要を把握すると共に，英語の教育実践に役立つ英語学的基礎知識を身に付ける。
			英語学応用セミナー		S4		4	英語の統語論，機能論，語用論，意味論の分野の中から学生が選んだ個別の研究テーマに即して文献を読み進め，適宜言語資料を収集する。その結果得られた英語学的知見を整理し教育現場で活用できるよう検討する。
			英米文学基礎セミナー		S4		3	英文学，米文学，および文学理論等について，基礎的な知識を修得させ，学生が個別に取り組むべき問題を設定できるように指導する。
			英米文学応用セミナー		S4		4	英文学，米文学，および文学理論等について，より一層知識を深めるとともに，学生が設定した個別の問題の発展的な研究を指導する。
			英語科教育基礎セミナー		S4		3	英語教育学の専門領域における理論的研究を掌握しながら，教科臨床や教材分析への基礎力を習得させる。
			英語科教育応用セミナー		S4		4	英語教育学の専門領域における理論的研究を掌握しながら，より発展的な知見と能力を育成し，英語科教育の研究および臨床への応用をはかる。
	実践セミナー		実践セミナーⅠ「英語」	S2			3	英語学および英米文学，英語教育学の各専門分野で学んだことを，実践場面において英語の授業を行うという観点から統合する。また，英語の教科指導および教材・カリキュラム開発に関する能力を，教育実習に連動させながら具体的な実践場面に即して育成する。
			実践セミナーⅡ「英語」	S2			4	実践セミナーⅠを踏まえ，教育実習に連動させながら具体的な実践場面において，英語の教科指導および教材・カリキュラム開発ができるような発展的な能力を育成する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 単次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	考古学認識論		L2		3	考古学について基礎的な理解を深めることを目的とする。どのような方法論が用いられているかについて、学史を含めて解説する。発掘調査等も行う。
	日本前近代社会史認識論		L2		3	近年の歴史学の研究成果に基づき、前近代史に関わる諸問題について検討する。特に東アジア世界の中で日本近代史をとらえる視点を重視し、地域をめぐる諸問題や地域と国家の問題について検討する。
	日本近現代社会史認識論		L2		3	明治期からファシズム期にいたる近代日本国家の帝国主義的海外膨張の過程を地域と民衆の視点から再検討し、戦後社会への継承の問題を映画や音楽などの視聴覚教材なども用いて考察し、近日本における対外認識の系譜を論ずる。
	地域調査法 A		S2		2	日本史を中心に歴史学・民俗学・考古学の相互の関連性を日本海側地域をフィールドに巡検・調査し、地域調査の方法や地域の問題点を探る。将来、教育現場においてフィールドワークを行うための基本的知識を修得させる。
	歴史・民俗資料演習		S2		2	歴史・民俗世界を構成する資料（史料）に関する基本的な理解と解釈を目指して、古文書などの文字史料をはじめとし、画像史料や音響史料、建造物や民具などの意味について考え、具体的な読解力を養成する。
	ユーラシア史認識論		L2		3	世界史認識の変遷をヨーロッパ世界とアジア世界との相互関係を中心に論ずる。歴史認識の変化の背後にある認識枠組の変化や世界史研究・教育の最新動向を多様な資料。
	ヨーロッパ史認識論		L2		3	ヨーロッパ近代社会における私的生活圏と公的生活圏の分離－再統合化－再分離化の過程を、特にフランスとドイツ語圏の社会的規律化に関する最新の膨大な研究成果を紹介しながら、検討し、両者に特有な個－共同性の認識枠組を読み取ることを試みる。
	地理学実験		P2		2	地理的諸事象の観測・計測・分析方法やその結果の表現方法に関する実習を、地形図、空中写真、各種統計等を用いて行う。また、都市的巡検を通して、地域事象の観察眼を養う。
	地域調査法 B		S2		2	身近な地域を対象として、地理学的視点からの地域巡検を行う。様々な地理的事象が観察・考察できるルートを選定し、そのルートに沿って地点ごとに諸事象の観察を行い、自然条件や立地条件等について考察する。また、他地域との比較、一般的立地論等に関する検討を行う。
	自然地理学		L2		3	自然地理学の概念及び理論等について、主に河川、湖沼、地下水などの水文事象を取り上げて講述する。また、水に関する環境問題を通して、学際分野における総合的な問題解決方法についても解説する。
	経済地理学		L2		3	農業・工業・商業などの経済的諸事象の場所的・空間的規則性・秩序を論ずるのが本講義の目的である。産業立地論・経済地理学基礎論に基づいて、地域の具体的事例を通じ、空間的規則性・傾向性についての認識を深めたい。
	地理学野外実験		P2		3	地理的諸事象について、実際に観測、計測、調査する能力を養う。事前に調査内容等について検討を重ねた上で、3泊4日程度の日程で調査対象地域へ出かけ、テーマに従って実地調査を行いレポートを作成する。
	国際地誌学		L2		3	刻々激動を繰り返す世界を学ぶには、絶えず最新のデータ・情報を盛り込んだ史料を基に考えることが大事である。講義では国際地誌を中心に各種統計・試料の読み方を修得させる。
	地図と地誌		L2		2	日本の北から南までの代表的な事例について、地形図を基に作業しながら地理的事象の様々な面について学ぶ。詳細に事象を見る能力を身につけさせる。
	地誌学外書講読		L2		3	平易な文章・図版のテキストをゆっくり読む。地理的事象を厳密に学習する手がかりが得られるよう、英語で書かれた本文だけでなく図表をよく吟味する方法を学ぶ。
	法律学文献講読		L2		3	法律学に関する文献の講読を通じて、法律学の理論・研究方法を学ぶことを目的とする。
	経済学文献講読		L2		3	経済学に関する文献の講読を通じて、経済学の理論・研究方法を学ぶことを目的とする。
	社会学文献講読		L2		3	現代社会学に最も大きな影響を与えた研究者をとり上げ、問題史、方法史、論争史の文脈に位置づけ、その現代的意義を検討する。古典を味読することによって、問題を発見し、分析する能力を培うことをねらいとする。
	地域調査法 C		S2		2	社会調査法の基本を習得する。社会調査の種類方法（訪問面接法、質問紙法、郵送法など）や技法（観察法・面接法、サンプリング）を学び、自分の問題意識に即して調査計画を立て、社会調査を実施し、集計と分析を行い、報告書にまとめる。
	倫理学文献講読		L2		3	倫理学概説を受講し、更に倫理学の理解を深めようとする学生を対象に、学生の興味関心に応じて、専門書の講読を行う。
	哲学文献講読		L2		3	哲学に関する文献の講読を通じて、思索の意義を追究することを目的とする。
	宗教学文献講読		L2		3	宗教学に関する文献の講読を通じて、宗教学の理論・研究方法を学ぶことを目的とする。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	一般心理学		L2		2	心理学における研究方法論を他の隣接諸科学の方法論と比較しながら概説する。人間、こころの理解のしかたとその歴史を学ぶことを通して、仮設構成概念を用いた自然科学的アプローチを知る。
	社会心理学		L2		3	対人関係の発達、自己、対人認知、対人魅力、態度変化など、社会心理学の主要なテーマについて、発達の視点を交えながら平易に解説し、各領域の基本的な概念や理論を習得することを目指す。
専門セミナー	社会科・地理歴史科指導法 A		L2		3	「地理歴史科」成立にいたる社会科教育の歴史的展開をたどり、「地理 A」「地理 B」の目標・方法・内容などについて評論し、空間認識の課題を講ずる。また「地理 A」「地理 B」のシミュレーション教材を中心に開発する。
	社会科・地理歴史科指導法 B		L2		3	「地理歴史科」成立にいたる社会科教育の歴史的展開を明らかにし、中学校歴史的分野を中心に高校の日本史教育ならびに世界史教育に関する教材開発と授業方法について究明する。
	社会科・公民科指導法		L2		3	社会科教育および公民科教育の理念を社会科・公民教育史の検討をも踏まえて分析したのち、中学校社会科および公民科の授業について、認識論、カリキュラム論、構成論を中心として実践的検討を行い、教材研究能力と教材開発能力を培う。
	日本史システム専門セミナー I		S4		3	日本前近代史・近現代史の領域に関わる理論的な問題や資料について学習するとともに、受講生による個別報告によって相互の研究成果を共有していく。
	日本史システム専門セミナー II		S4		4	日本史システム専門セミナー I の成果をふまえて、卒業論文の作成にかかわる研究を進めていく。
	外国史システム専門セミナー I		S4		3	諸外国の歴史記述・表象に関する文献・資料を読解し、履修者による発表・討論をおこなう。履修者が、自主的に調査・研究するなかで過去の出来事を全体的・構造的に把握する力を養うことをめざす。
	外国史システム専門セミナー II		S4		4	諸外国の歴史記述・表象に関する文献・資料を読解し、履修者による発表・討論をおこなう。履修者が、自主的に調査・研究するなかで過去の出来事を全体的・構造的に把握する力を養うことをめざす。
	地理学専門セミナー I		S4		3	卒業研究に地理学分野を選択した学生を対象にした演習を行う。卒業研究とは何か、テーマ選択、調査・考察方法、論文読解等の基礎を学ぶ。
	地理学専門セミナー II		S4		4	地理学専門セミナー I に引き続き開講される。卒業研究の中間発表を繰り返しながら、最終的に卒業研究を完成させる方法を学ぶ。
	倫理学領域専門セミナー I		S4		3	広義の哲学・倫理学関係の卒業論文を作成しようとする学生を対象に、論文執筆のための基本的事項の習得（語学の習得を含む。）を目指す。
	倫理学領域専門セミナー II		S4		4	倫理学領域専門セミナー I を受けて、論文の完成に向けてより専門的な指導を行う。
	宗教学領域専門セミナー I		S4		3	宗教文献及び宗教学関連文献の読解を中心に、宗教を研究するための基礎的な能力を養成することを目指す。
	宗教学領域専門セミナー II		S4		4	宗教学領域専門セミナー I で養成された能力に基づき、特定の研究テーマによる個別研究を実施し、経過報告とそれへの指導及び討議を通じて、研究報告を作成する。
	法学領域専門セミナー I		S4		3	法学関係のテーマでの卒業研究を予定している学生を対象に、研究遂行のための基礎的知識・技能を習得させることを目指す。
	法学領域専門セミナー II		S4		4	法学領域専門セミナー I を受けて、卒業研究の完成に向けてより専門的な指導を行う。
	経済学領域専門セミナー I		S4		3	経済学関係のテーマでの卒業研究を予定している学生を対象に、研究遂行のための基礎的知識・技能を習得させることを目指す。
	経済学領域専門セミナー II		S4		4	経済学領域専門セミナー I を受けて、卒業研究の完成に向けてより専門的な指導を行う。
	社会学領域専門セミナー I		S4		3	社会学関係のテーマでの卒業研究に必要な基本的能力を学ぶ。1.論文とは何か。2.文献検索の仕方。3.問題の発見と問題の立て方。4.学術論文や文献資料の読み方。5.メモ・ノートの取り方。
	社会学領域専門セミナー II		S4		4	社会学関係のテーマでの卒業研究のプレゼンテーションの基本を学ぶ。1.論文の組み立て。2.文献及び統計資料の検索の仕方。3.先行研究の整理の仕方。4.学術論文における論証の方法。5.メモ・ノートの活用法。
	社会科教育専門セミナー I		S4		3	社会科教育、地理教育、歴史教育、公民教育にかかわる論文の読解を通して研究課題と研究方法を明確化するとともに、先行研究の分析を踏まえた個別研究の計画を作成する。
	社会科教育専門セミナー II		S4		4	社会科教育、地理教育、歴史教育、公民教育にかかわる個別研究テーマに沿って発表と討論を行い、論文作成に向けての基礎的能力を培いながら論文内容の分析・検討を行う。
実践セミナー	実践セミナー I 「社会」	S2			3	社会科に教育実践現場に関わる目標論・内容論・方法論的な諸問題を普通教育実習の実施に即しながら研究する。
	実践セミナー II 「社会」	S2			4	中等社会科教育の実践現場に関わる目標論・内容論・方法論的な諸問題を中学校教育実習の実施に即しながら研究する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	専 門 科 目 数 学 分 野	数学基礎演習Ⅰ	S2		2	数の公理的構成、数の集合と代数的構造について考察する。
		基礎線形代数学	L2		2	選択制のため高等学校において講義を受けていないが、「ベクトル空間の概念等」は大学の授業においては必要である。ベクトル空間に関する事柄の計算をする側面と論証的な側面を、バランスをとりながら進める。
		線形代数学		L2	2	基礎線形代数学で学んだことをもとにして、抽象ベクトル空間、線形写像の基本的性質、線形写像の固有値と固有ベクトル、内積と直交行列について講義する。
		代数学A		L2	3	環、体の基礎的理論を解説し、それを有整数環と多項式環に適用することによって、初等整数論における基本的結果を導く。
		代数学B		L2	4	群論の初等的性質である演算、結合法則、乗積表、部分群、群の位数、正規部分群、準同型写像、同型定理等を講義する。
		数学基礎演習Ⅱ	S2		2	これまでの平面での解析幾何学を既知として空間での曲面論について論及し、とくに2次曲面の分類を最終的に考察する。
		幾何学A		L2	3	ユークリッド空間内の曲線と曲面について、基礎的な事柄を中心に講義する。特に曲線の曲率及び曲面のガウス曲率と平均曲率について述べる。更にこれらはそれぞれ曲線と曲面の基本的不変量であることを十分に説明する。
		幾何学B		L2	4	位相幾何学、とくにより身近な4次元空間までの単体的複体をもとに曲面の分類を考察する。
		幾何学C		L2	4	射影幾何学の基礎的、基本的な内容について講義する。特に、射影的不変量（複比など）について講義する。射影幾何の概念を用いて、ユークリッド幾何学の定理が簡潔な証明ができることも講義する。
		微分積分学	L2		2	多変数の微分である偏微分を中心に学習する。主として、全微分と合成関数の微分法、テイラーの定理、陰関数の定理である。さらに、線形微分方程式の基本定理と解法などを取り扱う。
		微分積分学演習		S2	3	微分積分学に引き続き、主として2変数関数の積分法について講義演習する。重積分、変数変換や、曲面の面積についての計算方法を講義演習する。
		解析学A		L2	4	複素数を変数とする複素数値関数の微分法について学習する。複素数の導入、複素数の図表示、複素数関数、微分可能関数、等角写像、複素変数の指数関数や対数関数を取り扱う。
		解析学B		L2	4	解析学Aに引き続き、複素関数の積分法について学習する。複素積分、回転指数とその応用、コーシーの積分定理、正則関数の基本的な性質、留数定理などを取り扱う。
		確率論		L2	3	確率論の基本的理論である確率測度、確率空間、確率変数、確率分布、平均、分散などについて例を交えて丁寧に講義する。
		数理統計学		L2	4	数理統計学の基本的理論について講義する。マルコフ連鎖に関連した数理統計学の最先端のトピックスについても講義する。
		計算機数学演習	S2		3	プログラム作成と実行を通して、構造化プログラミングの方法について学ぶと同時に、コンピュータを利用した数学の探究を行う。
		数学科指導法		L2	4	数学教育についてその目標論、内容論、方法論、評価論など全般にわたってできるだけ具体的事例を盛り込みながら授業を展開する。学生の方も常に「生徒はどのように考えるか」の問題意識を持って参加し、数理的事象の問題解決のおもしろさや不思議さを感じ取る。
	専 門 セ ミ ナ ー	代数学セミナーⅠ		S4	3	代数学の分野における基礎的な概念と計算方法について演習する。
		代数学セミナーⅡ		S4	4	代数学の分野における特定の話題について演習する。
		幾何学セミナーⅠ		S4	3	幾何学分野における基礎的な概念、計算方法または考え方について導入しこれらの演習をゼミ形式で行う。
		幾何学セミナーⅡ		S4	4	曲面上の幾何学について、基礎的な事柄を中心にセミナーをする。特に、リーマン幾何学へと自然に拡張される事柄は十分強調しながら進める。
		解析学セミナーⅠ		S4	3	解析学の分野における基礎的な概念と計算方法について演習する。
		解析学セミナーⅡ		S4	4	解析学の分野における特定の話題について演習する。
		数学教育学セミナーⅠ		S4	3	数学教育学の分野における基礎的な概念について演習する。
		数学教育学セミナーⅡ		S4	4	数学教育学の分野における特定の話題について演習する。
	実 践 セ ミ ナ	実践セミナーⅠ「数学」	S2		3	算数・数学の内容を授業で展開する仕方を、演習形式で学ぶ。
		実践セミナーⅡ「数学」	S2		4	教師間の相互作用を通して授業実践を向上させる仕方を演習する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	専門科目 理科学分野	物理学	L2		2	物理学全般にわたって、基礎的な事柄について理解を深め、物理学の基本となる概念を学び、物理的自然観を身につけさせることを目的とした講義を行う。今後の学習のベースとなるものなので、確実に理解できるようにする。
		物理学実験	P2		2	力学、熱学、光学、電磁気学等に関する基礎的な物理学実験を通して、実験の意義、測定方法、測定結果の解析法と考察のほか、実験装置の取り扱い方などを習得するとともに、物理的なものの考え方についての理解を深める。
		化学	L2		2	酸・塩基、酸化・還元や錯体反応および元素のつくるとる単体や無機化合物などの性質について系統的に考察する。また、有機化学では、反応速度論や反応機構について解説する。さらに、基礎化学全般にわたる課題をとりあげ、化学の素養を養う。
		化学実験	P2		2	各種の陽・陰イオンの特異的な化学反応を応用した定性分析、酸・塩基の中和反応、酸化還元反応および錯形成反応を利用する定量分析などの実験を行う。さらに、クロマトグラフィーや電子スペクトルを利用した機器分析などについての各課題について実験を行う。（種々の化学反応および化学実験の基礎を中心とする。）
		生物学	L2		2	植物の形態と生態、動物の行動と生態、生物の遺伝と発生、などの生物学の基礎的内容について講義を行う。将来、より高度な講義内容が理解できるように、最近のトピックスもまじえながらやや専門的内容も加える。
		生物学実験	P2		2	様々な動・植物を材料とした実験・観察を通して、生物の示す多様性とそこにひそむ共通性を理解するとともに、顕微鏡の使い方、スケッチの仕方、解剖の仕方など、生物学の基礎的な実験・観察方法を習得する。
		地学	L2		2	地球の外観と構成物質、プレート・テクトニクスと地圏環境の発達史、地球・月の軌道、日周運動および地球大気の大気現象など地学全般について理解を深める。また、各教官がどのような研究を行っているのかを具体例を挙げて紹介する。
		地学実験	P2		2	岩石・鉱物の肉眼鑑定による分類、野外での地層観察、気象現象の解析法を具体的に学び、基礎地学の内容理解を深める。また、これらの実験に必要なデータの処理方法にはコンピューターを活用させる。
		理科教育学	L2		2	理科教育学が扱う対象を、具体的な事例を通して紹介する。その中で、理科教育学が明らかにした基礎的成果を学ぶと共に、基礎的な研究方法論を学ぶ。内容には、「目的論」、「指導論」、「学習論」を含ませる。
		力学		L2	3	物理学の基本である力学について、まず、質量・力・運動量・角運動量・エネルギーなどの基本的な物理量の概念を明確に理解できるようにする。さらに身近な自然現象に対する物理的なものの見方や考え方を習得する。
		光学		L2	3	光の発生、光の性質、光が示す様々な自然現象などを通して、光学の基礎を習得させ、光学への興味や理解を深めることを目的とした講義、演習を行う。「基礎物理学」を履修していること。
		電磁気学		L2	3	物理学の基礎の一つであり、相対性理論形成のきっかけともなった電磁気学について、深い理解を得るための講義をする。特に、電磁場内での荷電粒子の運動を詳述する。「基礎物理学」を履修していること。
		現代物理学		L2	4	アインシュタインの相対性原理、時間と空間の構造、質量とエネルギー、不確定性原理、存在確率の波、飛び飛びのエネルギー、半導体、超伝導などの話題を通して具体的に学び、現代物理学の基本的な概念を習得する。
		物性物理学		L2	4	物質についての理解を深めることを目的とした講義を行う。特に、物質を構成する原子・分子の集合状態とそれに関連する物質の諸性質について詳述する。「光学」を履修していること。また、「力学」、「電磁気学」を履修していることが望ましい。
		応用電磁気学		L2	4	荷電粒子、電場、磁場などに関連した学術論文をセミナー形式で講読すると共に、研究の方法およびデータのまとめ方を修得する。「力学」、「光学」、「電磁気学」を履修していることが望ましい。
		物理化学		L2	3	物理化学の基礎を学ぶ。すなわち、原子や分子の構造、気体や液体や固体の性質と状態の変化、化学反応における平衡や速度に関する法則など、化学全般にわたる物理化学的内容の学習へとつぎなう。学問の展開の根拠と方法のエッセンスを把握すること。
		有機化学		L2	3	有機化学の基礎的原理や基本概念、さらに、置換反応、脱離反応、付加反応、転位反応といった有機化学の基本的な化学反応を理解させ、それらの反応機構について述べる。また、各種の反応を組み合わせる目的の化合物を合成する方法論についても述べる。「基礎化学」を履修していること。
		分析化学		L2	3	錯形成反応、沈澱生成反応や酸化還元反応などについて論じる。又物質の分離など分析化学の具体的理解を深める。「基礎化学」を履修していること。
		分析化学演習		S2	4	分析化学と関連させて、各種データの取扱いや、反応の平衡論的取扱い、新しい分析化学反応についても考える。「分析化学」を履修していること。
		有機化学演習		S2	4	有機化学の講義と関連させて、各種の化学反応、反応機構の解明方法について演習問題を解く。さらに、化合物の合成方法について実際に実験を行う立場から、種々の化学反応をどううまく組み合わせる目的を達成しようとするか等について、演習形式で多数の問題を解く。「有機化学」を履修していること。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目 専門科目 理科分野	物理化学演習		S2		4	物理化学の学習には、問題演習が有効である。受講者は、多数の問題を解く。ここでは、標準的な物理化学演習として、分子の結合理論、構造決定法、物質の統計論、化学熱力学の法則などを、あつかう。簡単な電卓や数表が必要である。
	物理学習教材演習		S2		4	小、中、高校までの教科書で扱われる物理分野の教材や実験を取り上げ、それらの教材や実験の意義を物理学の歴史や現在のトピックスとの関わりの中で理解させる。さらに、実際の授業に利用できる物理教材を工夫させ、その教材の評価を演習形式で考察させる。
	化学学習教材演習		S2		4	学校教育における化学分野に関する教材を取りあげる。化学の基本的原理や法則を学習する上で、1) 有効な教材であるかどうかについて、2) 創意工夫を加えた教材の改良等について、および3) 生徒が実際に実験をする際の操作上の留意点等について、演習形式で考察する。
	生態学		L2		3	生態系の概念を中心に生物界のエネルギー流や物質循環をめぐる構造と機能を考え、その生物学的単位としての生物群集や個体群の諸性質を概観する。晴天日には学内の林に入り、生き物のいる自然の成り立ちを学ぶ。
	形態学		L2		3	維管束植物のおもな器官と組織について、比較形態学的な立場から植物の多様性を考察し、形と機能の両面から身近な植物の形態を見直すとともに、植物の環境への適応性について認識を深める。
	細胞学		L2		3	生物の遺伝、発生、様々な生理現象の理解に必要な細胞に関する幅広い知識を得ることを目的とする。細胞の構造と機能、細胞分裂などに加えて、細胞を構成する核酸、蛋白質、炭水化物などの生体高分子についても講義を行う。
	生物学野外研究法		P2		3	動植物の野外観察、採集、標本作製を行いながら、その方法を学び、動物相、植物相の調査方法、動植物の生活史や種間関係の調査方法など、野外における生物学の基礎的な観察方法を習得する。
	生物学野外実習		P1		3	原生林を訪れ、そこに生息する代表的な動植物の観察を通して、生き物のいる自然の成り立ちや活動、生物界の競争と協調の原理、生物の多様性と適応性の理解を深めるとともに、野外における自然観察能力を養う。
	地球物質科学		L2		3	岩石学・鉱物学の基本的概念を学び、これらをもとに地球の創生期から現在までの地球物質の分化にともなう固体地球発達史を考える。
	地圏環境進化学		L2		3	基礎地学で講義した基本的知識に基づき、堆積物や化石から地質時代の環境を復元するための方法を学ぶ。また、これらの方法を用いて復元された地質時代の環境の変化、その要因、生物進化との関係について理解を深める。
	気象学		L2		3	地球大気の組成、気圧の鉛直分布、気温の鉛直分布、風向風速の空間分布等にいかなる支配則が存在するか、またその結果いかなる特徴が生じるかについて事例を交えながら論じる。
	地球物質科学実験		P2		3	野外で鉱物・岩石・火山灰などを採集し、肉眼や偏光顕微鏡下での観察をおこなう。その観察をもとに鉱物・岩石の生成過程を考察する。また自然災害にたいする野外観察をおこなう。
	地圏環境進化学実験		P2		3	野外で地層観察と貝化石採集を行い、その場所の堆積環境を復元する。また、その近傍の海岸の堆積物、現生貝類の組成、文献から現在の環境をまとめ、地質時代と現在の環境の差異について、その要因を考察する。
	気象学実験		P2		3	気象学における基礎的な観測、情報収集、解析の知識・技術を習得させる。基礎的な観測は野外で行うが、曜日時間を授業時間で固定されているため典型的な気象現象に常に遭遇できる訳ではない。気象現象そのものの観測は野外実習で体得させる。
	地学野外実習		P1		3	地球の構成物質、プレート・テクトニクスや地圏環境の発達史、地球大気の諸現象などの観察方法、データの収集方法についての野外実習を行う。また、収集されたデータを解析し、考察する。
	理科指導法		L2		2	主な理科指導法について、それらの形態、長所・短所、歴史的・社会的背景などについて講義をする。特に総合学習とSTSの比較、理科嫌い・理科離れと指導法との関連などについて欧米と日本との比較を行う。
	理科指導法演習		S2		3	上述の「理科指導法」に関する演習を行う。授業参観、授業分析、マイクロティーチングなどにより演習を行う。理科の授業に関して、日本と欧米の比較・分析を行う。
	理科学習過程論		L2		2	理科学習という具体的な教科活動の中に、認知心理学等の成果を取り入れた事例を紹介する。具体的には、学習者と教師との認識のギャップを中心的なテーマとして扱い、具体的な事例を紹介しながら、それに対応した授業方略について述べる。
	理科教材開発論		L2		2	理科学習指導過程において、教材の意味と、教材と学習者の関わりに注目し、教材開発に必要な視点を述べる。学習者のコミットメントに注目した教材開発の必要性を論じ、学習者の理解の過程を検証できるような授業実践場面を取り入れる。

教科・領域教育専修 自然系コース

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	専門セミナー 理科分野	物理学セミナーⅠ		S4	3	物理学分野の学術論文を講読し、これを人に紹介したり、中味を討論する中から、未知の領域における問題解決法および新しい事実の発見法、そして研究の方法およびデータのまとめ方を訓練し習得する。
		物理学セミナーⅡ		S4	4	特定のテーマについて、調査、理論、計画、実験等の諸手段を総合し、これまで習得した学力を集結して物理学をより深く理解し、あわせて研究のまとめ方、論文の作成、および発表の方法等を体得する。
		化学セミナーⅠ		S4	3	化学分野の学術論文を講読し、この研究の目的、実験、データのまとめ方など研究の方法とその結果についての評価を行なう。また、研究の位置づけと、教育実践への応用の可能性についても討議する。
		化学セミナーⅡ		S4	4	卒業研究のテーマにしたがって、研究に必要な理論的な事柄や物質、測定機器の取り扱い方および研究に必要な周辺領域の演習も行なう。
		生物学セミナーⅠ		S4	3	生物分野の基礎的な学術論文を講読し、研究の進め方、研究材料の取り扱い方、実験方法、データのまとめ方、などを習得する。また、受講者に研究のプロセスを体験させることにより課題探求能力を育成する。
		生物学セミナーⅡ		S4	4	生物分野の学術論文を講読し、研究の進め方、研究材料の取り扱い方、実験方法、データのまとめ方、論文作成方法などを習得する。また、受講者に研究のプロセスを体験させることにより課題探求能力を育成する。
		地学セミナーⅠ		S4	3	地球の構成物質、プレート・テクトニクスや地圏環境の発達史、地球大気の大気現象などに関する初歩的な原書を講読させ、地学の基礎力を養う。また、これらをとおして、自然観察能力と課題解決能力の基礎を養う。
		地学セミナーⅡ		S4	4	自分が実施している研究作業で得られたデータをまとめ、考察を行う。その際に、先行研究の調査を行い、卒業研究の学問的意義について理解を深める。また、研究成果を効果的に発表する方法についても学ぶ。
		理科教育学セミナーⅠ		S4	3	理科教育学の先進的な論文を教材とし、その研究手法が開発された背景、特長、欠点を検討する。上記を通して、理科教育学の基本的な論証と実証の手法を学ぶことを目的とする。
		理科教育学セミナーⅡ		S4	4	理科教育学セミナー・で学んだものを基礎として、基本的かつ具体的なテーマを設定し、データ収集、分析、論証を実際に行う。
	実践セミナー	実践セミナーⅠ「理科」		S2	3	具体的な授業場面において発生する問題について教官、大学院学生とともに討議し合い、学生が問題探求型の理解と洞察力を養うことを目指す。
		実践セミナーⅡ「理科」		S2	4	具体的な授業場面において発生する問題について教官、大学院学生とともに討議し合い、学生が問題探求型の理解と洞察力を養うことを目指す。

教科・領域教育専修 芸術系コース

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	専門科目 音楽分野	独唱Ⅰ		S2	2	ボディワーク、発声法、母音唱法のトレーニングによって歌唱の基礎技能を培うと共に、日本歌曲の学習を通して的確な歌唱表現力を習得し、学校教育における歌唱指導へ展望を持った実技の実践研究を行う。
		独唱Ⅱ		S2	2	「独唱Ⅰ」で習得した歌唱技能を更に独唱能力として高めると共に、基本的な音楽様式を持ちベル・カント唱法の習得に適したイタリア歌曲を加えて実技研究を深め、豊かな歌唱表現力を養成する。
		合唱		S3	2 ～ 4	合唱の演奏及び指導に関する諸要素を総合的に学ぶ。2～4年次生で合同授業の形態をとり、発声法、歌唱法、指揮法、伴奏法等の演習を行い、学習の成果を演奏会の場で発表する。
		ピアノ独奏Ⅰ（伴奏法を含む。）		S2	2	ピアノの基礎技術の習得。
		ピアノ独奏Ⅱ		S2	2	ピアノの応用実践力の獲得。
		合奏AⅠ		S2	3	基礎的な合奏技術と表現法を体得する。
		合奏AⅡ		S2	3	「合奏AⅠ」の基礎技能に立脚し、より高度な演奏法を体得する。
		合奏B		S2	3	バリ様式のガムラン音楽を中心に、アジアの合奏音楽を実習する。とりわけ、伝統的に楽譜を全く用いないアンサンブルにおける独自のコミュニケーションを体得する。
		合奏C		S2	3	日本の楽器の演奏法の習得。箏の集中講義2日間を含む。我が国に伝わる200種類以上の楽器の実態を学び、それぞれの演奏技法とアンサンブル方法についての体験を行う。また、音楽授業におけるこれらの楽器の活用方法を学ぶ。
		指揮法Ⅰ		S2	3	指揮の基本技術と音楽表現のための基礎理論を習得する。
		指揮法Ⅱ		S2	3	「指揮法Ⅱ」の理念を基に、より高度な指揮による演奏法を習得する。
		作曲基礎		S2	2	楽典や楽譜の正確な書き方から出発し、作曲の基礎となる和声の概念を修得する。最終的には旋律にピアノで簡単な伴奏付けができる段階まで進む予定である。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	音楽分野		S2		2	ここでは2つの方向から分析を行う。(1)音楽が実際にどんな構造を持っているか観察する。(2)なぜその音楽を聴いて感動するのか、なぜ音楽作品がある意味とまとまりを持って聞こえるのか考える。
			S2		2	作曲基礎の内容を発展させ、より高度な作曲、編曲の技術を学ぶ。毎回新しい作曲技法を解説し、各自が応用を試みる。最後にはそれらの技術を総合して少し規模の大きい作品を制作する。
		L2			2	中世から20世紀末に至る西洋芸術音楽の歴史を、作品の様式変遷と社会・文化的脈絡の両面から概観する。それにより、音楽史上重要な作曲家と作品について理解を深め、同時に現代の音楽状況を反省する契機を獲得する。
			L2		2	日本の伝統音楽の歴史と理論。我が国に伝わる音楽の全体像を学習し、音階の特徴、リズム法の特徴、記譜法について実際の楽器を体験しながら学ぶ。
			L2		3	地域社会に根ざした伝統音楽(民俗芸能、民謡、わらべうたなど)を実地調査し、その音楽的構造、生活との関わりを分析する。調査における方法論的問題、芸能の伝承・創造のための新たな方策についても検討する。
			L2		3	小中学校の音楽教育における鑑賞教材について教材例を提示し、その指導法について、音楽構造の特徴、作品成立の背景が及ぼす作品への影響、作曲家と作品、民族と作品など、音楽学の側面から教材を分析し、教材に対する基本的な知識を習得する。
			S4		3 4	受講者全員が討議を重ねながら共同でオリジナルな音楽劇作品を制作し上演する。内容としては台本の執筆、作詞作曲編曲、歌、演技、演出から大道具、小道具、衣装の製作、音響や照明なども含まれる。
			S2		2	我が国の中等教育における音楽科教育の動向を概観し、これからの目的・目標と内容を追究するとともにその実践的な授業の構想と指導法の検討を行う。
			S2		2	学習者の学びと成長の視点に立ち、表現、鑑賞両分野における音楽の指導の基礎と応用を学ぶ。内容は音楽授業の記録(録音、録画等)及びそれらの分析、討論、実際の授業の見学及びマイクロティーチングを含む。
			S2		3	中・高等学校における、総合的な学習について、主に音楽科と他教科とが関わった実践の指導法について考察する。具体的な実践事例のVTRなどを参考としながら、授業の改善点を模索、検討していく。
		S2			4	学生が作成した中学校音楽科の学習指導案を検討し、マイクロティーチングを実施。外部講師による教育実践現場の指導や中学校での教育実習を基にした音楽授業の改善を試みる。
	専門セミナー		S4		3	個別指導のもと、基本的な呼吸法・発声法、ボディーワーク、楽曲分析法、詩の分析法、歌曲(日本、イタリア、ドイツ)の演奏法を学び、歌唱表現法の基礎となる力を養う。
			S4		4	一人一人の個性に適した選曲がなされる。セミナーIで学んだ歌唱技能をさらに深めながら歌曲、オペラ・マリア等(日本、イタリア、ドイツ、フランス)の演奏法を学び、より豊かな歌唱表現法を研究する。
			S4		3	音楽の表現法をピアノを通して追求する。
			S4		4	ピアノを通したより深い音楽表現法の育成。
			S4		3	管楽器を通して音楽表現法を追求する。
			S4		4	管楽器を通してより深い音楽表現法を追求し、ミュージシャンシップを育てる。
			S4		3	弦楽器を通して音楽表現法を追求する。
			S4		4	弦楽器を通してより深い音楽表現法を追求し、ミュージシャンシップを育てる。
			S4		3	音楽関連の参考図書及び各種情報源の活用、研究論文の読解、研究計画の作成、口頭発表の技法の習得などを通じて、学問の対象として音楽を認識する能力を高める。
			S4		4	「音楽学セミナーI」で習得した知識と技能に基づいて、より高度な音楽学的思考を身につけさせるとともに、その思考の結果を的確かつ説得的に表現するための能力を向上させる。
			S4		3	基礎的な和声学の習得及び作品の分析を行う。 実作に向け、自分の体験を深めながら方向性を探る。
			S4		4	作曲セミナーIの内容を発展させ、様々な様式の作品を分析することにより、さらに高度な作曲、編曲技術を学ぶ。また継続して和声学の実習を行う。最終的にある程度の規模の作品を完成させる。
			S4		3	音楽科教育の実践報告や学術論文の講読を通して、音楽科教育研究の基礎的な知見と能力を修得する。
			S4		4	音楽科教育の専門領域の中から個別に問題を設定し、先行研究の探索、問題の整理などを通して、研究能力を高める。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	実践セミナー 音楽分野	S2			3	音楽科の担当教師として必要不可欠な実践能力の基礎を学ぶ。授業は4年生、大学院生と合同で行い、それぞれの立場を生かした活発な議論、活動を通して、指導技術、指導実践力の養成を目指す。
		S2			4	音楽科の担当教師として必要不可欠な実践能力を養成する。授業は3年生、大学院生と合同で行い、それぞれの立場を生かした活発な議論や活動を通して、各分野の指導技術と共に音楽の専門的知識の充実を目指す。
	美術分野 専門科目	S1			2	絵画に用いられる様々な素材を体験することによって、その方法を学び、造形の基本的な意味と構造を理解する。また、材料や用具の基本的知識とともにその扱い方や行為の発生を体得する。
			S2		2	絵画は独自の素材と技法によって、多様な表現を生み出してきた。制作に実践及び伝統的な作品の鑑賞を通して絵画の表現方法の特性について学び、幅広い絵画表現の可能性を探る。
			P2		3	日本画の素材と技法から表現できる可能性を制作を通して追究してみる。
			P2		3	油彩画の材料の特徴を知り、その制作を通し絵画表現のさらなる可能性を探る。静物画や人物画を課題とする。
			P2		3	銅版画と木版画を中心に、版を媒体とした制作過程による新たなイメージの発見と生成を体験し、絵画表現の広がり可能性を学ぶ。また、版画制作には美術の基礎教育に必要な多くの課題がそのプロセスに含まれていることから、広く教材開発の基礎的能力を養う。
			P2		3	(集中) モデル実習を通して人体の動きや構造を理解し、さまざまな画材、方法を用いてそれぞれの表現を工夫することによって、人物、人体表現の個性的な違いを学ぶ。
		S1			2	様々な立体造形素材や身近な材料を用いた造形活動から、素材の特性を知り、多様な造形への展開の基礎とする。
			S2		2	彫塑としての必要な立体感覚、特に形・面・量などの造形意識を習得させる。粘土による頭像制作、石膏による型取り、張り込み、修正方法など、基本的な素材の体験、技法習得を中心に研究を行う。
			P2		3	彫塑表現Ⅰで得た諸能力を出発点とし、より高次の彫塑における立体感覚力及び立体表現力の伸展を図る。また、人体制作の基本的な考え方と技法を身につける。
			P2		3	(集中) 彫塑表現Ⅱで会得した人体制作の考え方、技法を基に、人体をモチーフとして像を制作する。その際表れる造形上の問題点を克服し、各自の表現方法を追及する。
		S1			2	デザインに用いられる様々な素材の特性と多様な表示方法から、デザインの基本的なあり方を理解し、多様なデザイン表現への展開の基礎とする。
			S1		2	図法及び製図の基礎的知識と技法を学び、さらにデザイン活動に繋がる多様な表示方法とその表現を体験する。
			S1		2	図法及び製図の基礎的知識と技法を学び、さらに工芸の表現活動に繋がる多様な表示方法とその表現を体験する。
			S2		2	双方向的なコミュニケーション手段としてのデザインの本質的な機能の理解と、学校教育において必要とされるデザインの計画性、論理性などの各能力の育成を促す。
			P2		3	デザインワークⅠより派生した視覚伝達デザインの基本的諸要素を検討し、情報とメディアの構造とその社会的意義の理解を体験として身体化することを促す。
			L2		3	デザイン成立過程の検証を通してデザイン概念を明らかにするとともに、情報とメディアの構造に関する考察や記号論などを手掛かりに現代社会におけるデザインの意味を探求する。
		S1			2	様々な工芸素材や身近な材料を用いた造形活動から、素材の特性とその方法を学び、多様な工芸表現への展開の基礎とする。
			S2		2	各担当教員の専門素材・分野の表現についての講義により理解を深めた後にグループ分けをし、各担当教員の下で造形活動を行い、最後に発表を行う。
			P2		3	木を材料とした表現活動を通して素材の特性と木工芸のプロセスの特質を理解する。さらにそれを基盤としてつくる行為を広げ、木の表現が生み出す新たな可能性を探求する。
			P2		3	陶芸の素材特質やその背景を中心に据えて、粘土から陶芸作品に至るプロセスの実験的体験をする。そのことによって、陶芸でつくることの意義を理解する。
			L2		3	人間にとって道具とは何かという基本的な問題を様々な視点で考えるとともに、工芸概念及び工芸領域の特性について考察する。また、工芸を映し出す鏡としてファインアートについても理解を深める。
			L2		3	(集中) 様々な分野で造形活動を行っている作家によるスライドレクチャーやワークショップを行う。そのことによって、造形活動の広がりや可能性について新たな視点を導入する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	美術分野		L2		2	今日的美術画壇の成立を明治時代に求め、美術が明治を境に、何が変わったか、変わらないものは何か。日本美術のかたちと意味について、歴史的な経過をたどって考察する。
	西洋美術史論		L2		2	水河期から古代ギリシャに至る美術作品を取り上げ、抽象的、観念的、象徴的、自然主義的、写實的、理想主義的、等々、表現の多様性と特質について考察する。
	日本美術史演習		S2		3	美術史・美術理論・美術史実地研究で学んだことを基礎にして、日本美術史の代表的造形作品の諸問題を考察しながら、美術史における論理的思考方法を身につける。
	西洋美術史演習		S2		3	初期ルネサンスからマニエリスムに至る美術史を眺め、ルネサンス美術の全体像を把握し、「未完成」の現象に着目しながら、レオナルド、ミケランジェロ、ラファエロ等の人間像を考察する。
	美術理論・美術史実地研究	P2			3	美術史を身につけるには、現地で古典的な作品に触れることが不可欠である。そこで、古典作品が集中的に現存する奈良・京都で実地に体験する機会を設ける。
	中等美術科指導法（基礎論）	L2			2	美術科の特質を歴史的かつ構造的にとらえ、教科内容の教材化、指導法の基礎的事項について講義する。特に、教育内容と方法について学習する。
	中等美術科指導法（過程論）	L2			3	美術科の特質を歴史的かつ構造的にとらえ、教科内容の教材化、指導法の基礎的事項について講義する。特に、教材開発について学習する。
	中等美術科指導法（教材論）		S2		2	学習者の学びと成長の視点に立った美術科指導の方法について、実践的・応用的な観点から学習する。あわせて工芸科の指導内容を含める。
	中等美術科指導法（方法論）		S2		3	教育実習にかかわり、中等教育における授業実践を事例的に研究し、授業について総合的に学ぶ。あわせて工芸科の指導内容を含める。
	工芸科指導法（基礎論）		L2		3	道具と言語の関係に関する考察や認知心理学等の理論を手掛かりにして、ものをつくる活動の教育的意義について考察する。
	工芸科指導法（過程論）		L2		3	工芸科指導法（基礎論）を受けて、工芸の可能性を生かした研究授業を小・中学校等で行い、それをもとに授業分析などを行う。
	絵画表現セミナーⅠ		S4		3	絵画表現を中心に、実技、理論、教育の総合的な内容から美術と教育を実践的に捉えることによって、学校教育における絵画表現のあり方を探求する。
	絵画表現セミナーⅡ		S4		4	絵画表現セミナーⅠをもとに理論と実践の両面からさらに研究を深め、卒業研究につなげる。
	彫塑表現セミナーⅠ		S4		3	実技、理論、教育の複合的な内容により美術と教育を実践的に捉える。
	彫塑表現セミナーⅡ		S4		4	彫塑表現セミナーⅠをもとに理論と実践の両面から研究を深め卒業研究につなげる。
	デザイン表現セミナーⅠ		S4		3	デザインを実技、理論、教育などの複合的視野からとらえ、デザインに対する問題意識の発芽段階としての活動をおこなう。
	デザイン表現セミナーⅡ		S4		4	デザイン表現セミナーⅠをもとに、個々の問題に対して理論と実践の両面から研究を深め、卒業論文及び卒業制作へ発展させる。
	工芸表現セミナーⅠ		S4		3	工芸表現を中心に、実技、理論、教育の総合的な内容から美術と教育を実践的に捉えることによって、学校教育における工芸表現のあり方を探る。
	工芸表現セミナーⅡ		S4		4	工芸表現セミナーⅠをもとに、理論と実践の両面から研究を深め卒業研究につなげる。
	美術理論・美術史セミナーⅠ		S4		3	造形美術への知的アプローチの方法をトレーニングすることで、鑑賞教育の本質的な意図は何かを考え、具体作品の検討によって、美術教育における鑑賞の諸問題について触れる。
	美術理論・美術史セミナーⅡ		S4		4	作品の見方をトレーニングによって、現在的美術のかかえる問題を考察しながら、美術史における論理的思考方法を身につけ、卒業研究の準備をする。
	美術教育セミナーⅠ		S4		3	美術科教育の専門領域についての研究内容、研究方法にかかわる基礎的な演習を行う。
	美術教育セミナーⅡ		S4		4	美術科教育の専門領域についての研究内容、研究方法にかかわる応用的演習を行う。
	実践セミナーⅠ「美術」	S2			3	各専門セミナーで培った専門性を、教育実習等の実際の授業場面でどのように実践できるか、子どもの現在と教材との基礎かかわりを学ぶ。現職院生との共同セミナー形式。
	実践セミナーⅡ「美術」	S2			4	実践セミナーⅠをもとに、さまざまな実践場面における授業分析等をさらに発展させた形で行い、教育と子どもの現在に対する造形教育の新たな意味と意義を見出す。
専門科目	専門科目					
	実践セミナーⅠ					

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	専門科目					
	保健体育分野					
	体操・器械運動	P1			3	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動などのスポーツ種目としての運動技術の系統性、指導方法、補助（補助を含む）方法などを実技を通して、運動を「覚える－覚えさせる」ことの発生場面を多く体験させる。
	陸上競技	P1			3	陸上競技における走、跳、投の各種目について実践的に学習すると同時に、理論的な理解を深めることにより陸上競技種目の技能の向上と指導力を養う。
	球技		P2		4	球技の中のバスケットボール、バレーボール、サッカーについて、理論的、実践的検討を行い、個人技能及び集団技能を高め、指導力を養う。
	武道		P1		2	体育専修学生を対象に武道（剣道・柔道）の理論と実技について行い、指導力を養う。
	舞踊	P1			3	表現運動、舞踊の実践的学習と理論的理解を通して、指導力と評価への基本姿勢の育成を目指す。
	野外運動A（スキー）		P1		2	クロスカントリースキー、アルペンスキーを中心に雪の野外活動もとりあげ、それぞれの技術の習得と指導法を学習することを目標とする。
	野外運動B（カヌー）		P1		2	運動方法学の立場から野外教育の意味・意義を追求し、野外運動の技能及び指導能力を養う。学外実習を通じて野外生活及びカヌーに関する体験知を深める。
	体育哲学	L2			2	今日の体育・スポーツをとりまく様々な問題を批判・検討する中から、体育の成立根拠を明らかにし、人間性に立脚し体育学の構想と体育教育への発展に資する。
	運動学（運動方法学を含む。）	L2			2	すべてのスポーツ運動は日常的運動から発達したものである。歩、走、跳、投、捕、押す、引く、よじ登る、転がる、泳ぐなどの運動のメカニズムを探り、スポーツ運動への発展過程を考える。
	バイオメカニクス		L2		2	バイオメカニクスに関連する基礎科学の知識、研究方法についてとりあげ、基本的運動である歩、走、跳、打、蹴、泳ぐ、滑るなどの動作分析結果について指導との関連で講述する。
	体育心理学		L2		3	体育・スポーツの諸現象の中から12の“不思議”をとりあげ、動作制御、運動学習、発達、情動等に関する運動心理学的知見をもとに“不思議”の解明を試みる。
	体育経営管理学		L2		3	体育経営管理の営みを理解し、特に学校における体育経営の問題に焦点をあてて望ましい在り方を考えていきたい。そして、より豊かな運動生活を開くには、どのような対策が考えられるであろうか。この授業では、実際の調査資料をもとにして実践に生かす方法を検討する。
	体育社会学		L2		3	体育・スポーツと社会との関係について社会学的な観点より学習する。
	体育解剖学		L2		2	運動を行うときの人体の構造を主に理解するもので、主としてバイオメカニクスとの関連で、運動との関連が深い骨格系、筋系、神経系、感覚器系、呼吸器系、循環器系を中心に、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系といった各器官系の構造について理解する。これら各器官系の構造については、身体運動との関連で体育解剖学的立場からとりあげた講義を行う。
	体育測定評価		S2		3	主として体力測定とそのデータに対する解析や統計解析法などを習得させ、体育・スポーツにおける相関的研究と実験的研究の意義と方法を理解するとともに、種々の測定を通して得た資料の表示および検定の方法を学ぶ。
	生理学	L2			2	生理学は生体の機能とそのメカニズムを明らかにし、その意義を説明する学問である。本講義では、生体を構成する各要素（細胞、組織、器官等）に分解してその個々の機能について述べ、その機能がどのような仕組み（機序）で発現してくるかを系統的に述べる。それを基礎として、生体における各種の運動やその適応過程の機序、および生体全体としての機能やその発現機序を理解できるようにする。運動生理についての関わりも理解する。
	運動生理学		L2		3	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを明らかにし、その意義を説明する学問である。本講義では、運動時の生体機能の調節作用を理解するために、①運動を成立させる生理機能の背景、②運動を支配する神経機能、③運動を発現させる生理機能、④運動を持続させる生理機能について系統的に理解することを目標としている。応用編としては、運動と健康、栄養・休養との関係等についても理解をより深めることを目標にしている。
	生理学実験		P2		4	本実験実習では、基礎的な生理学実験を通して実験装置の取り扱い方、測定の原理と方法、結果の解析法および考察の方法等を習得する。また、小動物（=ラット）を用いて、生理機能を考慮した系統的な解剖実習を行う。
	生理学原書講読		S2		4	生理学、生命科学、運動生理学などの文献を原書（英語）にて理解できるようにするため、演習形式にて輪読する。予習と復習が不可欠である。
	衛生学・公衆衛生学	L2			2	疾病を予防し、健康の保持・増進を図るための臨床医学的、および公衆衛生学的接近について講述する。
	学校健康教育A（救急処置を含む。）	L1			2	健康論、学校保健活動の概要および身体仕組や動き、けがや病気の予防、救急処置等の基礎理論を学習し、個人および集団の健康や健康教育に興味、関心がもてるようになることをねらいとする。
	学校健康教育B（学校安全を含む。）	L2			3	学校保健活動には大別して保健教育、保健管理、保健組織活動の領域がある本授業では保健教育の内容、方法及び指導に必要な基礎的知識について学習する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	保健体育分野	学校健康教育C（小児保健・精神保健を含む。）	L2		4	最近の健康障害は複雑な社会の仕組みに起因するものが多く、学校においても「いじめ」「登校拒否」等心の不安定による異常行動が増加している。また、小児成人病も増加の傾向にあるこれらの現状を知るとともに、教師として学校保健でできる対策について学習する。
		中等保健体育科指導法（課程論）	L2		3	保健体育科のカリキュラムについて問題の所在や課題を検討し、カリキュラムメーカーとしての資質を高める。
		中等保健体育科指導法（教材論）	L2		3	中学校・高等学校の保健体育科で取り上げる教科内容とその指導法について基本的な事項について学習する。
		中等保健体育科指導法（授業論）		L2	3	中学校・高等学校の保健体育科の授業の目標とそれを具体化する内容について学習する。また、学習内容としての運動のとらえ方、学習過程の構成、学習形態の工夫などを単元計画に具体化する演習も行う。
		中等保健体育科指導法（学習論）		L2	3	中学校・高等学校の保健体育科の学習について基本的な事項について検討し、より望ましい学習の成立条件を探索する。
	専門セミナー	運動学セミナーⅠ		S4	3	体操・器械運動、陸上競技、球技、舞踊、武道、スキー、水泳などを理論的および実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		運動学セミナーⅡ		S4	4	体操・器械運動、陸上競技、球技、舞踊、武道、スキー、水泳などを理論的および実践的により深く体系的に理解するため、演習形式およびその他の形式にて学習する。
		体育学セミナーⅠ		S4	3	体育学について理論的及び実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		体育学セミナーⅡ		S4	4	体育学について理論的および実践的により深く体系的に理解するため、演習形式およびその他の形式にて学習する。
		体育心理学セミナーⅠ		S4	3	体育心理学について理論的および実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		体育心理学セミナーⅡ		S4	4	体育心理学について理論的および実践的により深く体系的に理解するため、演習形式およびその他の形式にて学習する。
		バイオメカニクスセミナーⅠ		S4	3	バイオメカニクスについて理論的および実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		バイオメカニクスセミナーⅡ		S4	4	バイオメカニクスについて理論的および実践的により深く体系的に理解するため、演習形式およびその他の形式にて学習する。
		運動生理学セミナーⅠ		S4	3	運動生理学について理論的および実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		運動生理学セミナーⅡ		S4	4	運動生理学について理論的および実践的により深く体系的に理解するため、演習形式およびその他の形式にて学習する。
		健康管理学セミナーⅠ		S4	3	学校保健（特に健康科学）について理論的および実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		健康管理学セミナーⅡ		S4	4	学校保健（特に健康科学）について理論的および実践的により深く体系的に理解するため、演習形式およびその他の形式にて学習する。
		学校保健セミナーⅠ		S4	3	学校保健を理論的および実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		学校保健セミナーⅡ		S4	4	学校保健を理論的および実践的により深く体系的に理解するため、演習形式およびその他の形式にて学習する。
		保健体育科教育セミナーⅠ		S4	3	保健体育科の在り方について理論的および実践的に理解するため、演習形式にて学習する。
		保健体育科教育セミナーⅡ		S4	4	保健体育科の在り方について理論的および実践的な理解をより生かす工夫を演習形式にて学習する。
	実践セミナー	実践セミナーⅠ「保健体育」	S2		3	保健体育に関わる諸問題をセミナー形式で実践レベルで種々学習する。
		実践セミナーⅡ「保健体育」	S2		4	保健体育に関わる諸問題をセミナー形式で体系的に学習する。
	専門科目	生理学	L2		2	生理学は生体の機能とそのメカニズムを明らかにし、その意義を解明する学問である。本講義では、生体を構成する各要素（細胞、組織、器官等）に分解してその個々の機能について述べ、その機能がどのような仕組み（機序）で発現してくるかを系統的に述べる。それを基礎として、生体における各種の運動やその適応過程の機序、および生体全体としての機能やその発現機序を理解できるようにする。
		運動生理学		L2	3	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを明らかにし、その意義を解明する学問である。本講義では、運動時の生体機能の調節作用を理解するために、①運動を成立させる生理機能の背景、②運動を支配する神経機能、③運動を発現させる生理機能、④運動を持続させる生理機能について系統的に理解することを目標としている。応用編としては、運動と健康、栄養・休養との関係等についても理解をより深めることを目標にしている。
		生理学実験		P2	4	本実験実習では、基礎的な生理学実験を通して実験装置の取り扱い方、測定の方法と原理、結果の解析法および考察の方法等を習得する。また、小動物（＝ラット）を用いて、生理機能を考慮した系統的な解剖実習を行う。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	専門科目		S2		4	生理学の文献を原書（英語）にて理解できるようにするため、演習形式にて輪読する。
			L2		2	栄養素の各論、栄養所要量などについて学習する。
			L2		3	食とからだの動き、栄養素やエネルギーの代謝などについて学習する。
			L1		2	食品の種類や成分の特徴、食事計画などについて学習する。
			L1		2	微生物の成育とその環境条件、人間の健康や生活に係深い微生物の特徴について述べる。
			L2		2	運動との関連が深い骨格系、筋系、神経系、感覚器系、呼吸器系、循環器系を中心に、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系といった各器官系の構造について理解する。これら各器官系の構造については、身体運動との関連で体育解剖学的立場からとりあげた講義を行う。
			L2		2	疾病を予防し、健康の保持・増進を図るための臨床医学的、および公衆衛生学的接近について学習する。
			L1		2	健康論、学校保健活動の概要および身体の仕組みや働き、けがや病気の予防、救急処置等の基礎理論を学習し、個人および集団の健康や健康教育に興味、関心がもてるようになることをねらいとする。
			L2		3	学校保健活動には大別して保健教育、保健管理、保健組織活動の領域がある本授業では保健教育の内容、方法及び指導に必要な基礎的知識について学習する。
			L2		4	最近の健康障害は複雑な社会の仕組みに起因するものが多く、学校においても「いじめ」「登校拒否」等心の不安定による異常行動が増加している。また、小児成人病も増加の傾向にあるこれらの現状を知るとともに、教師として学校保健でできる対策について学習する。
			L2		3	中学校・高等学校における保健教科内容および履修形態など教育を展開する上での基本的事項について学習する。
			L2		3	中学校・高等学校における保健教科の特質と目標に合致した教材観を養う。また、学習内容に応じた教材の選択ができるようになるための基礎と教材の適宜性について検討する。
			L2		3	中学校・高等学校における保健教科の目標とそれを具体化する内容について学習する。
			L2		3	中学校・高等学校における保健教科の学習に関する基礎的な事項について学ぶ。
	専門セミナー		S4		3	環境に対する生体の適応とそのメカニズムをセミナー形式で学ぶ。
			S4		4	環境に対する生体の適応とそのメカニズムを実験的及び理論的に検討する。
			S4		3	食と健康についてセミナー形式で学ぶ。
			S4		4	食と健康の問題について実験的及び理論的に検討する。
			S4		3	人体の構造についてセミナー形式で学ぶ。
			S4		4	人体の構造について体系的に学ぶため、セミナー形式、実験的及び理論的に学習する。
			S4		3	ヘルスプロモーションについてセミナー形式で学ぶ。
			S4		4	ヘルスプロモーションについて体系的に学ぶため、セミナー形式およびその他の形式で学習する。
			S4		3	学校保健について行動学の視点からセミナー形式で学ぶ。
			S4		4	学校保健を体系的に理解することを目標にセミナー形式およびその他の形式で学習する。
	実践セミナー		S2		3	各年齢段階における心身と健康の関係をセミナー形式を採用して行動学の視点から学ぶ。
			S2		4	各年齢段階における心身と健康の関係を体系的に理解することを目標にセミナー形式で学ぶ。
	専門科目		S2		3	木材の特徴を知り、設計、部品加工、組立などの工程を経て、木材を生活に役立つ製作品にまとめる基礎的技術を学習する。
			S2		3	角材の性質や接合方法を知り、荷重に対する構造の強さを考慮し、角材を用いた製作品を完成させる能力を身につける。
			S2		3	金属の変形、平行状態図、鉄鋼材料及び非鉄金属材料の基礎を学習し、基本的な塑性・切削・接合の加工技術を習得する。
			L2		4	金属を構成する原子のレベルで加工をとらえる結晶塑性学を体系的に学習しながら、金属加工学の基礎を理解する。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	技術分野	機械工学概論	L2		2	機械製品を作るという観点から、機械の材料、強度、要素、工作について、基本的な学習を行う。
		機械工学実習	P1		3	エネルギーと環境の観点から、内燃機関の性能、排出ガス及び騒音の測定、解析を行い、省エネルギーと環境公害に関して体験的に認識を深める。
		電気工学概論	L2		2	電気に関する基礎的事項を中学校技術教科書の内容と関連付けながら学習し、電気の実践に必要な知識を習得する。
		電気工学実験実習	P1		3	半導体素子を用いて電気回路を製作して特性測定を行ったり、電気機器を動作させながら動特性を測定するなどする。
		栽培学概論	L1		2	品種論、栽培環境論、栽培技術論を中心に、幼・小学校の栽培体験を生かし、中学生に適時的・系統的な発達を期する作物栽培学習を展開する指導者に必要な栽培学の基礎を学習する。
		栽培実習	P1		3	水稻作を行い、一般的栽培法や試験研究で行っている各種の調査法等を修得する。
		情報基礎（実習含む。）	S2		2	情報とその処理、コンピュータの歴史、基礎事項、ハードウェア、ソフトウェア、情報システム等について学習する。
		情報システム工学	L2		3	最新の研究事例を交えながら、システム的思想に基づく情報システムの開発、設計、運用などの合理的な方法論についての基礎を理解する。
		情報システム工学演習		S2	4	ハードウェアとソフトウェアの学習のため、エレクトロニクスを中心とする実験を行いパソコン及びワークステーションと最新のコンピュータネットワークを用いた演習を行う。
		中等技術科指導法（基礎論）	L2		2	技術科教育の1）社会的役割と基底論・能力発達論、2）国内外の技術・技術科教育の歴史の変遷論、3）学習指導要領と研修論、4）学習指導・支援と授業実践論、5）安全教育論、6）実習・学習環境構成論の基礎を学ぶ。
		中等技術科指導法（課程論）	L2		3	技術科教育課程の意義、歴史の変遷、編成論を学習する。特に、技術科教育課程編成の1）主体・役割責任・原則、2）視点、3）編成の手順と実施・改善法について学習する。
		中等技術科指導法（学習論）		L2	4	技術科の学びの総合化をはかる学習理論と実践法について追究する。さらに、指導・支援と評価の一体化をはかるために、技術科教育の量的・質的評価法について修得する。
		中等技術科指導法（原理・教材・授業論）	L2		2	技術教育の必要性と教育的意義及び技術科の歴史を踏まえた上で、技術科の教材と授業方法について講述する。
	専門セミナー	金属加工・技術史セミナーⅠ		S4	3	金属加工をより専門的に学習し、関係する深い知識・技能及び実践力を身に付ける。希望者には技術史の専門セミナーも開設する。
		金属加工・技術史セミナーⅡ		S4	4	金属加工を専門的に検討し、関係する卒業研究を行うのに必要となる能力を養成する。希望者には技術史の専門セミナーも開設する。
		メカトロニクスセミナーⅠ		S4	3	メカトロニクスに関する機械の機構、機械要素について専門的に学習し、減速器、リンク機構などの機械ユニットの設計・製作を通して、機械の仕組みや運動の伝達を深く理解する。
		メカトロニクスセミナーⅡ		S4	4	メカトロニクスに関する機械の機構、機械要素についてより専門的に学習し、ロボット、工作機械の事例研究を通して、機械設計・製作のより高度な知識・技能を習得する。
		基礎電気理論セミナーⅠ		S4	3	卒業研究などの総合的な研究を行うために必要となる基礎的な事柄、特に電気回路などを研究する上で必要となる基礎的事項や研究態度・方法の基礎を学ぶ。
		基礎電気理論セミナーⅡ		S4	4	基礎電気理論セミナーⅠで学んだ事柄を基に、更に実践的な事柄、特に電気回路やメカトロニクスなどを研究する上で必要となる応用力や実践力を学ぶ。
		情報工学セミナーⅠ		S4	3	情報処理の基本的概念を各種アプリケーションソフトウェアを通して理解することを目的とし、情報、情報処理、情報工学とはそれぞれ何かについて議論する。
		情報工学セミナーⅡ		S4	4	データベースシステムなど社会システムの基幹をなすアプリケーションにより、情報工学の概念、技法について深く理解する。
		情報科学セミナーⅠ		S4	3	情報科学の幅広い分野、特にエレクトロニクス、協調分散問題解決、プログラミング、情報通信、神経回路網、人工生命、複雑系等から題材をとりセミナーをおこなっていく。
		情報科学セミナーⅡ		S4	4	情報科学セミナーⅠを継続して行う。
		技術科教育セミナーⅠ		S4	3	技術教育・技術科教育における「ものづくり」「情報と技術的活動」「生命育成」が、児童・生徒の陶冶や身体感覚・感性・人格の発達をうながすことに注目し、児童・生徒の学びの変容に着目した実践的研究の基礎を学ぶ。
		技術科教育セミナーⅡ		S4	4	技術教育・技術科教育における「ものづくり」「情報と技術的活動」「生命育成」が、児童・生徒の陶冶や身体感覚・感性・人格の発達をうながすことに注目し、児童・生徒の学びの変容に着目した研究法を学ぶ。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	技術分野 技術科教育・木材加工セミナーⅠ		S4		3	技術科の教材と授業、木材加工についてより専門的に学習し、これらに関係する深い知識・技能及び実践力を身に付ける。
			S4		4	技術科の教材と授業、木材加工について専門的に検討し、これらに関係する卒業研究を行うのに必要となる能力を養成する。
	実践セミナーⅠ「技術」	S2			3	技術科の教育実践現場を知り、授業の原理・内容・方法的な理解を行い、基礎的な教育実践力を養成する。
		S2			4	技術科の教育実践現場を観察して、生起する諸問題の解決方法を検討し、教育実践力を伸張する。
	家庭分野 家族関係Ⅰ	L1			2	人の一生と家族生活・福祉、家族関係の法則性。
			L1		3	人の一生と家族・福祉に関する実践的課題分析。
		L1			2	家庭の経済生活、社会の変化と消費生活、消費生活と環境との関わり。
			L1		3	家庭の経済生活・消費生活と環境に関する実践的課題分析。
		L1P1			2	被服製作の理論、構成法などの講義と実習を行う。
		L2			2	被服に関する基礎的事項についての講義
			L1		3	被服計画、衣服と健康に関する講義
			L1		3	衣服と環境、及び衣服と人の健康などとの関わりに関する講義
			P1		3	被服構成学、被服衛生学などに関連する実験を行う。
			P1		3	被服材料学、被服整理学などに関連する実験を行う。
		L1P1			2	調理の理論、調理操作法、食卓構成などの講義と実習。
		L2			2	栄養素の各論、栄養所要量などの講義。
		L1			2	食品の種類や成分の特徴、食事計画などの講義。
		L1			2	食品の保蔵・加工、食と安全（食品衛生）などの講義。
			L2		3	食とからだの動き、栄養素やエネルギーの代謝などの講義。
			P1		3	栄養学、食品科学などに関連する基本実験。
			P1		3	食品加工の実験実習および調理科学実験。
		L2			2	住まい方および住環境に関する基本的事項の講述。
			L2		2	人間の誕生から、死に至るまでの加齢に伴って変化する、住居空間と生活設計について論述する。さらに、人間として健康的・快適に暮らすための住環境・地球環境について、総合的に加齢との関連で考察する。
		L2			3	生命誕生を含む人間の成長・発達のメカニズムについて理解を深める。発達初期における保育と環境の問題に重点を置く。
		L2			2	家族を構成する者の疾病予防、および疾病発生時の看護の方法について解説する。
			S2		3	乳幼児と乳幼児の子育てに係わる家族を研究対象として、乳幼児の発達と家族個々人の自立を統合的に保障することを意図した研究の在り方及び具体的な研究方法について基礎的理解を図る。
		L2			4	暮らしの中で利用されている電気及び機械に関する基礎的事項、及び活用・保守・点検に必要な知識について学習する。また、コンピュータを暮らしに活用するための基本的な知識・技能について学習する。
			L2		2	家庭科の教科論、本質に照らした中学校・高等学校家庭科における育成すべき能力と教育内容、履修形態等中等家庭科教育を展開する上での基本的事項を論述する。また、国際的視点からもカリキュラムの検討・考察を行う。
			L2		2	中等教育における家庭科の特質と目標に適した教材観を養う。さらに、各段階の家庭科学習に応じた教材の選択ができるようになるとともに、教材の適宜性を検討する。また、教育段階や各領域における教材の開発を試みる。
			L2		3	教科の本質、目標、内容を踏まえて、有効に教育を進めるための指導法、すなわち指導計画における目標の押さえ方、適切な教材の導入方法、学習者への興味・関心・意欲を喚起する指導過程のあり方等について論述する。
			L2		3	生活を科学的に実践する能力（中学校）を養う授業、生活を創造する能力（高等学校）を養う授業のためにはどのような授業展開・工夫が必要かを考える。さらに、マイクロティーチングによる授業場面の検討・考察を行う。
専門セミナー	家庭経営学セミナーⅠ		S4		3	家庭経営に関連した基礎的演習。
	家庭経営学セミナーⅡ		S4		4	家庭経営の卒業研究に関連した演習。
	被服学セミナーⅠ		S4		3	被服学に関連した内容の文献講読および被服学に関する基礎科学的理解を深める。

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	家庭分野					
	被服学セミナーⅡ		S4		4	被服学に関連した内容の文献講読および被服学に関する基礎科学的理解を深める。
	食科学セミナーⅠ		S4		3	食科学関係の文献講読および基礎的事柄について学習し、科学的思考力を養う。
	食科学セミナーⅡ		S4		4	食科学セミナーⅠをさらに発展させる。
	保育学セミナーⅠ		S4		3	現代の子どもの生活環境にある諸々の問題を子どもの現実の生活に即して把握すると共に、子どもの発達を保障する生活環境の在り方について関係論文と資料を精読しながら考究する。
	保育学セミナーⅡ		S4		4	保育学セミナーⅠの各自の課題をさらに発展させるために、関係論文の精読と討論を重ね、子どもの発達保障に関わる諸問題について追求する。
	家庭科教育学セミナーⅠ		S4		3	生まれてから死までの個人及び家族の発達、生活の自立と衣・食・住の視点からとらえた、教科論、課程論、指導論、授業論、教材論等について、授業実践を通して体験的・総合的に調査・研究する。
	家庭科教育学セミナーⅡ		S4		4	家庭科教育学セミナーⅠの内容に関して、調査研究・教育実践を発展的・体系的に積み上げて、カリキュラム開発、教材開発、授業開発等を実証的にすすめる、具体的な教育研究の成果としてまとめていく。
	実践セミナーⅠ「家庭」	S2			3	家庭科の授業場面や教育実践現場で生起する問題の実体を把握・理解する力を養うことを目指す。
	実践セミナーⅡ「家庭」	S2			4	家庭科の授業場面や教育実践現場で生起する問題を解決する力を養うことを目指す。

その他

区 分	授 業 科 目	必修・選択等の区分			標準 履修 年次	科 目 概 要
		必修	選択	自由		
専門科目	学芸員					
	博物館概論			L2	2	博物館の機能、社会教育における役割について理解を深め、学芸員に必要な基礎を身に付け、博物館の考え方とその世界を展望し、合わせて学校教育における博物館施設の利用、生涯学習における活用について考察する。
	博物館経営・情報論			L2	2	博物館経営論においては、博物館の施設や設備、博物館の組織や職員体制、行財政、あるいは博物館の機能と業務、教育・普及活動など、博物館経営の全般について講述する。博物館情報論においては、博物館における情報の重要性とその意義、活用の方法について講述する。
	博物館資料論			L2	2	博物館の学芸員に必要な基礎学力を身に付ける。自然史博物館、歴史民俗系の博物館、美術文化財の芸術博物館の3分野にわたって、博物館の考え方とその世界を展望する。
	博物館実習			P3	3	博物館または博物館に準ずる機関において、学芸員資格を得るために必要な実習を行い、博物館の業務内容や学芸員のあり方などについて、実践的な体験学習を通して理解を深める。
	社会教育主事					
	社会教育演習Ⅰ			S2	3	国立妙高少年自然の家など、近隣にある社会教育施設において、その専門スタッフの協力を得て、特に子どもを対象とした活動（キャンプ、レクリエーションなど）の企画・運営・実施などを実際に体験してもらう。
	社会教育演習Ⅱ			S2	3	社会教育演習Ⅰと同じように、近隣にある社会教育施設において、その専門スタッフの指導のもとに、社会教育計画の理論と実際について実践的に学習する。グループにわかれて学習の結果したことについて討議を行う。
	学校図書館司書教諭					
	学校経営と学校図書館			L2	3	学校図書館の教育的意義と効果的に達成する上で考慮されるべき学校経営の課題領域と諸方策について、関連法令を踏まえ、さらに具体的事例を織り込んで講義する。
	学校図書館メディアの構成			L2	3	図書館資料の種類と特質について概説し、資料の選択に関わる諸要素とコレクション形成の方途についての理解を深めさせる。その上で、資料提供と蔵書構成の意義を考察しながら、目録法、分類法についての理解を深め、学校図書館メディアの構成に関する全般的な理解の深化と実務能力の育成を図る。
	学習指導と学校図書館			L2	3	教育課程と学校図書館とのかかわりを、理論的・実践的にとらえながら、学習過程における学校図書館メディアの活用の実践について、教師あるいは児童生徒の側から、具体的に理解させる。
	読書と豊かな人間性			L2	3	読書の豊かな人間性育成・心の教育における意義を論じることから始め、発達段階に応じた読書指導や計画の立案、図書の活用法を指導し、ひいては具体的かつ実践的な読書の指導方法等について解説する。また、読書を通じた家庭・学校・地域・公共図書館等との連携の仕方についても学ぶ。
	情報メディアの活用			L2	3	学校図書館における多様なメディアの活用の必要性和、その現状と問題点について論ずる。また、各種メディアの特性と教育的機能及びそれぞれの操作方法・利用技術に関する知識理解と実践的活用能力の育成を図る。さらに、学校における学習センター・情報センターとしての学校図書館を活用できる学習環境の整備とそのあり方の理解、及び生涯学習の視点にたった学習支援環境としての学校図書館の役割に関する理解を図る。